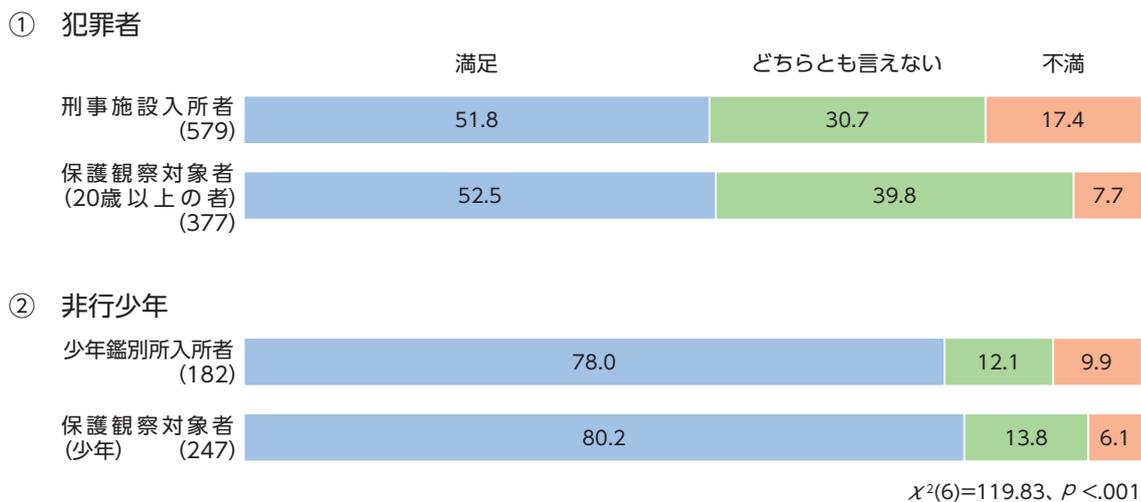


ア 対象者の身分別の比較

家庭生活にどのくらい満足しているか（以下「家庭生活に対する満足度」という。）について、「満足」（「満足」及び「やや満足」の合計。以下この項において同じ。）、「どちらとも言えない」、「不満」（「不満」及び「やや不満」の合計。以下この項において同じ。）の3カテゴリーに統合した上で、各カテゴリーの構成比を対象者の身分別に見ると、2-1-1図のとおりである。 χ^2 検定及び残差分析の結果、刑事施設入所者及び保護観察対象者（20歳以上の者）共に、「満足」の構成比が有意に低く、刑事施設入所者は、「不満」の構成比が有意に高かった一方で、保護観察対象者（20歳以上の者）は、「不満」の構成比が有意に低かった。また、少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）共に、「満足」の構成比が有意に高く、保護観察対象者（少年）は、「不満」の構成比が有意に低かった。

2-1-1図 家庭生活に対する満足度（対象者の身分別）

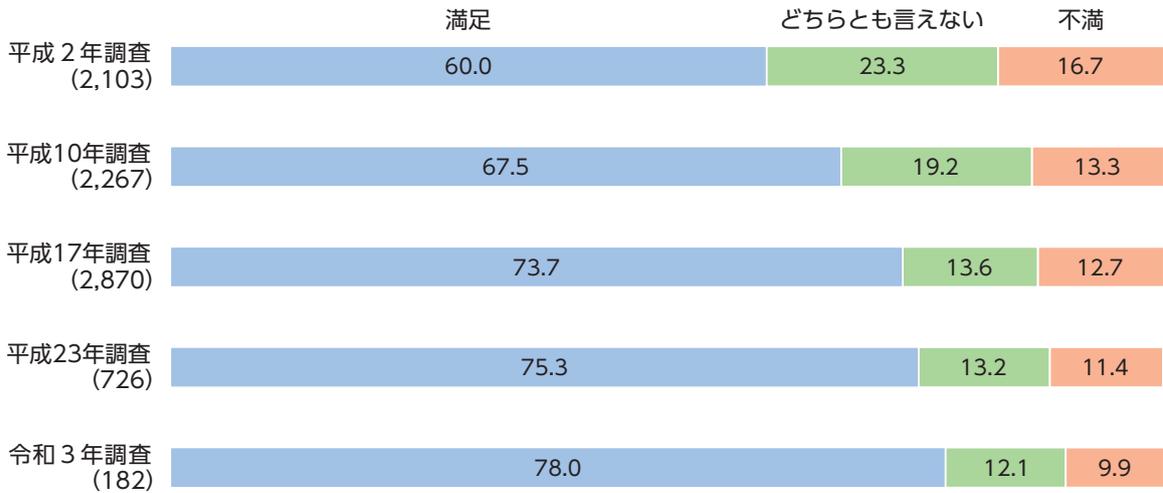


- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 家庭生活に対する満足度が不詳の者を除く。
 3 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計した構成比であり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計した構成比である。
 4 ()内は、実人員である。

イ 前回までの調査との比較

少年鑑別所入所者について、家庭生活に対する満足度を前回までの調査と比較すると、2-1-2図のとおりである。今回及び過去4回の調査結果を比較すると、「満足」の構成比は上昇し続けており、「不満」の構成比は低下し続けている。 χ^2 検定及び残差分析の結果、「満足」の構成比は、平成2年調査において有意に低く、17年、23年及び令和3年の各調査において有意に高かった。「不満」の構成比は、平成2年調査において有意に高く、17年調査において有意に低かった。

2-1-2図 少年鑑別所入所者 家庭生活に対する満足度（前回までの調査との比較）



$\chi^2(8)=141.50, p<.001$

【参考 若年犯罪者（刑事施設入所者）】



- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 家庭生活に対する満足度が不詳の者を除く。
 3 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計した構成比であり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計した構成比である。
 4 () 内は、実人員である。

ウ 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較等

家庭生活に対する満足度を犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを犯罪・非行進度別に見ると、2-1-3表のとおりである。 χ^2 検定及び残差分析の結果、犯罪者においては、有意な差が認められなかった。非行少年においては、中群では、「満足」の構成比が有意に高かったが、高群では、「満足」の構成比が有意に低く、「不満」の構成比が有意に高かった。

また、過去の調査結果から、非行少年では保護処分歴のない者において家庭生活に対する満足度が高い傾向が見られたことから、犯罪者・非行少年別に見るとともに、保護処分歴別（「保護処分歴なし」、「少年院送致歴あり」、「保護観察又は児童自立支援施設等送致歴あり」の3類型に分類した。複数の保護処分歴を有する場合、少年院送致歴がある者は「少年院送致歴あり」に、それ以外の者は「保護観察又は児童自立支援施設等送致歴あり」に計上している。）に見たところ、 χ^2 検定及び残差分析の結果、犯罪者では、保護処分歴のない者において、「満足」の構成比が有意に低く、「不満」の構成比が有意に高かったのに対し（満足49.8%、不満

15.5%)、保護観察又は児童自立支援施設等送致歴のある者において、「満足」の構成比が有意に高く、「不満」の構成比が有意に低かった（満足63.8%、不満2.9%）（ $\chi^2(4)=14.79$ 、 $p=.005$ ）。他方で、非行少年では、保護処分歴のない者において、「不満」の構成比が有意に低く（5.6%）、少年院送致歴のある者において、「不満」の構成比が有意に高かった（26.5%）（ $\chi^2(4)=18.79$ 、 $p=.004$ ）。

さらに、一般に配偶者ありの者は未婚の者に比べ生活の満足度が高いことが知られていることから、犯罪者について、婚姻状況別（「未婚」、「配偶者あり」、「離婚又は死別」の3類型に分類した。）に見たところ（「配偶者あり」、「離婚又は死別」の割合が極端に低い非行少年については分析から除外した。）、 χ^2 検定及び残差分析の結果、配偶者がある者においては、「満足」の構成比が有意に高く、「不満」の構成比が有意に低かったのに対し（満足68.0%、不満8.1%）、未婚の者及び離婚又は死別した者においては、「満足」の構成比が有意に低かった（それぞれ46.2%、46.3%）（ $\chi^2(4)=35.79$ 、 $p<.001$ ）。

2-1-3表

家庭生活に対する満足度（犯罪者・非行少年別、犯罪・非行進度別）

区分	犯罪・非行進度	総数	満足	どちらとも言えない	不満	χ^2 値
犯罪者	低群	372 (100.0)	209 (56.2)	123 (33.1)	40 (10.8)	6.432
	中群	324 (100.0)	167 (51.5)	109 (33.6)	48 (14.8)	
	高群	214 (100.0)	101 (47.2)	78 (36.4)	35 (16.4)	
非行少年	低群	147 (100.0)	122 (83.0)	18 (12.2)	7 (4.8)	13.360**
	中群	104 (100.0)	△ 90 (86.5)	9 (8.7)	5 (4.8)	
	高群	151 (100.0)	▽ 107 (70.9)	24 (15.9)	△ 20 (13.2)	

注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 家庭生活に対する満足度が不詳の者を除く。
 3 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計した人員であり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計した人員である。
 4 ***は $p<.001$ 、**は $p<.01$ 、*は $p<.05$ を示す。 p 値は、 χ^2 検定による漸近有意確率である。
 5 △は残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いことを、▽は少ないことを示す（ $p<.05$ ）。
 6 ()内は、構成比である。

(2) 家庭生活に対する不満の理由

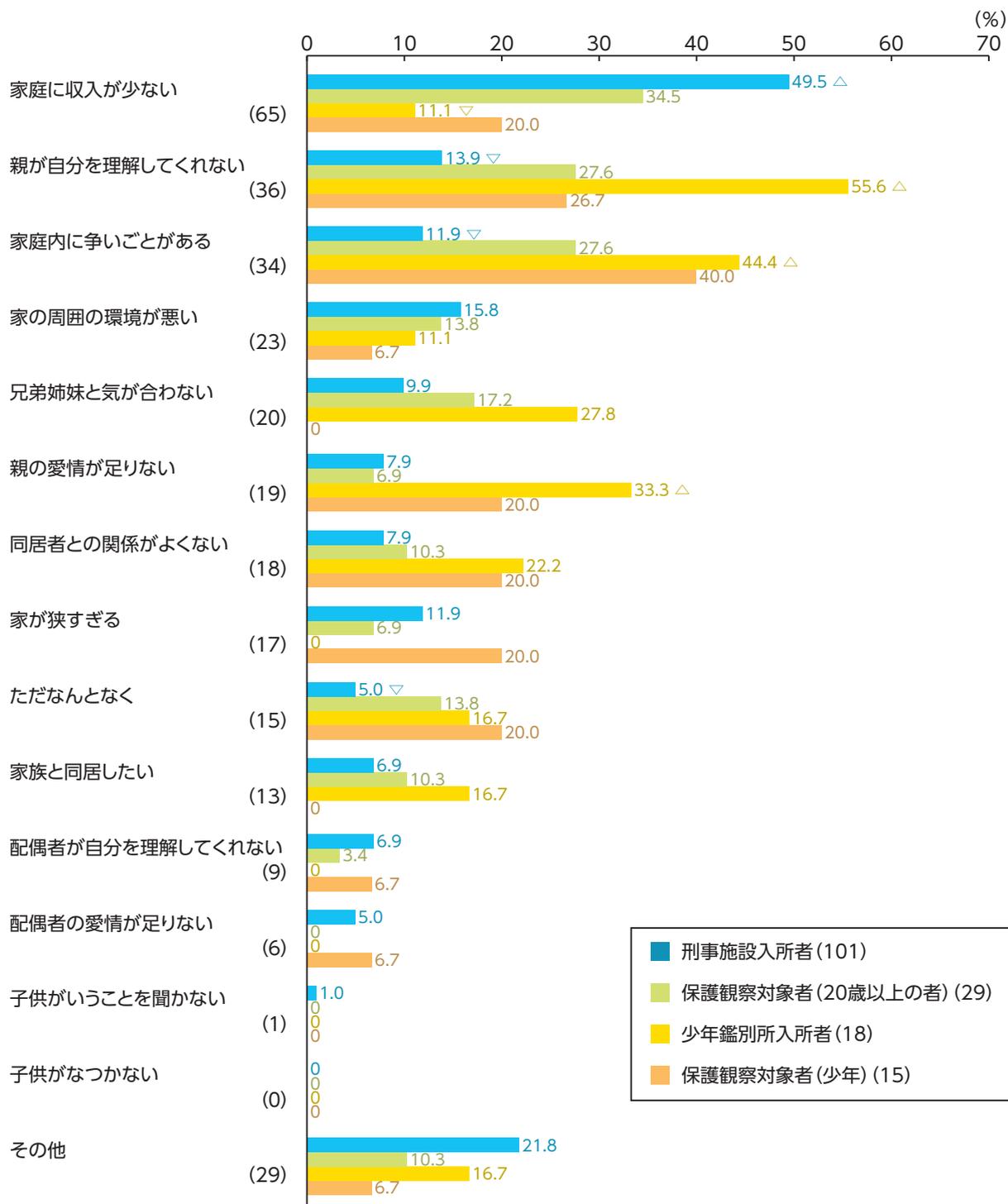
ア 対象者の身分別の比較

家庭生活に対する不満の理由について（「家庭生活に対する満足度」において、「不満」に該当した者に限る。以下この項において同じ。）、対象者の身分別に見ると、2-1-4図のとおりである。対象者の身分別に該当率を比較すると、刑事施設入所者及び保護観察対象者（20歳以上の者）は、該当率の最も高い項目が「家庭に収入が少ない」で共通していた。次いで、刑事施設入所者では、「その他」を除くと、「家の周囲の環境が悪い」、「親が自分を理解してくれない」の順に該当率が高く、保護観察対象者（20歳以上の者）では、「親が自分を理解してくれ

ない」、「家庭内に争いごとがある」の該当率が同率で高かった。一方、少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）では、該当率の上位2項目が「親が自分を理解してくれない」及び「家庭内に争いごとがある」で共通しており、少年鑑別所入所者では、「親が自分を理解してくれない」、「家庭内に争いごとがある」の順で、保護観察対象者（少年）では、その逆の順で、それぞれ該当率が高かった。 χ^2 検定及び残差分析の結果、「家庭に収入が少ない」は、刑事施設入所者の該当率が有意に高い一方で、少年鑑別所入所者の該当率が有意に低く、「親が自分を理解してくれない」及び「家庭内に争いごとがある」は、刑事施設入所者の該当率が有意に低い一方で、少年鑑別所入所者の該当率が有意に高かった。

2-1-4 図

家庭生活に対する不満の理由 (対象者の身分別)



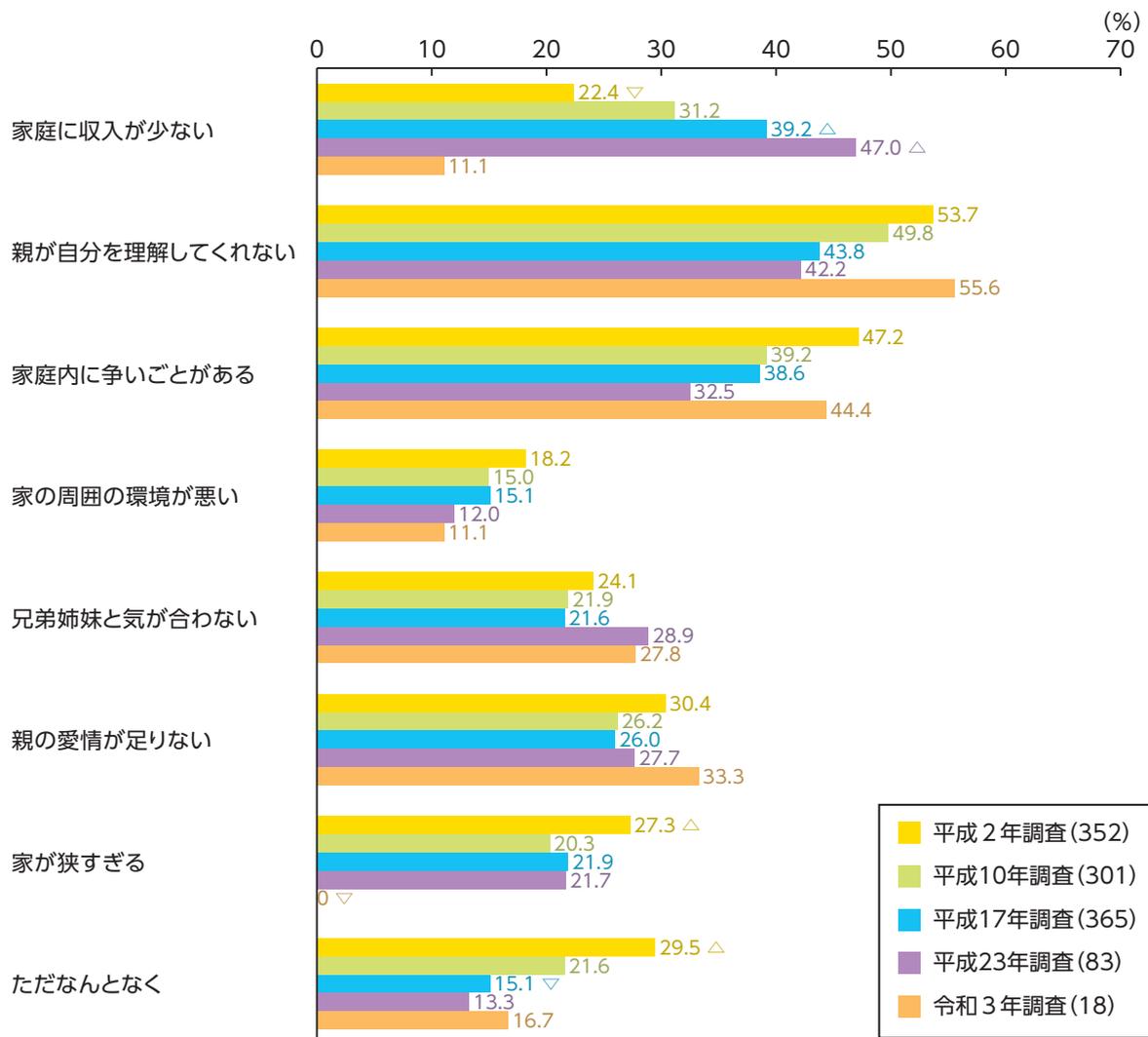
注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 Q1において「不満」(「不満」及び「やや不満」)に該当した者に占める各項目に該当した者(重複計上による。)の割合である。
 3 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す($p < .05$)。ただし、度数が少ない場合は、モンテカルロ法を使用した検定による。
 4 凡例の()内は、対象者の身分別の実人員であり、縦軸の()内は、各項目に該当した者の人員である。
 5 「配偶者」は、内縁関係及び事実婚を含む。
 6 「子供」は、内縁関係及び事実婚のパートナーの子供を含む。

イ 前回までの調査との比較

少年鑑別所入所者について、家庭生活に対する不満の理由を前回までの調査と比較すると、2-1-5図のとおりである。今回及び過去4回の調査結果を比較したところ、「親が自分を理解してくれない」及び「親の愛情が足りない」の該当率は、令和3年調査が最も高く、「家庭に収入が少ない」、「家の周囲の環境が悪い」及び「家が狭すぎる」の該当率は、同調査が最も低かった。

2-1-5図

少年鑑別所入所者 家庭生活に対する不満の理由(前回までの調査との比較)



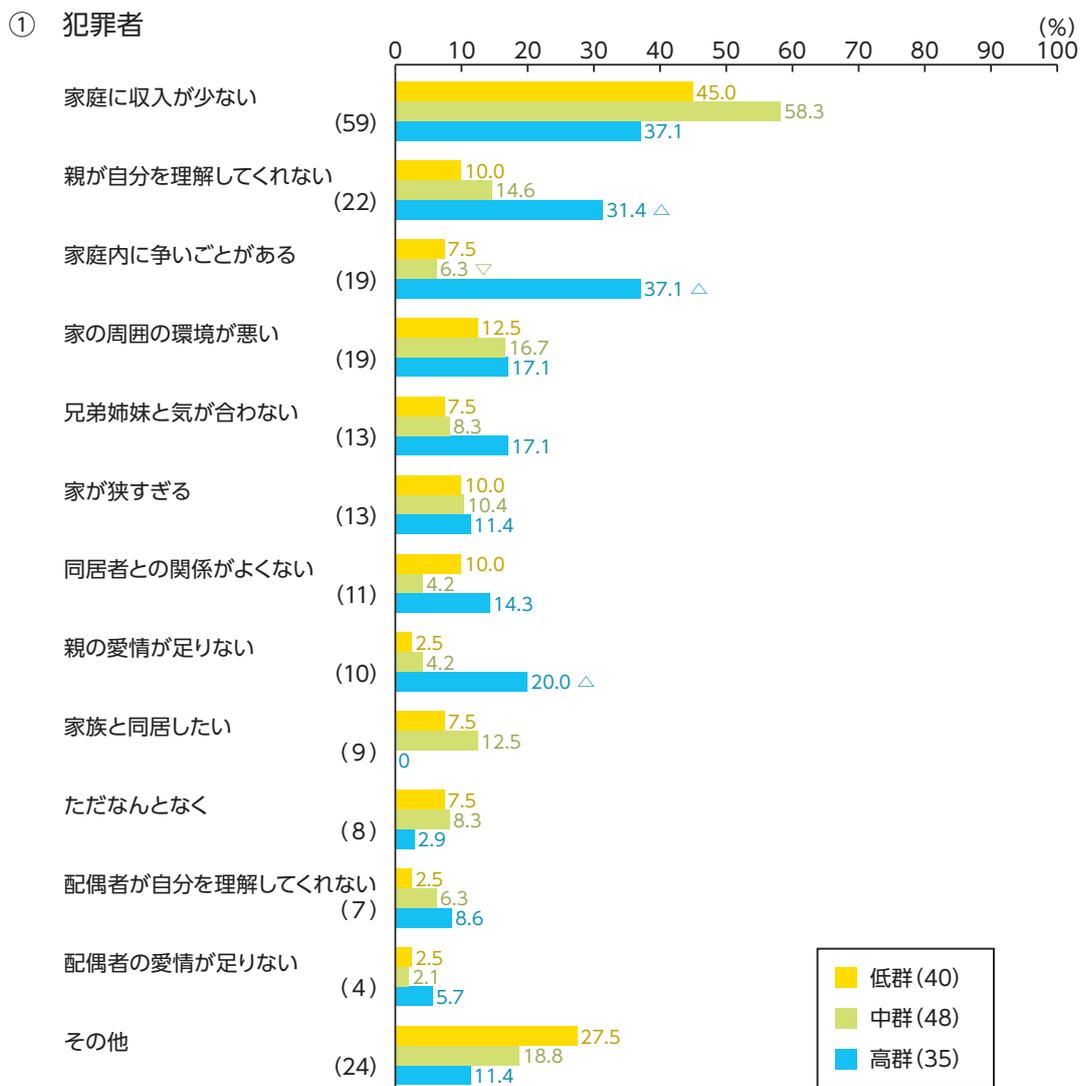
注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 Q1において「不満」(「不満」及び「やや不満」)に該当した者に占める各項目に該当した者(重複計上による。)の割合である。
 3 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す($p < .05$)。
 4 凡例の()内は、調査年別の実人員である。
 5 前回までの調査との比較が困難なものは、除外した。

ウ 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較

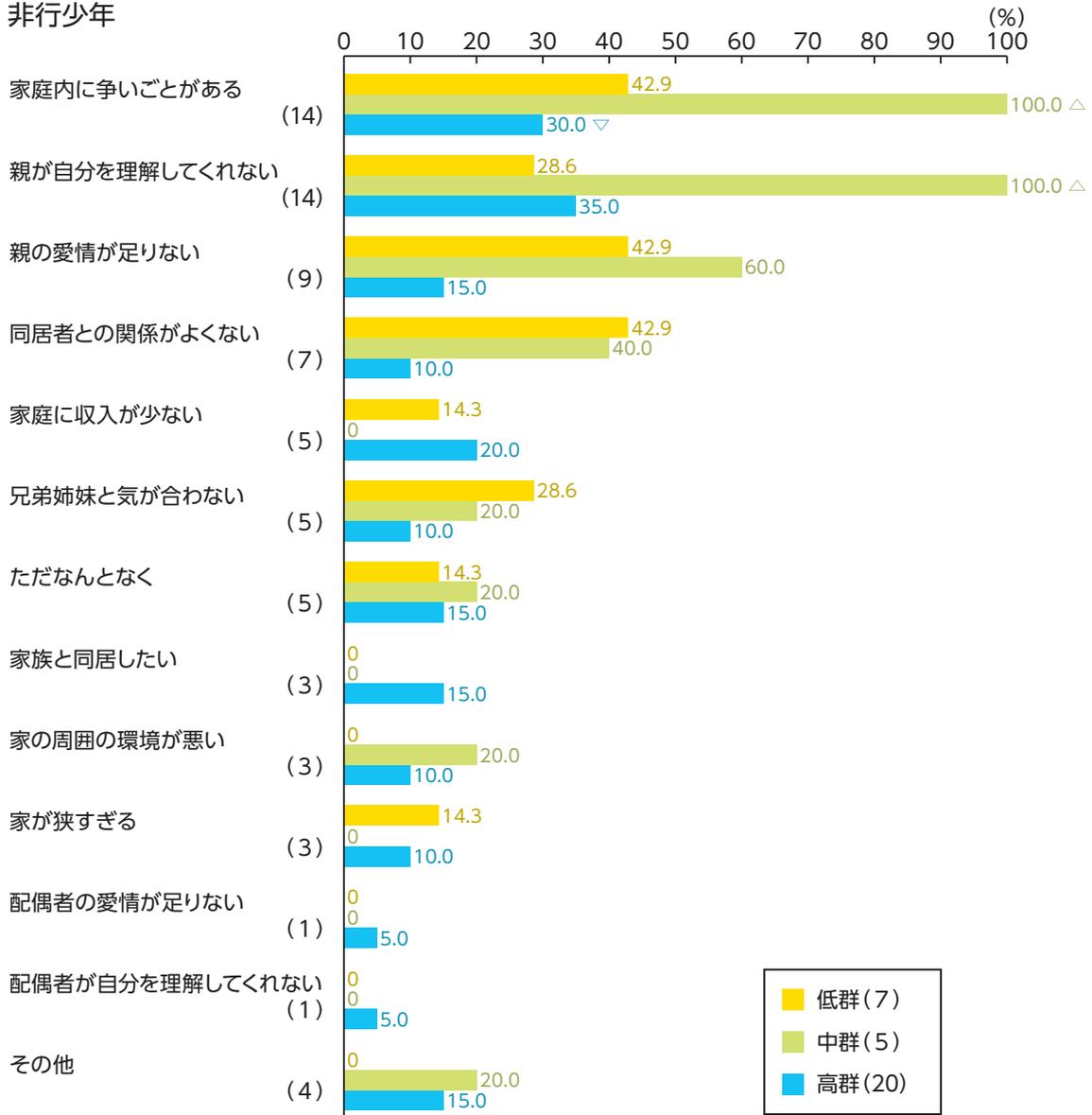
家庭生活に対する不満の理由を犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを犯罪・非行進度別に見ると、2-1-6図のとおりである。 χ^2 検定及び残差分析の結果、犯罪者では、「親が自分を理解してくれない」、「家庭内に争いごとがある」及び「親の愛情が足りない」の各項目の該当率が高群において有意に高かった。非行少年では、そもそも「不満」の該当者が少なく、高群が有意に多い（低群7人、中群5人、高群20人。2-1-3表参照）という特徴がある中で、「家庭内に争いごとがある」及び「親が自分を理解してくれない」の該当率が中群において有意に高く、100%であった一方で、「家庭内に争いごとがある」の該当率が高群において有意に低かった。

2-1-6図

家庭生活に対する不満の理由（犯罪者・非行少年別、犯罪・非行進度別）



② 非行少年



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 Q1において「不満」(「不満」及び「やや不満」)に該当した者に占める各項目に該当した者(重複計上による。)の割合である。
 3 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す($p<.05$)。ただし、度数が少ない場合は、モンテカルロ法を使用した検定による。
 4 凡例の()内は、犯罪・非行進度別の実人員であり、縦軸の()内は、各項目に該当した者の人員である。
 5 全項目のうち、該当者がいなかった項目を除く。

(3) 家族との関係

Q2 あなたは、家の中で、次のこと（ア～キ）を感じたり思ったりしたことがありますか。

あてはまる番号に○をひとつだけつけてください。

質問があてはまらない場合は、「4まったくない」と回答してください。

- ア 家族との話を楽しいと感じることが・・・
- イ 家では自分の部屋などでひとりでいたいと思うことが・・・
- ウ 自分の将来について、家族（親）に話したいと思うことが・・・
- エ 自分が何をしても、家族（親）があまり気にしていないと感じることが・・・
- オ 家族（親）がきびしすぎると感じる・・・
- カ 家族（親）のいうことは、気まぐれであると感じることが・・・
- キ 家族（親）が自分のいいなりになりすぎると感じる・・・

(選択肢)

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

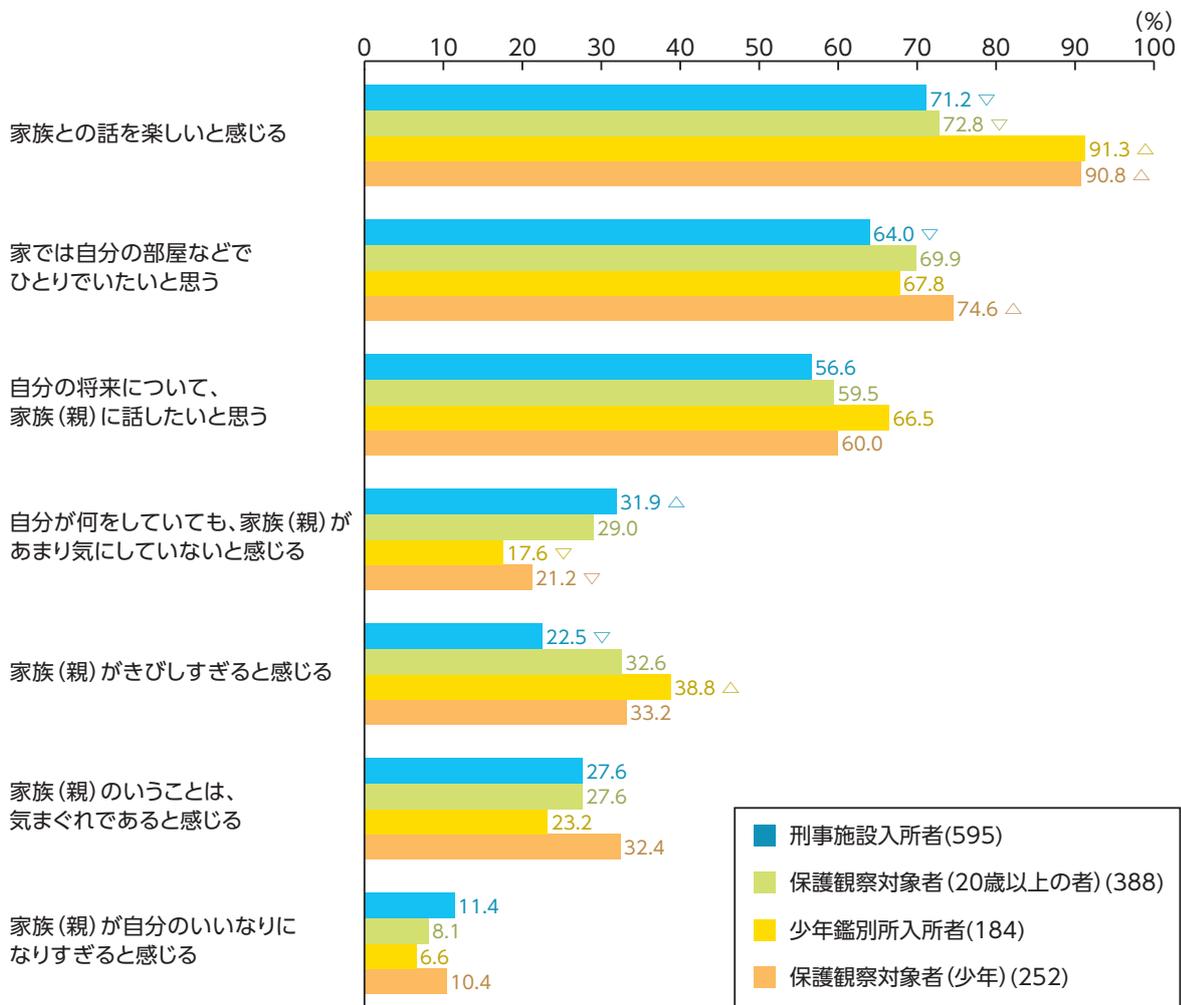
※ 質問項目ウ～キについて、犯罪者用の質問紙では「家族」、非行少年用の質問紙では「親」とした。

ア 対象者の身分別の比較

家族との関係に関する各項目について、「ある」（「よくある」及び「ときどきある」の合計。以下この項において同じ。）に該当した者の構成比を対象者の身分別に見ると、2-1-7図のとおりである。各項目の構成比を比較すると、いずれの対象者においても、「家族との話を楽しいと感じる」、「家では自分の部屋などでひとりでいたいと思う」、「自分の将来について、家族（親）に話したいと思う」の順で構成比が高く、「家族（親）が自分のいいなりになりすぎると感じる」の構成比が最も低かった。身分別に比較すると、 χ^2 検定及び残差分析の結果、「家族との話を楽しいと感じる」の構成比は、刑事施設入所者及び保護観察対象者（20歳以上の者）共に有

意に低く、少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）共に有意に高かった。また、「自分が何をしても、家族（親）があまり気にしていないと感じる」の構成比は、刑事施設入所者において有意に高く、少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）共に有意に低かった。そのほか、刑事施設入所者において構成比が有意に低かった項目は、「家では自分の部屋などでひとりでいたいと思う」及び「家族がきびしすぎると感じる」、少年鑑別所入所者において構成比が有意に高かった項目は、「親がきびしすぎると感じる」、保護観察対象者（少年）において構成比が有意に高かった項目は、「家では自分の部屋などでひとりでいたいと思う」であった。

2-1-7図 家族との関係（対象者の身分別）



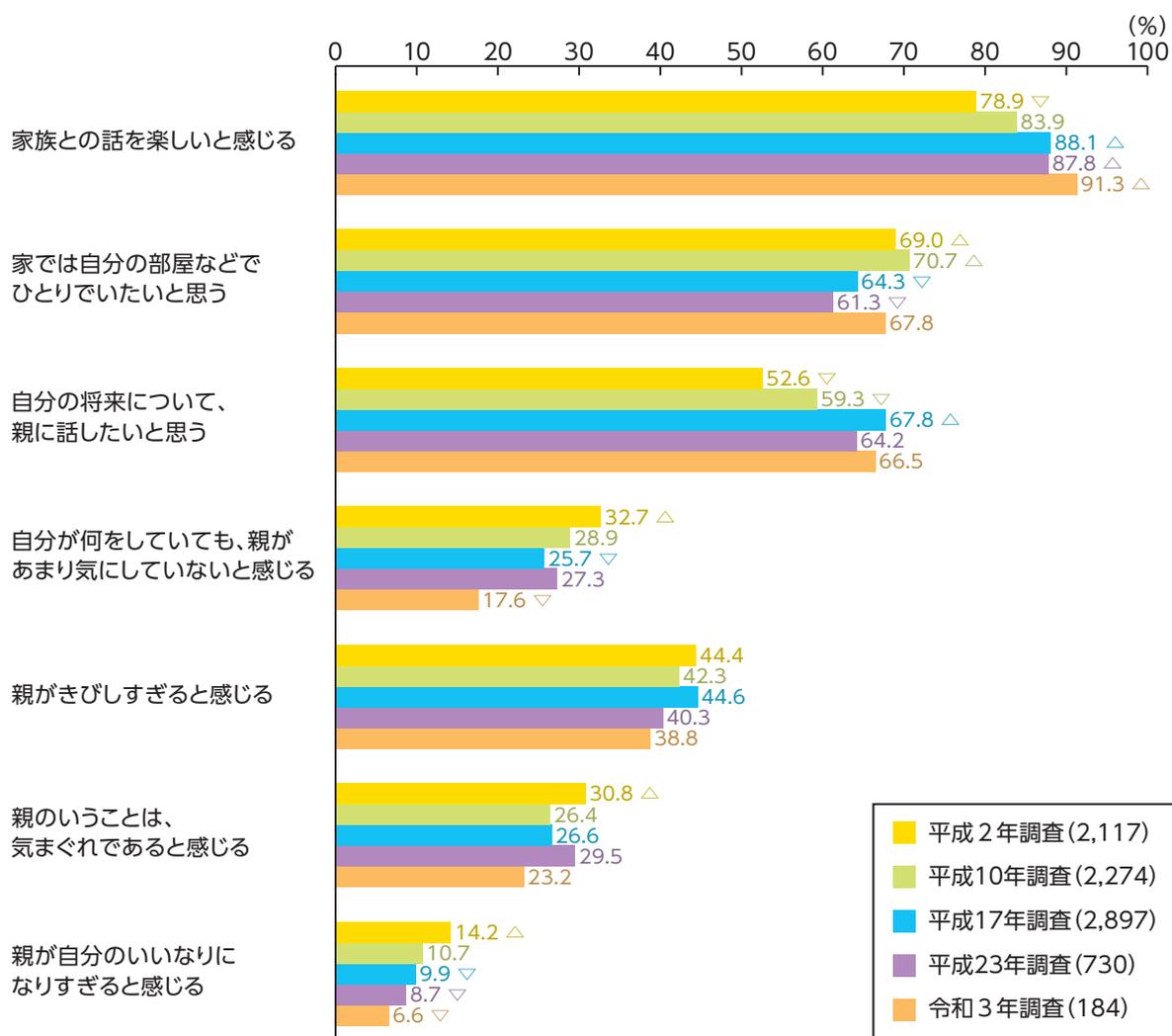
注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 家族との関係の各項目が不詳の者を除く。
 3 各項目について、「よくある」及び「ときどきある」を合計した構成比である。
 4 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す($p < .05$)。
 5 凡例の()内は、対象者の身分別の実人員である。

イ 前回までの調査との比較

少年鑑別所入所者について、家族との関係に関する各項目について、「ある」に該当した者の構成比を前回までの調査と比較すると、2-1-8図のとおりである。今回及び過去4回の調査結果を比較したところ、「家族との話を楽しいと感じる」の構成比は、令和3年調査が最も高く、「自分が何をしても、親があまり気にしていないと感じる」、「親がきびしすぎると感じる」、「親のいうことは、気まぐれであると感じる」及び「親が自分のいいなりになりすぎると感じる」の構成比は、同調査が最も低かった。

2-1-8 図

少年鑑別所入所者 家族との関係（前回までの調査との比較）



- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 家族との関係の各項目が不詳の者を除く。
 3 各項目について、「よくある」及び「ときどきある」を合計した構成比である。
 4 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す($p < .05$)。
 5 凡例の()内は、調査年別の実人員である。

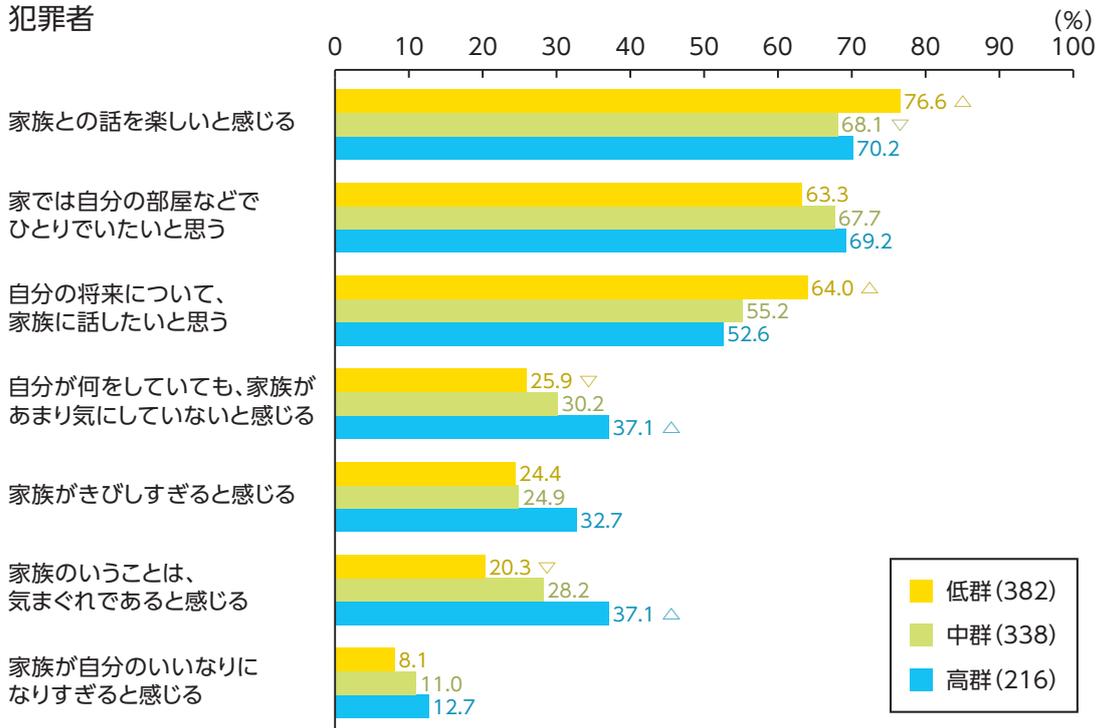
ウ 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較

家族との関係に関する各項目について、「ある」に該当した者の構成比を犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを犯罪・非行進度別に見ると、2-1-9図のとおりである。 χ^2 検定及び残差分析の結果、犯罪者では、「家族との話を楽しいと感じる」及び「自分の将来について、家族に話したいと思う」の構成比が低群において有意に高く、「自分が何をしても、家族があまり気にしていないと感じる」及び「家族のいうことは、気まぐれであると感じる」の構成比が低群において有意に低く、高群において有意に高かった。一方、非行少年では、有意な差が認められる項目はなかったが、単純比較すると、「自分が何をしても、親があまり気にしていないと感じる」及び「親がきびしすぎると感じる」の構成比が高群、中群、低群の順に高かった。

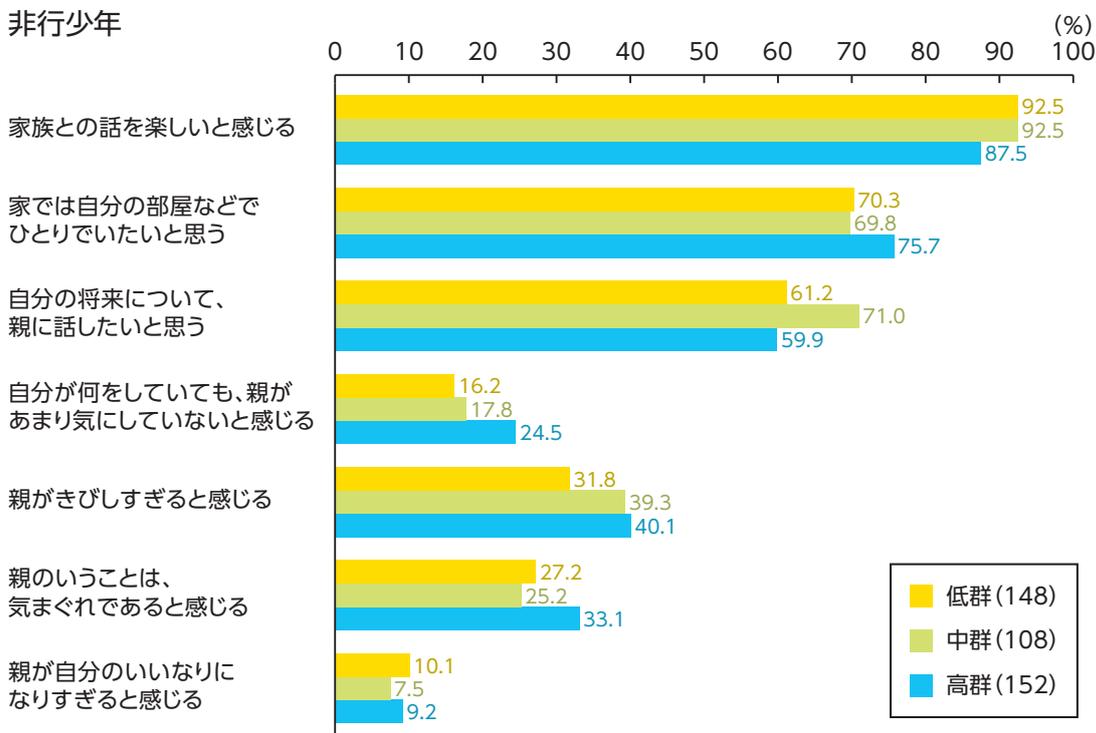
2-1-9 図

家族との関係（犯罪者・非行少年別、犯罪・非行進度別）

① 犯罪者



② 非行少年



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 家族との関係の各項目が不詳の者を除く。
 3 各項目について、「よくある」及び「ときどきある」を合計した構成比である。
 4 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す(p<.05)。
 5 凡例の()内は、犯罪・非行進度別の実人員である。

2 交友関係

(1) 友人関係に対する満足度

Q3 あなたは、友達づきあいにどれくらい満足していますか。

あてはまる番号に○をひとつだけつけてください。

1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満

Q3b (上の質問で「4 やや不満」、「5 不満」の答えの人だけ答えてください。)

「やや不満」、「不満」ということですが、それはどういう理由からですか。

あてはまる番号に○をいくつでもつけてください。

- 1 気の合う友達がない
- 2 お互いに心を打ち明け合うことができない
- 3 自分よりも他の人と仲良くする
- 4 仲間はずれにされる
- 5 自分のすることに口出ししてくる
- 6 グループの中のまとまりが悪い
- 7 自分のことを分かってくれない
- 8 自分のいうことが通らない
- 9 つき合っても張り合いがなく自分が向上しない
- 10 自分に冷たい
- 11 好きでもないのにつき合わなければならない
- 12 その他 ()

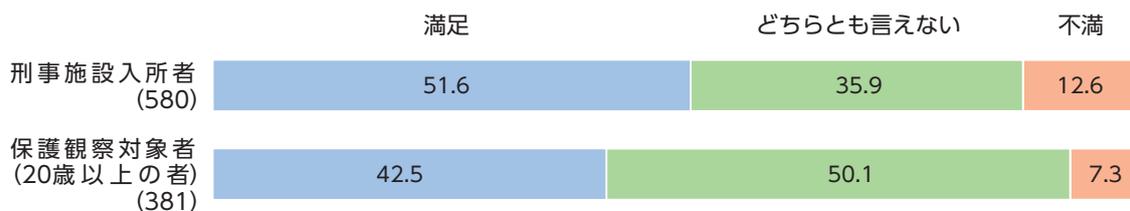
ア 対象者の身分別の比較

友人関係にどのくらい満足しているか(以下「友人関係に対する満足度」という。)について、「満足」(「満足」及び「やや満足」の合計。以下この項において同じ。)、 「どちらとも言えない」、 「不満」(「不満」及び「やや不満」の合計。以下この項において同じ。)の3カテゴリーに統

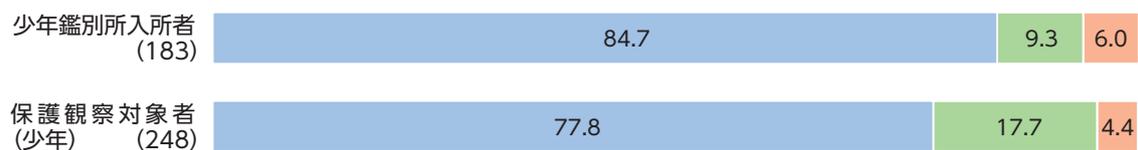
合した上で、各カテゴリーの構成比を対象者の身分別に見ると、2-2-1図のとおりである。「満足」は、犯罪者である刑事施設入所者及び保護観察対象者（20歳以上の者）共に、約4割から5割程度であり、非行少年である少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）共に、約8割であった。他方、「不満」は、刑事施設入所者で1割を超えたほかは、いずれの群においても1割未満であった。 χ^2 検定及び残差分析の結果、「満足」は、犯罪者の2群において、いずれも有意に低い一方、非行少年の2群においては、いずれも有意に高かった。また、「不満」は、刑事施設入所者において有意に高い一方、保護観察対象者（少年）においては、有意に低かった。これらの結果から、友人関係に対する満足度については、犯罪者よりも非行少年の方が高いことが認められた。

2-2-1図 友人関係に対する満足度（対象者の身分別）

① 犯罪者



② 非行少年



$\chi^2(6)=160.22, p<.001$

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 友人関係に対する満足度が不詳の者を除く。
 3 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計した構成比であり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計した構成比である。
 4 ()内は、実人員である。

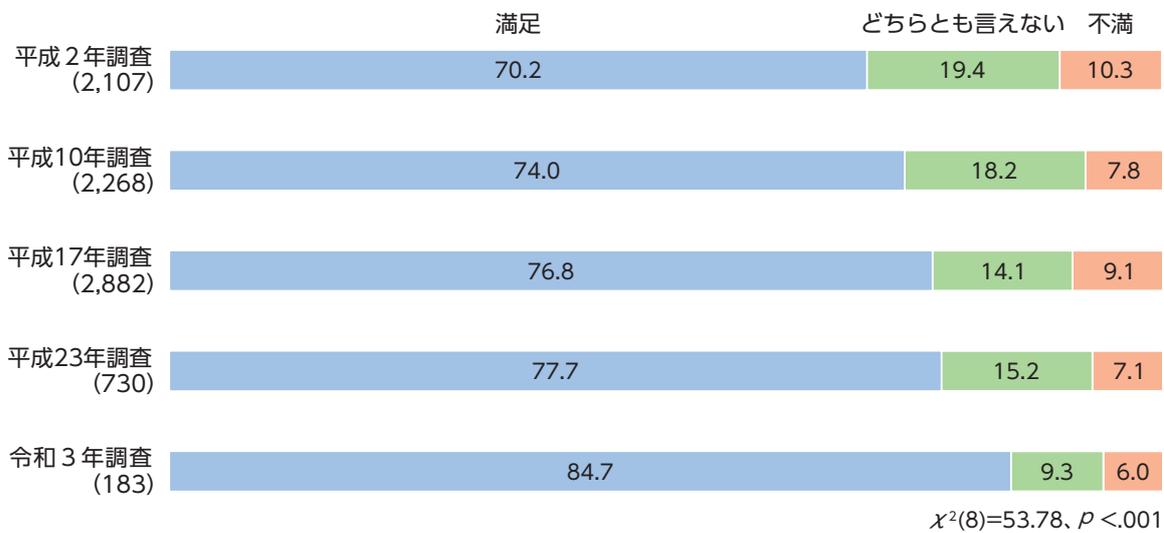
イ 前回までの調査との比較

少年鑑別所入所者について、友人関係に対する満足度を前回までの調査と比較すると、2-2-2図のとおりである。今回及び過去4回の調査結果を比較すると、「満足」は漸増傾向にある。また、 χ^2 検定及び残差分析の結果、「満足」は、平成2年調査では有意に低く、17年、23年及び令和3年の各調査では有意に高かった。総務省(2019)によると、平成7年以降、インターネットが一般に広く普及し、近年ではオンライン上のコミュニケーションが一般化しており、

また、同省（2021）によると、特に13歳から19歳の年齢層のソーシャルネットワーキングサービス（SNS）の利用率は80%を超えており、動画投稿・共有サイトの利用も70%を超えている。加えて、同省（2015）によると、身近な友人や知人とのコミュニケーション手段は依然として対面での会話が最も一般的ではあるものの、電子メールやメッセージングアプリでのやりとりといった手段も一定の割合で見られる。以上のような、近年のオンライン上のコミュニケーションの普及が、友人関係に対する満足度にも何らかの影響を及ぼしている可能性が考えられる。

2-2-2図

少年鑑別所入所者 友人関係に対する満足度（前回までの調査との比較）



【参考 若年犯罪者（刑事施設入所者）】



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 友人関係に対する満足度が不詳の者を除く。
 3 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計した構成比であり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計した構成比である。
 4 () 内は、実人員である。

ウ 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較

友人関係に対する満足度を犯罪者・非行少年別に見るとともに、犯罪・非行進度別に見ると、2-2-3表のとおりである。 χ^2 検定及び残差分析の結果、犯罪者では、低群では「満足」が有意に高く、「不満」は有意に低かった。一方、高群では「満足」が有意に低く、「不満」は有意に高かった。非行少年では、いずれの群においても有意な差は認められなかった。これらの結果から、犯罪者は、犯罪の進度が進んでいる者ほど、満足度も低くなることが認められた。

2-2-3表

友人関係に対する満足度（犯罪者・非行少年別、犯罪・非行進度別）

区分	犯罪・非行進度	総数	満足	どちらとも言えない	不満	χ^2 値
犯罪者	低群	374 (100.0)	△ 202 (54.0)	143 (38.2)	▽ 29 (7.8)	12.12*
	中群	327 (100.0)	154 (47.1)	136 (41.6)	37 (11.3)	
	高群	213 (100.0)	▽ 88 (41.3)	94 (44.1)	△ 31 (14.6)	
非行少年	低群	145 (100.0)	122 (84.1)	18 (12.4)	5 (3.4)	8.13
	中群	108 (100.0)	91 (84.3)	14 (13.0)	3 (2.8)	
	高群	152 (100.0)	114 (75.0)	24 (15.8)	14 (9.2)	

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 友人関係に対する満足度が不詳の者を除く。
 3 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計した人員であり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計した人員である。
 4 ***は $p<.001$ 、**は $p<.01$ 、*は $p<.05$ を示す。 p 値は、 χ^2 検定による漸近有意確率である。
 5 △は残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いことを、▽は少ないことを示す ($p<.05$)。
 6 ()内は、構成比である。

エ 犯罪者・非行少年別及び就労状況別の比較

就労の有無により、友人関係の幅や友人との付き合い方に違いが見られると考えられるため、友人関係に対する満足度を犯罪者・非行少年別に見るとともに、有職者と無職者に分け、就労状況別の比較を行った。

なお、就労状況は、調査時のものであり、「無職」は失業中の者を含み、専業主婦又は主夫を含まない。

χ^2 検定及び残差分析の結果、「満足」は、犯罪者・非行少年いずれも有職者の方が有意に高かった（犯罪者：有職54.9%、無職43.1%、非行少年：有職84.3%、無職69.9%）（犯罪者： $\chi^2(2) = 10.43$ 、 $p = .005$ 、非行少年： $\chi^2(2) = 10.44$ 、 $p = .005$ ）。一方、「不満」（犯罪者：有職9.9%、無職11.2%、非行少年：有職3.8%、無職9.7%）について見ると、犯罪者については有意な差が認められなかったが、非行少年については有意な差が認められた（ $\chi^2(2) = 10.44$ 、 $p = .005$ ）。これらの結果からは、就労している者の方が、友人関係に対する満足度が高いと認められた。

オ 非行少年の就学状況別の比較

20歳未満の者については、就学状況により、友人関係の幅や親密度に違いが見られると考えられるため、非行少年について、友人関係に対する満足度を就学状況別（在学中の者とそれ以外の者）に見ると、「満足」は、在学中の者の方では86.2%、それ以外の者では77.1%であり、「不満」は在学中の者では3.3%、それ以外の者では6.4%であった。ただし、 χ^2 検定及び残差分析の結果、有意な差は認められなかった。

(2) 友人関係に対する不満の理由

ア 対象者の身分別の比較

友人関係に対する不満の理由について（「友人関係に対する満足度」において、「不満」に該当した者に限る。以下この項において同じ。）、対象者の身分別に見ると、2-2-4図のとおりである。「その他」に該当する者も一定の割合で認められたところ、その理由としては、「友人はいない」、「悪友が多い」等であった。

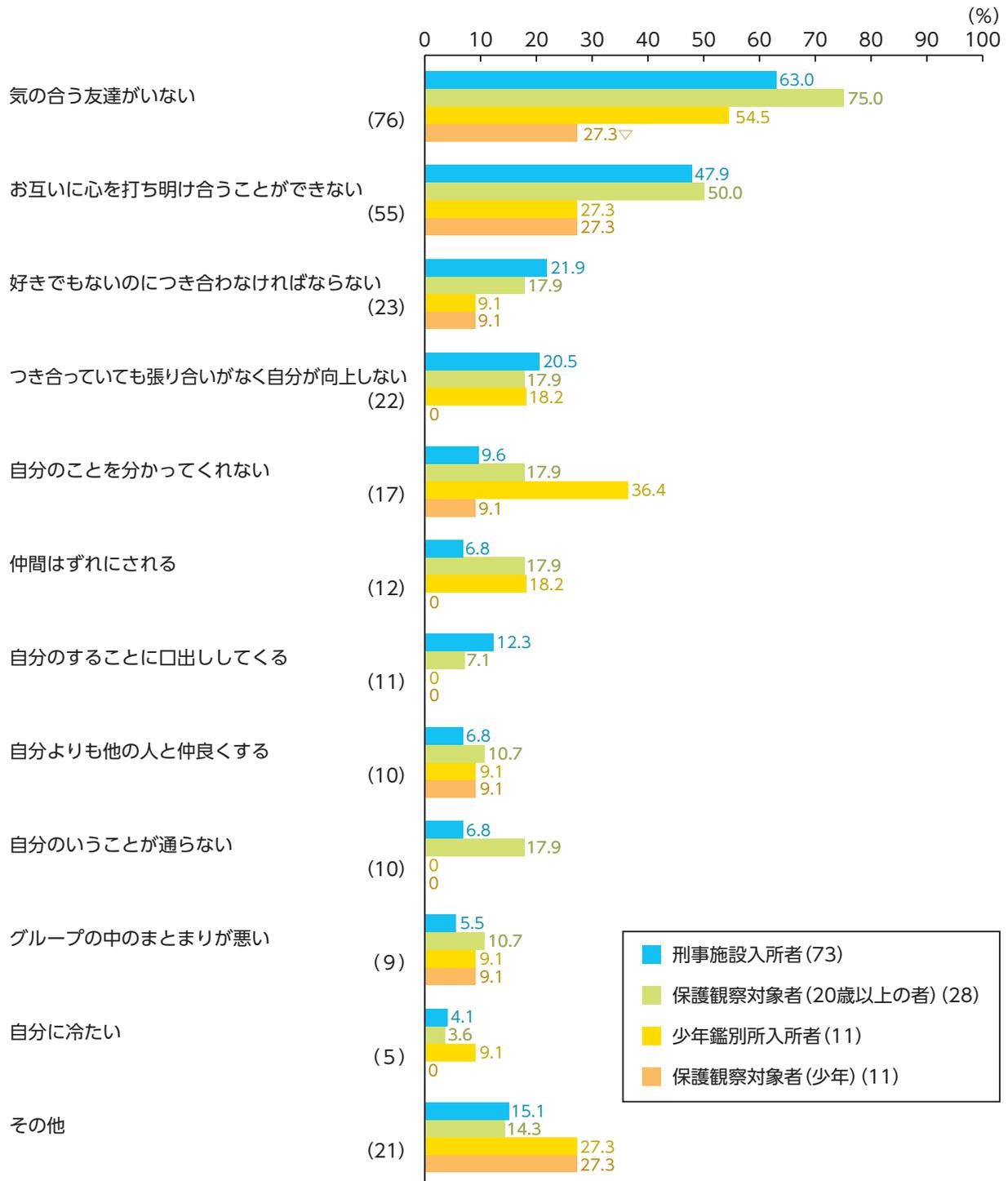
犯罪者である刑事施設入所者及び保護観察対象者（20歳以上の者）は、該当率の高い上位3項目が共通しており、「気の合う友達がいらない」が最も高く、次いで、「お互いに心を打ち明け合うことができない」、「好きでもないのにつき合わなければならない」の順であった。

なお、保護観察対象者（20歳以上の者）では、「つき合っても張り合いがなく自分が向上しない」、「自分のことを分かってくれない」、「仲間はずれにされる」及び「自分のいうことが通らない」も、同率で3番目に高かった。

非行少年である少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）も、該当率が最も高い項目は、「気の合う友達がいらない」であったが、保護観察対象者（少年）では、それと並んで「お互いに心を打ち明け合うことができない」も最も高く、少年鑑別所入所者では、「自分のことを分かってくれない」が2番目に高かった。犯罪者・非行少年共に、友人関係に不満を感じている者は、友人との付き合いに居心地の悪さを感じ、孤独感を抱えている可能性が考えられる。

2-2-4 図

友人関係に対する不満の理由 (対象者の身分別)



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 Q3において「不満」(「不満」及び「やや不満」)とした者に占める各項目に該当した者(重複計上による。)の割合である。
 3 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す($p < .05$)。ただし、度数が少ない場合は、モンテカルロ法を使用した検定によった。
 4 凡例の()内は、対象者の身分の実人員であり、縦軸の()内は、各項目に該当した者の人員である。

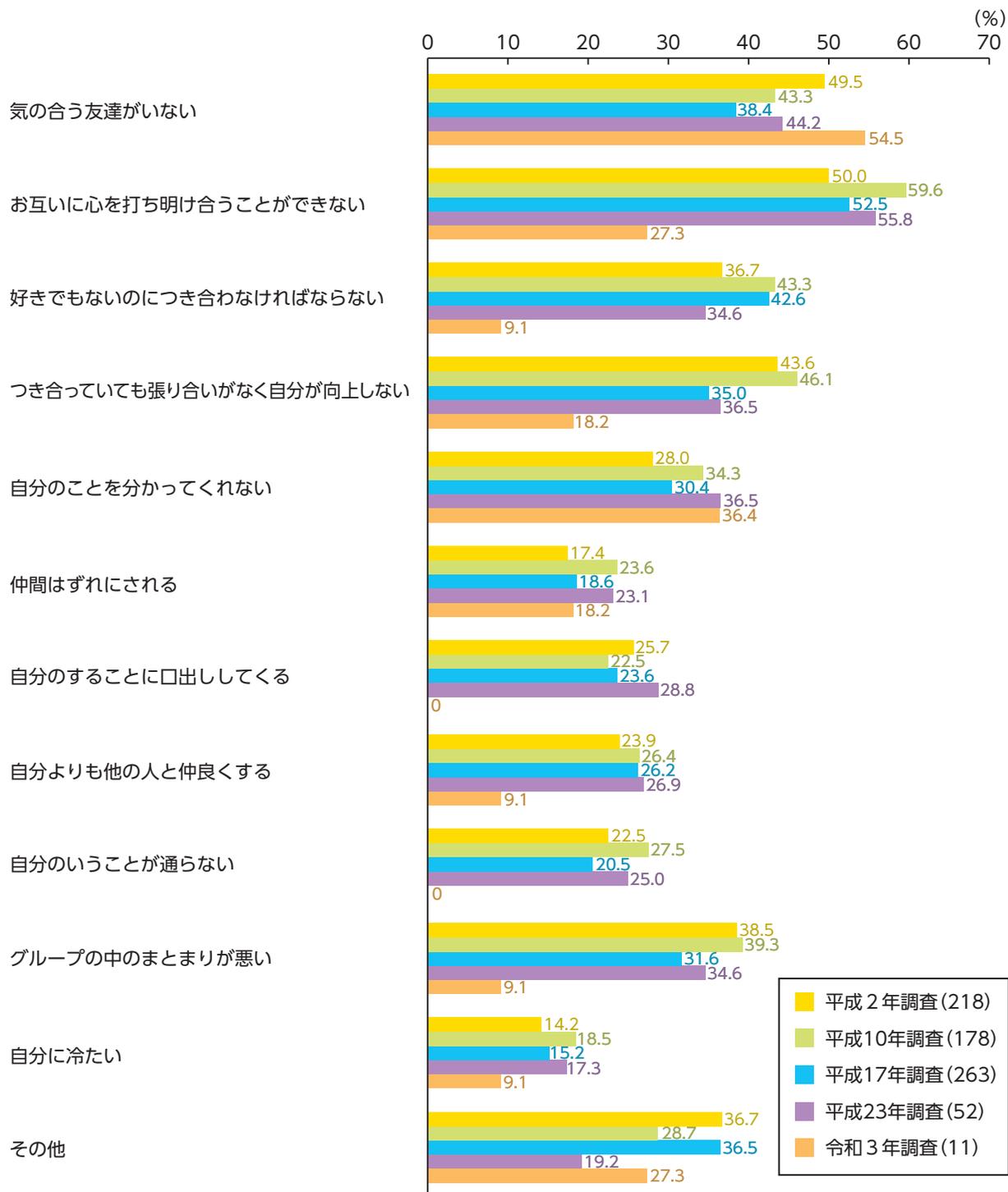
イ 前回までの調査との比較

少年鑑別所入所者について、友人関係に対する不満の理由を前回までの調査と比較すると、**2-2-5図**のとおりである。今回及び過去4回の調査結果を比較すると、過去4回の調査では、「お互いに心を打ち明け合うことができない」の該当率が最も高かったが、令和3年調査では、「気の合う友達がいらない」の該当率が最も高く、「お互いに心を打ち明け合うことができない」の該当率は、前回調査と比べて半減した。

なお、平成2年調査と比べて該当率の変化が大きい上位3項目は、「グループの中のまとまりが悪い」(29.4pt低下)、「好きでもないのにつき合わなければならない」(27.6pt低下)、「自分のすることに口出ししてくる」(25.7pt低下)であった。

2-2-5 図

少年鑑別所入所者 友人関係に対する不満の理由(前回までの調査との比較)

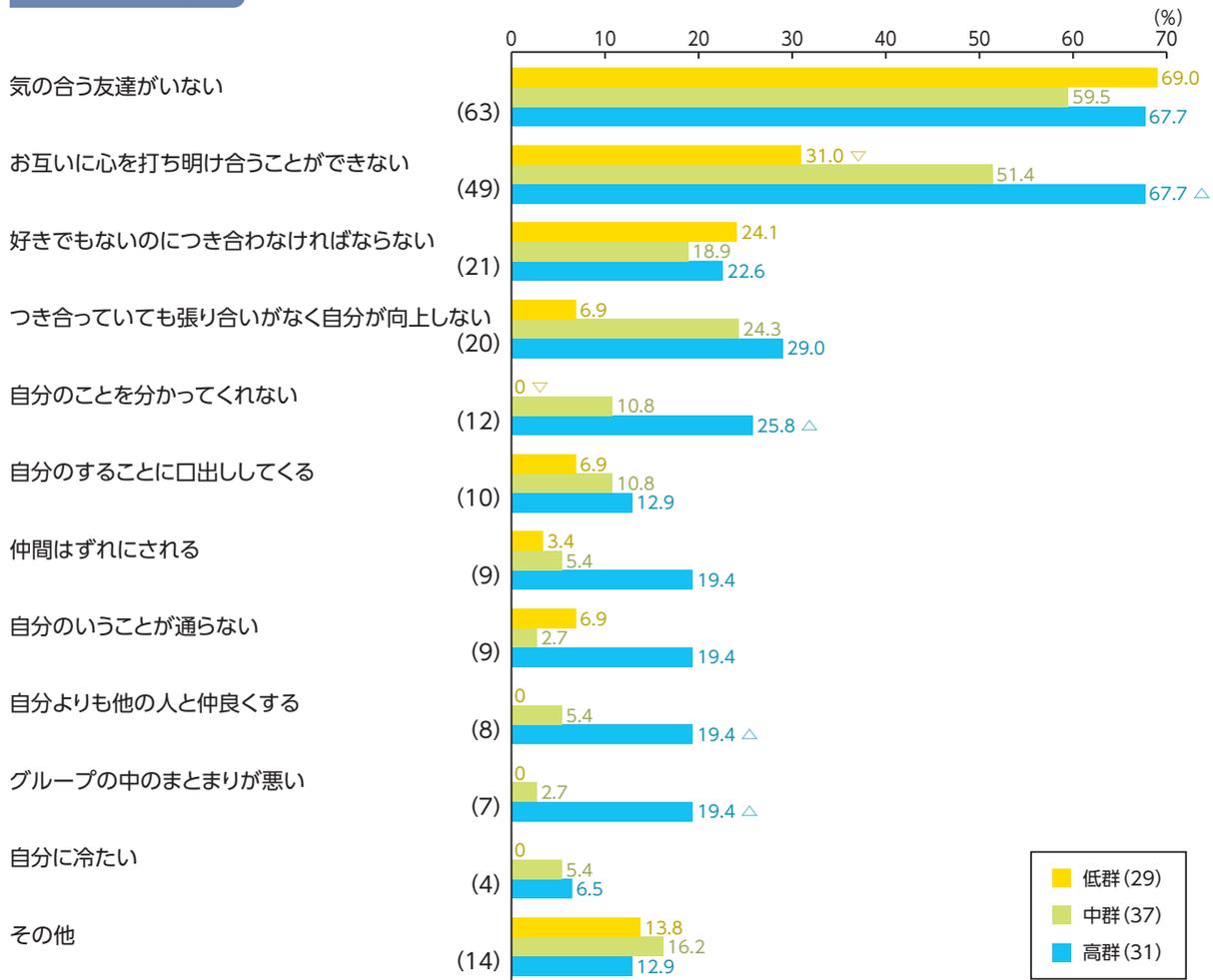


注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 Q3において「不満」(「不満」及び「やや不満」)とした者に占める各項目に該当した者(重複計上による。)の割合である。
 3 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す($p<.05$)。
 4 凡例の()内は、調査年別の実人員である。

ウ 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較

犯罪者の友人関係に対する不満の理由を犯罪・非行進度別に見ると、2-2-6図のとおりである。χ²検定及び残差分析の結果、犯罪者では、「お互いに心を打ち明け合うことができない」及び「自分のことを分かってくれない」の項目において、低群が有意に低く、高群が有意に高かった。また、「自分よりも他の人と仲良くする」及び「グループの中のまとまりが悪い」の項目は、高群が有意に高かった。なお、非行少年では、有意な差が認められる項目はなかった。友人関係に不満を感じている者について、犯罪者は、犯罪進度が進んでいる者の方が、友人関係での被受容感を得にくく、疎外感を感じやすいことがうかがえる。

2-2-6図 犯罪者 友人関係に対する不満の理由（犯罪・非行進度別）



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 Q3において「不満」(「不満」及び「やや不満」)とした者に占める各項目に該当した者(重複計上による。)の割合である。
 3 χ²検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す(p<.05)。ただし、度数が少ない場合は、モンテカルロ法を使用した検定による。
 4 凡例の()内は、犯罪・非行進度別の実人員であり、縦軸の()内は、各項目に該当した者の人員である。

(3) 友人との関係

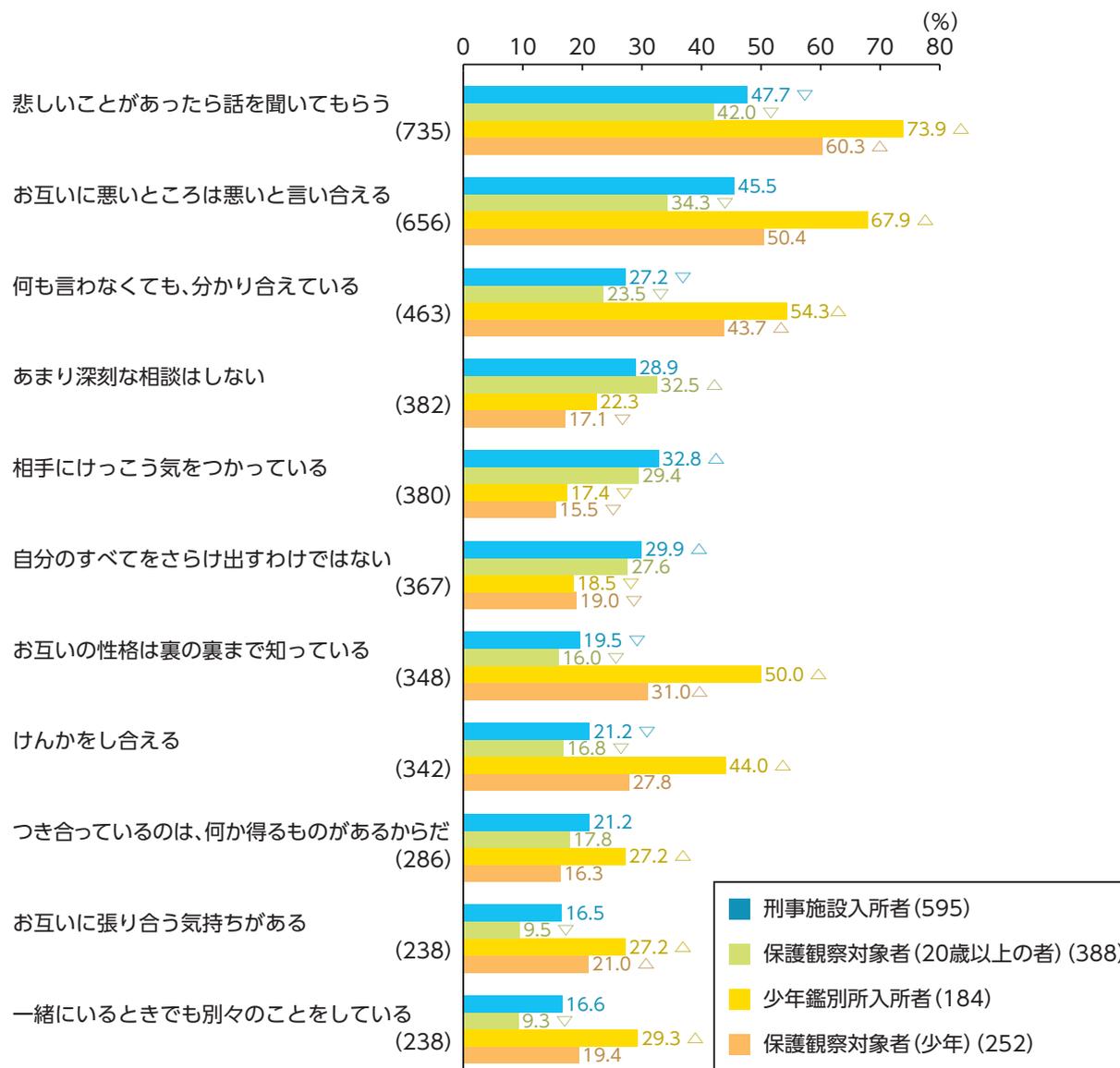
Q4 あなたと友達との関係について、
あてはまる番号に○をいくつでもつけてください。

- 1 悲しいことがあったら話を聞いてもらう
- 2 相手にけっこう気をつけている
- 3 あまり深刻な相談はしない
- 4 つき合っているのは、何か得るものがあるからだ
- 5 お互いに張り合う気持ちがある
- 6 けんかをし合える
- 7 何も言わなくても、分かり合えている
- 8 お互いの性格は裏の裏まで知っている
- 9 自分のすべてをさらけ出すわけではない
- 10 お互いに悪いところは悪いと言い合える
- 11 一緒にいるときでも別々のことをしている

ア 対象者の身分別の比較

友人との関係について、対象者の身分別に見ると、**2-2-7図**のとおりである。いずれの群においても、「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」の該当率が最も高く、次いで、「お互いに悪いところは悪いと言い合える」が高かった。 χ^2 検定及び残差分析の結果、「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」及び「お互いの性格は裏の裏まで知っている」は、犯罪者の2群では有意に低い一方、非行少年の2群では有意に高かった。また、非行少年の2群では、犯罪者の2群に比べ、「何も言わなくても分かり合えている」及び「お互いに張り合う気持ちがある」は有意に高い一方、「相手にけっこう気をつけている」及び「自分のすべてをさらけ出すわけではない」は有意に低かった。これらの結果からは、犯罪者よりも非行少年の方が、本音やありのままの自分を友人に見せ、互いに親密な付き合い方をしていることがうかがえる。

2-2-7図 友人との関係（対象者の身分別）



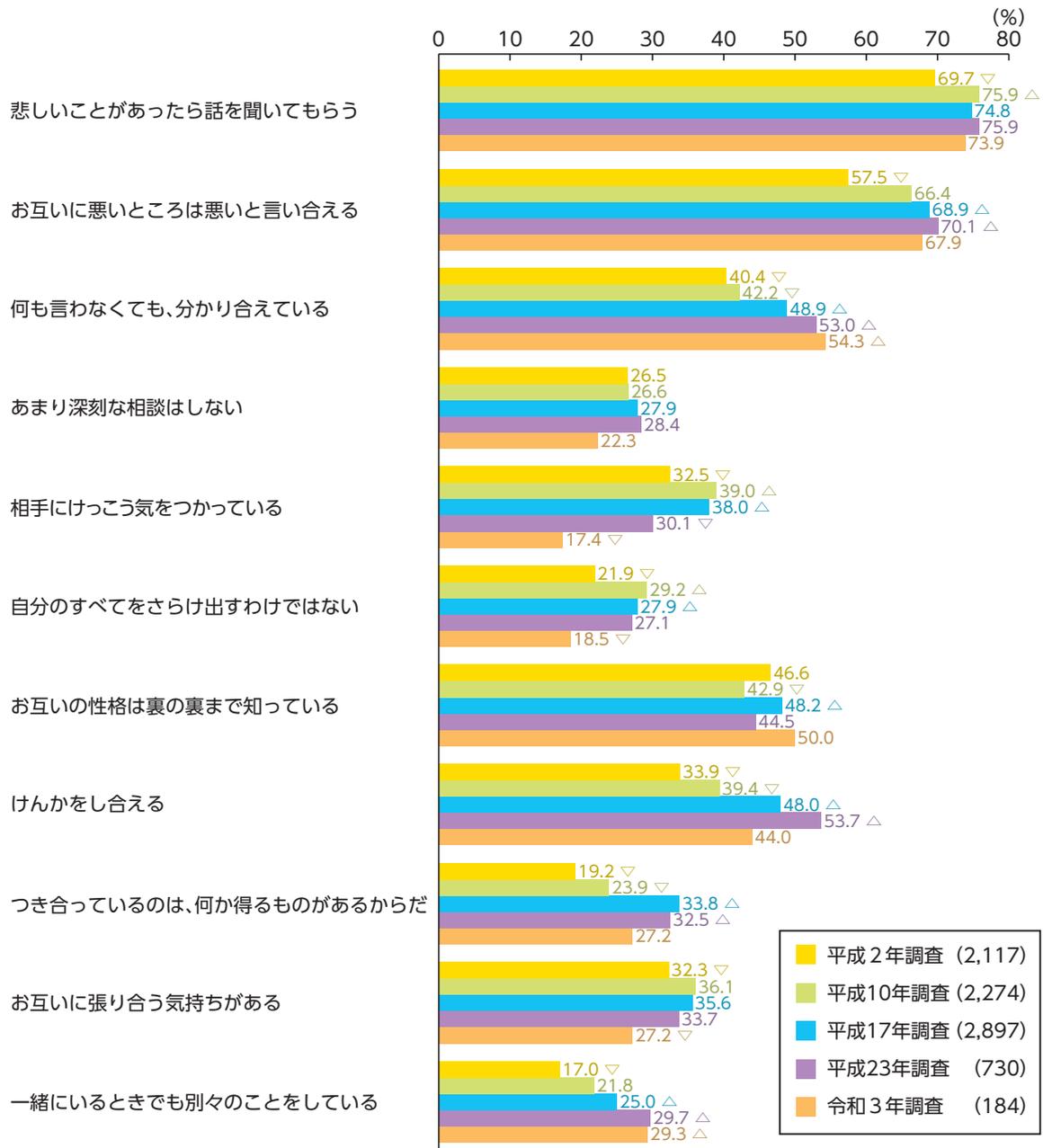
注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 各項目に該当した者(重複計上による。)の割合である。
 3 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す(p<.05)。
 4 凡例の()内は、対象者の身分の実人員であり、縦軸の()内は、各項目に該当した者の人員である。

イ 前回までの調査との比較

少年鑑別所入所者について、友人との関係を前回までの調査と比較すると、2-2-8図のとおりである。今回及び過去4回の調査結果を比較すると、令和3年調査では、過去4回の調査と同様、「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」、「お互いに悪いところは悪いと言い合える」の順に該当率が高かった。 χ^2 検定及び残差分析の結果、令和3年調査では、「何も言わなくても、分かり合えている」及び「一緒にいるときでも別々のことをしている」が有意に高い一方、

「お互いに張り合う気持ちがある」、「自分のすべてをさらけ出すわけではない」及び「相手にけっこう気をつけている」が有意に低かった。令和3年調査では、気軽な交友関係を持ち、互いに理解し合っている感覚が強かったことがうかがえる。

2-2-8図 少年鑑別所入所者 友人との関係（前回までの調査との比較）

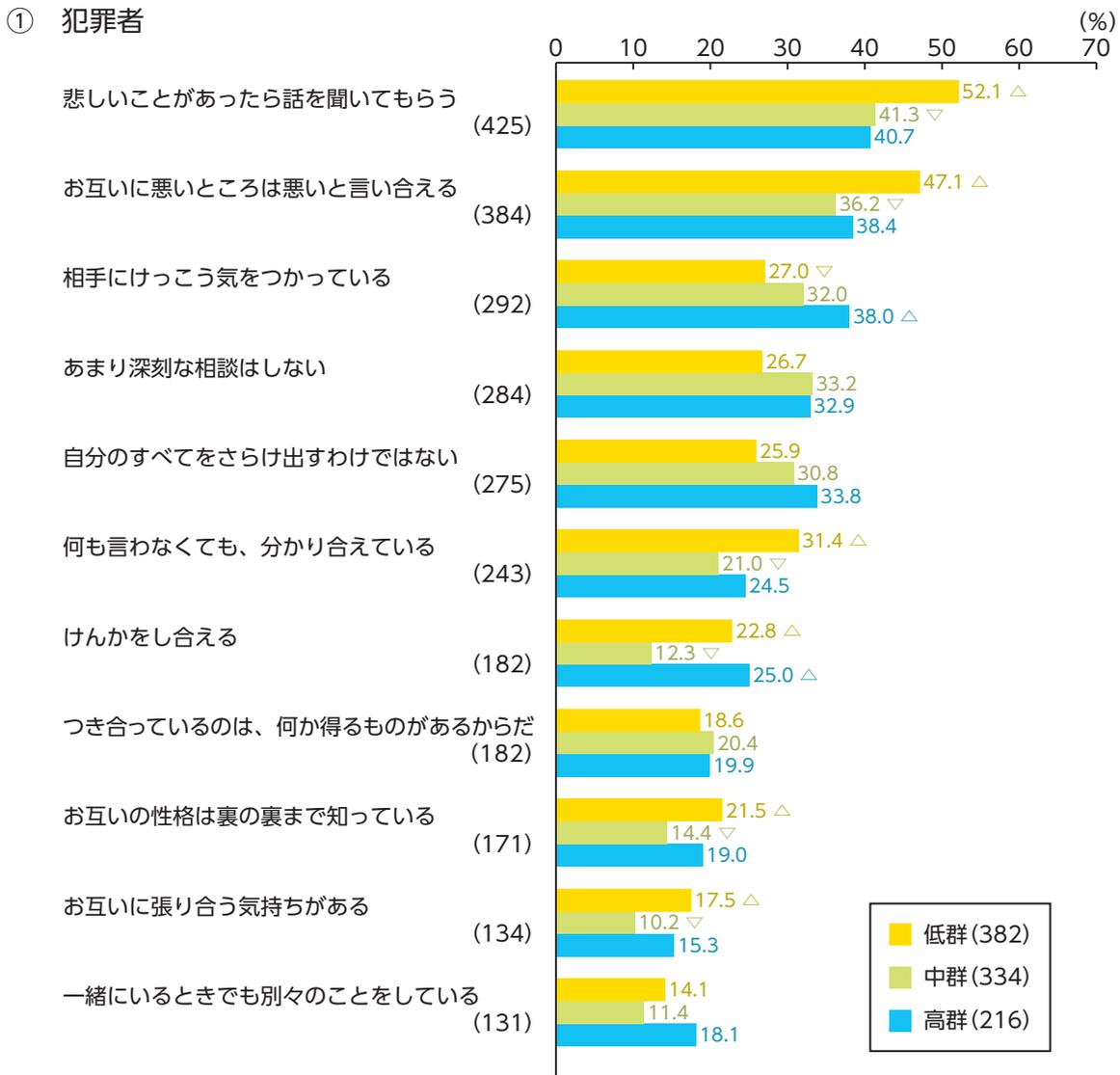


注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 各項目に該当した者(重複計上による。)の割合である。
 3 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す($p<.05$)。
 4 凡例の()内は、調査年別の実人員である。

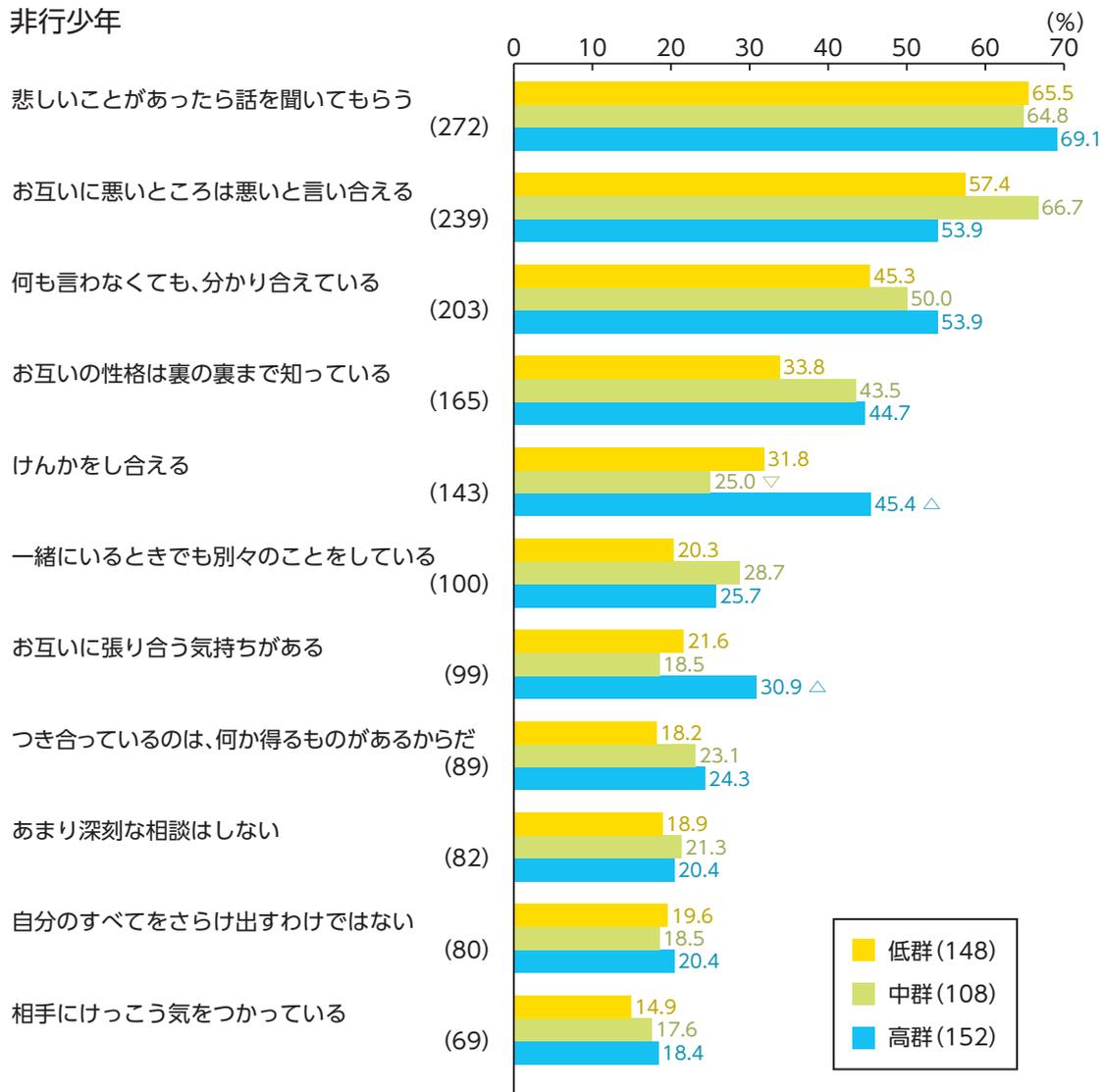
ウ 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較

友人との関係を犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを犯罪・非行進度別に見ると、2-2-9図のとおりである。 χ^2 検定及び残差分析の結果、他の2群に比べ、犯罪者の低群では、友人との親密な関係を示す項目について、多くの項目が有意に高かった一方、中群では有意に低かった。また、犯罪者・非行少年共に、高群では、「けんかをし合える」が有意に高かった。

2-2-9図 友人との関係（犯罪者・非行少年別、犯罪・非行進度別）



② 非行少年



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 各項目に該当した者(重複計上による。)の割合である。
 3 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す(p<.05)。
 4 凡例の()内は、犯罪・非行進捗別の実人員であり、縦軸の()内は、各項目に該当した者の人員である。

(4) 大切な友人

Q5 あなたは、どんな友達が大事だと思いますか。
あてはまる番号に○をひとつだけつけてください。

- 1 いつもそばにいて相手になってくれる人
- 2 他の人にいえないことを聞いてくれる人
- 3 競争相手となって自分を伸ばしてくれる人
- 4 困ったときに助けてくれる人
- 5 興味や趣味が似ている人
- 6 その他 ()

※ 本問は、前回調査（平成23年調査）から選択肢に変更があり、「いろいろな情報を教えてくれる人」が削除され、「その他」が追加された。

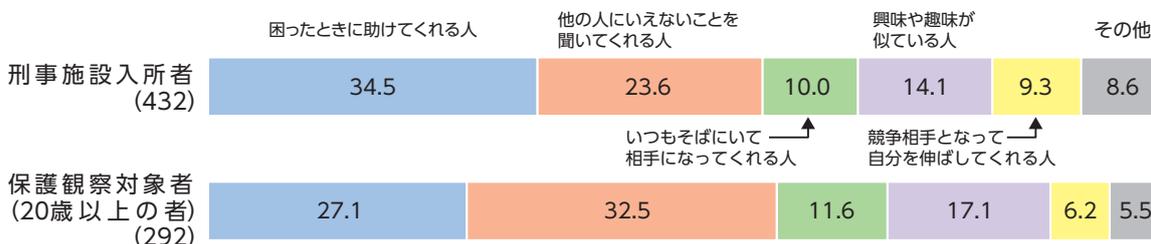
ア 対象者の身分別の比較

大切な友人について、対象者の身分別に見ると、2-2-10図のとおりである。犯罪者のうち刑事施設入所者では、「困ったときに助けてくれる人」、「他の人にいえないことを聞いてくれる人」、「興味や趣味が似ている人」の順に構成比が高かったが、保護観察対象者（20歳以上の者）では、「他の人に言えないことを聞いてくれる人」、「困ったときに助けてくれる人」、「興味や趣味が似ている人」の順であった。他方、非行少年の2群では、いずれも「困ったときに助けてくれる人」、「いつもそばにいて相手になってくれる人」、「他の人に言えないことを聞いてくれる人」の順であった（なお、少年鑑別所入所者では、「興味や趣味が似ている人」も同率で3番目に高かった。）。 χ^2 検定及び残差分析の結果、非行少年では、「いつもそばにいて相手になってくれる人」の構成比が有意に高かった。犯罪者・非行少年ともに、頼りにできる友人を大切に思っていることに加え、非行少年では、特に物理的な距離の近さも重視し、一緒にいてくれる人を大切な友人として捉えていることがうかがえる。

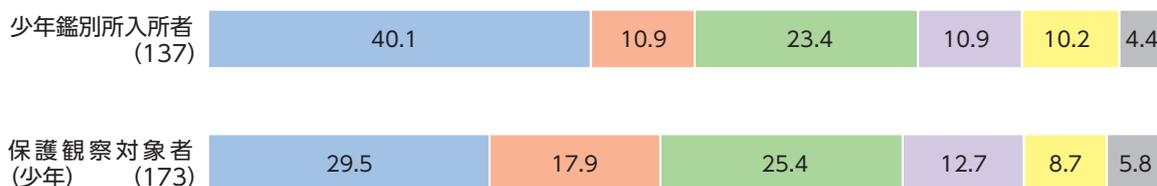
なお、「その他」は、「悪いことは悪いと言ってくれる」、「友人はいない」等であった。

2-2-10図 大切な友人（対象者の身分別）

① 犯罪者



② 非行少年



$\chi^2(15)=66.52, p<.001$

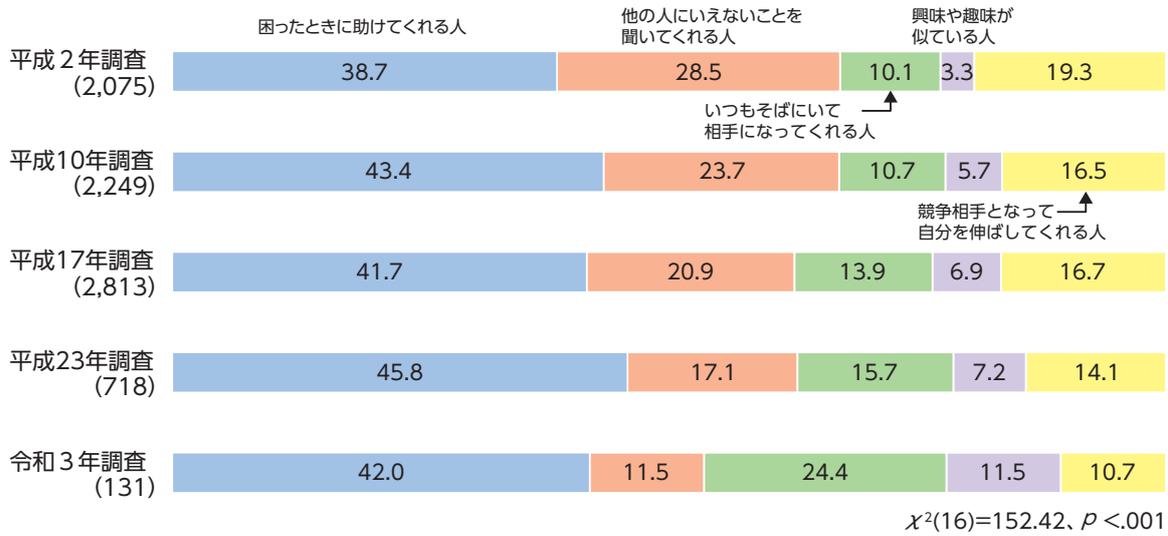
- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 大切な友人が不詳の者を除く。
 3 () 内は、実人員である。

イ 前回までの調査との比較

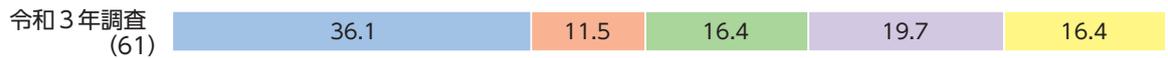
少年鑑別所入所者について、大切な友人を前回までの調査と比較（ただし、「いろいろな情報を教えてくれる人」及び「その他」を除く。）すると、2-2-11図のとおりである。今回及び過去4回の調査結果を比較すると、令和3年調査においては、過去4回の調査と同様、「困ったときに助けてくれる人」の構成比が最も高かった一方、過去4回の調査において次に構成比が高かった「他の人にいえないことを聞いてくれる人」の構成比が低下し、代わりに、「いつもそばにいて相手になってくれる人」の構成比が上昇した。 χ^2 検定及び残差分析の結果、「他の人にいえないことを聞いてくれる」は、平成2年調査では有意に高い一方、17年調査以降のいずれの調査においても有意に低く、「いつもそばにいて相手になってくれる人」は、平成2年及び10年調査では有意に低い一方、17年調査以降のいずれの調査においても有意に高かった。総務省（2021）によると、10代の平日のソーシャルメディアによるコミュニケーションの平均利用時間は、平成28年と比べ、令和2年は約13分増加しており、オンライン上でのコミュニケーションの機会が増加傾向にあることに鑑みると、近年、友人と実際に行動を共にする時間が減少している可能性があり、本音を聞いてもらえるということよりも、実際に一緒にいてくれるということを重視する傾向にあることが示唆された。

2-2-11図

少年鑑別所入所者 大切な友人（前回までの調査との比較）



【参考 若年犯罪者（刑事施設入所者）】



- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 大切な友人が不詳の者を除く。
 3 前回までの調査との比較が困難なものは、除外した。
 4 ()内は、実人員である。

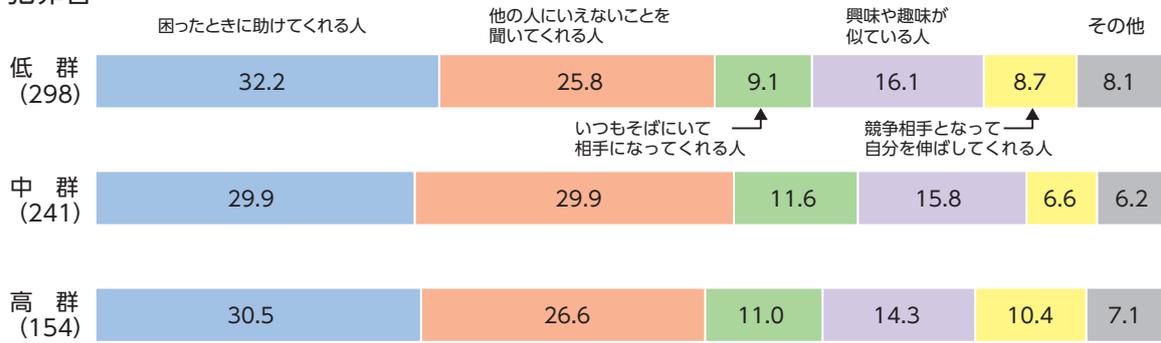
ウ 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進捗別の比較

大切な友人について、犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを犯罪・非行進捗別に見ると、2-2-12図のとおりである。犯罪者では、いずれの群においても、構成比の高い項目が一致していた。一方、非行少年では、いずれの群も上位2項目は一致していたが、3番目以降はそれぞれ異なっていた。 χ^2 検定及び残差分析の結果、犯罪者・非行少年共に、有意な差は認められなかった。

2-2-12図

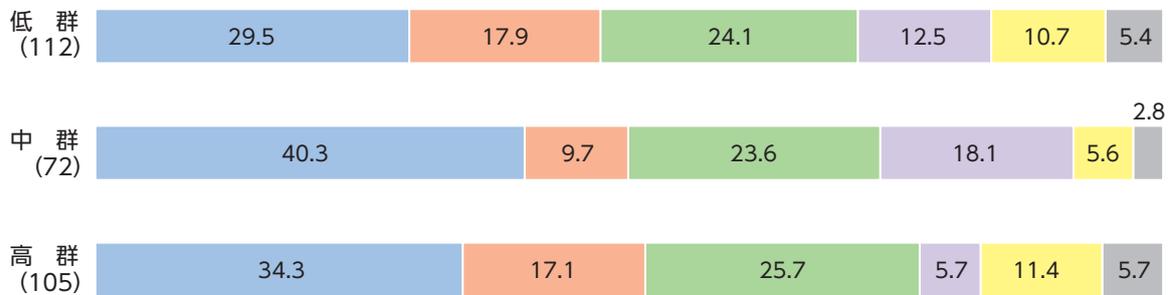
大切な友人（犯罪者・非行少年別、犯罪・非行進度別）

① 犯罪者



$\chi^2(10) = 4.51, p = .921$

② 非行少年



$\chi^2(10) = 12.20, p = .272$

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 大切な友人が不詳の者を除く。
 3 () 内は、実人員である。

3 周囲の人々との関係

Q6 あなたにとって、次の質問（ア～エ）にあてはまるのはどの人ですか。

あてはまる番号に○をいくつでもつけてください。

ア あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか。

イ あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか。

ウ あなたが、「この人から注意されたら言うことを聞く」と思うのはどの人ですか。

エ あなたが、「こんな人になりたい」と思うのはどんな人物ですか。

(選択肢)

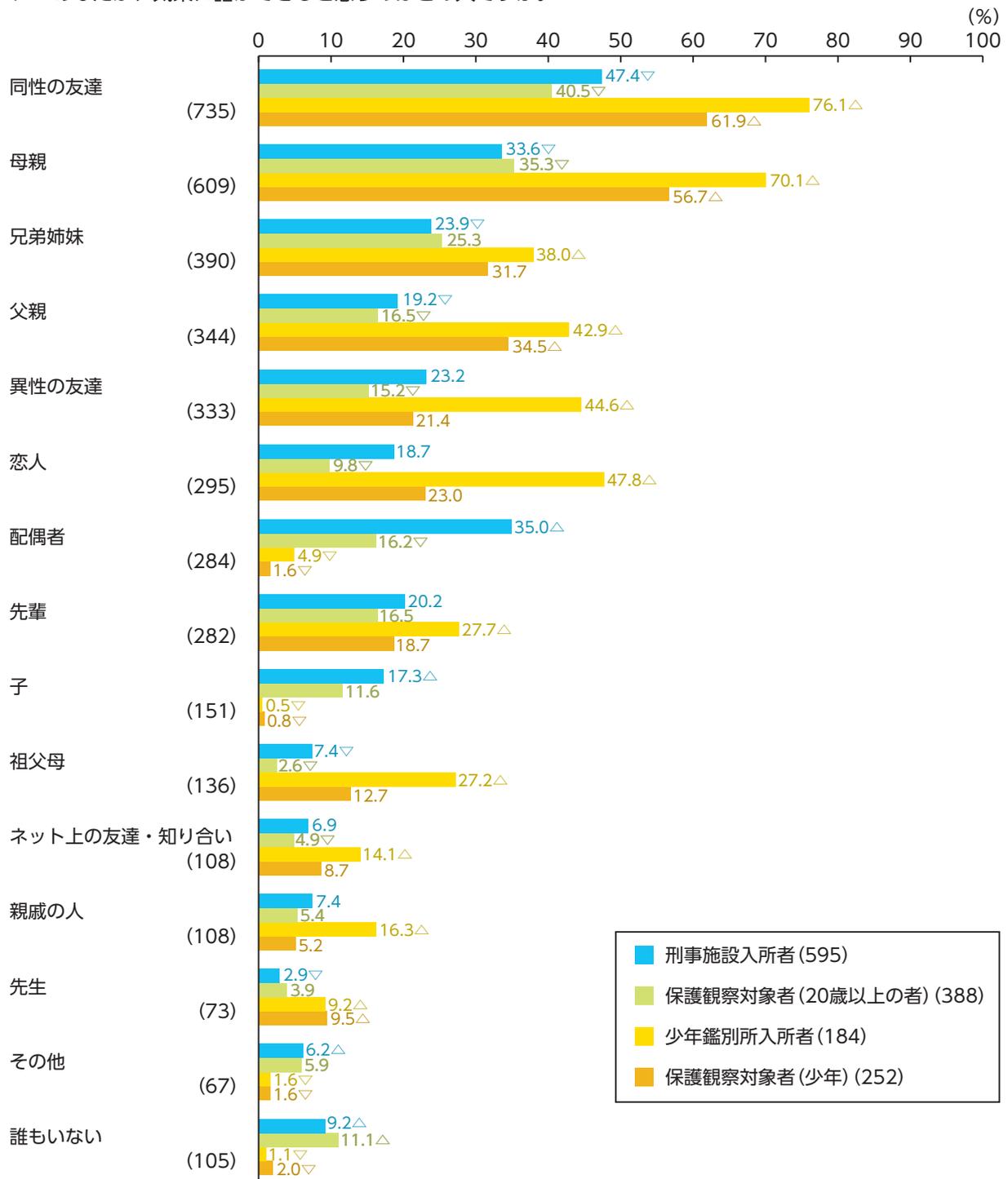
- | | | | |
|----------|------------|-------------------------|--------|
| 1 父親 | 2 母親 | 3 配偶者 (夫や妻、内縁関係、事実婚を含む) | |
| 4 子 | 5 兄弟姉妹 | 6 祖父母 | 7 親戚の人 |
| 8 恋人 | 9 同性の友達 | 10 異性の友達 | |
| 11 先輩 | 12 先生 | 13 ネット上の友達・知り合い | |
| 14 誰もいない | 15 その他 () | | |

(1) 対象者の身分別の比較

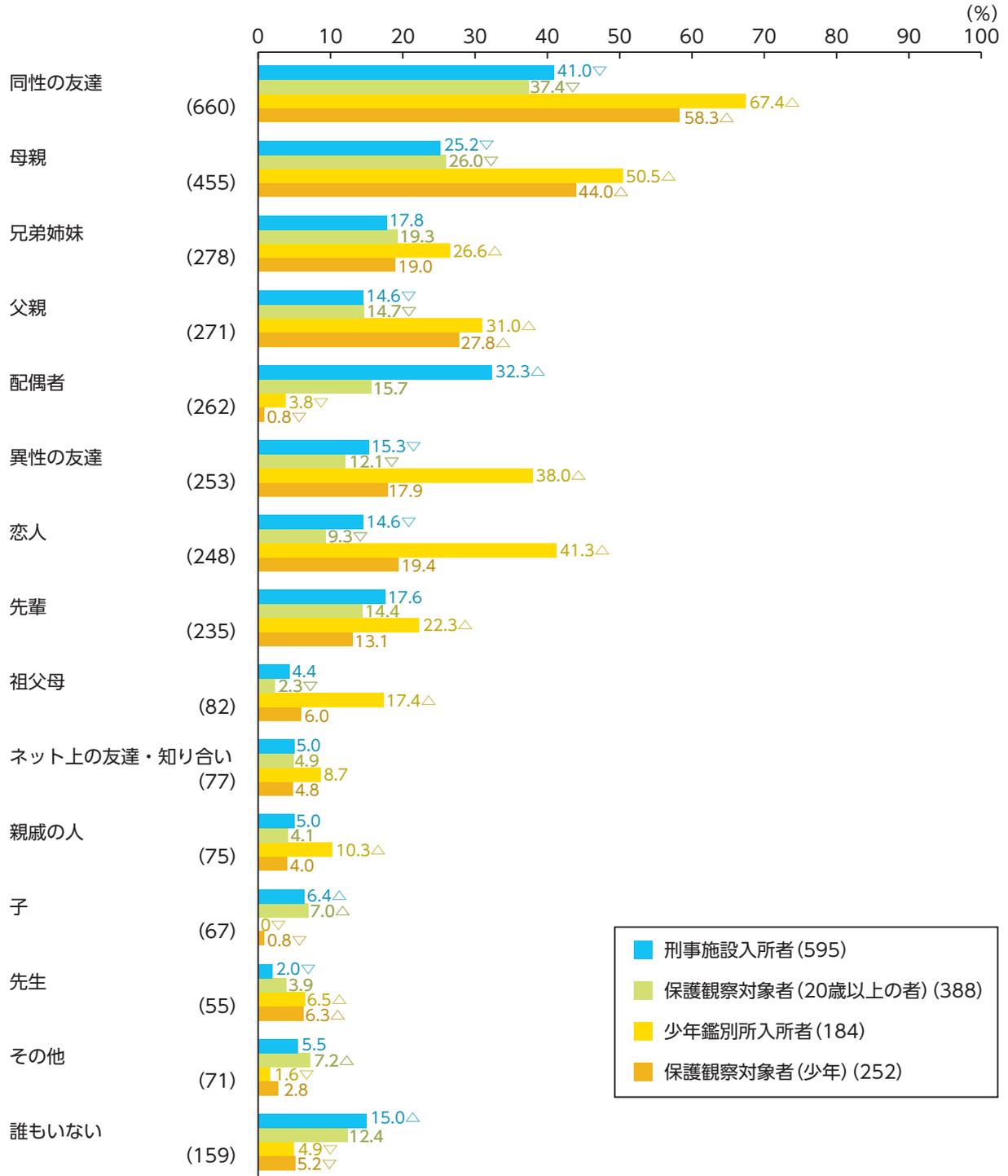
調査対象者が日常的に接している家族や友達など周囲の人々をどのように評価しているか、あるいは、どのような人物を自己の将来のモデル（同一視の対象）として見ているかなど、身近な人間関係に対する捉え方（以下この項において「周囲の人々との関係」という。）を見るため、対象者にとってア～エの質問にあてはまる人物が各項目に該当（重複計上による。）した者の割合（以下この項において「該当率」という。）を身分別に見ると、**2-3-1図**のとおりである。

2-3-1 図 周囲の人々との関係 (対象者の身分別)

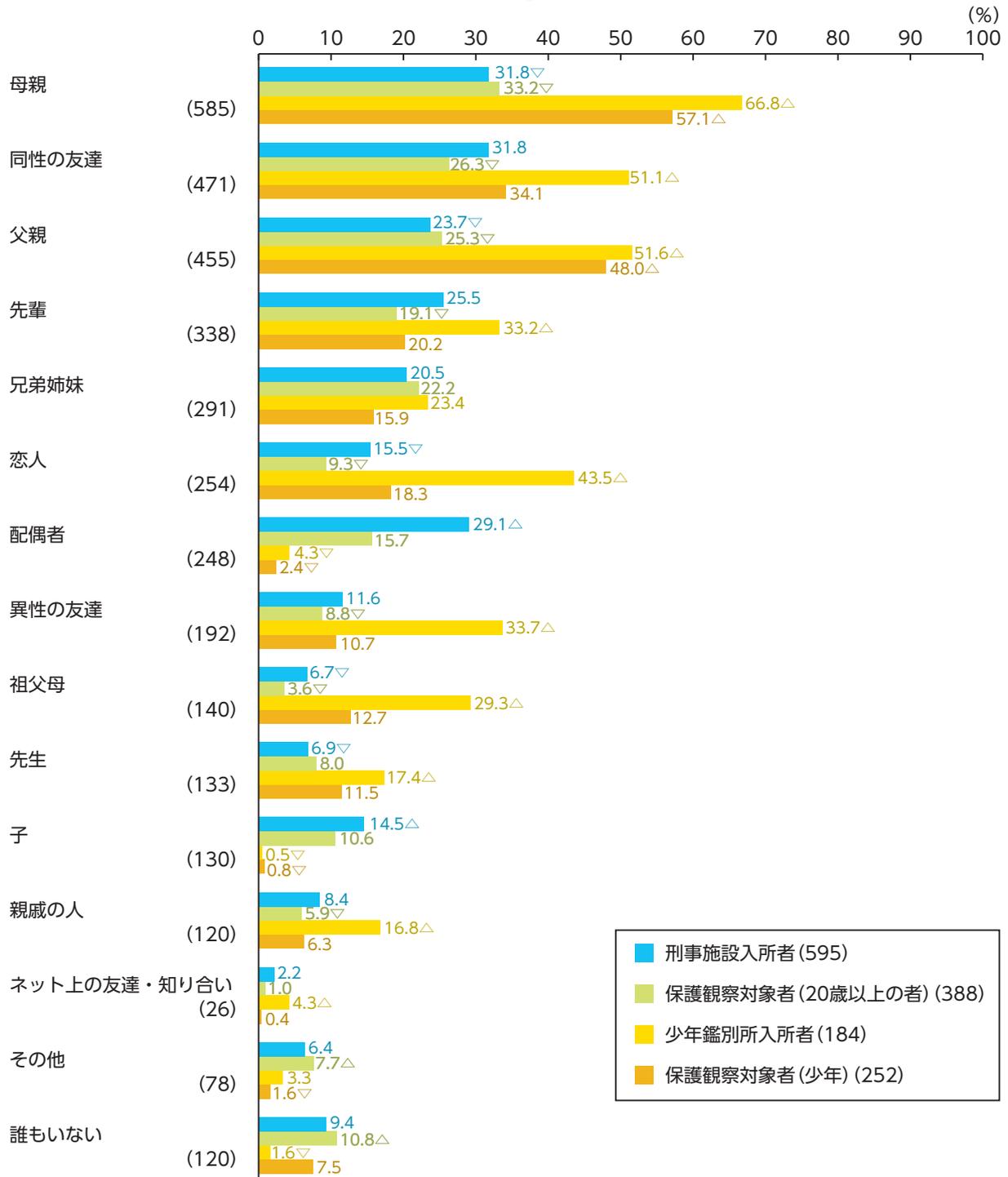
ア あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか。



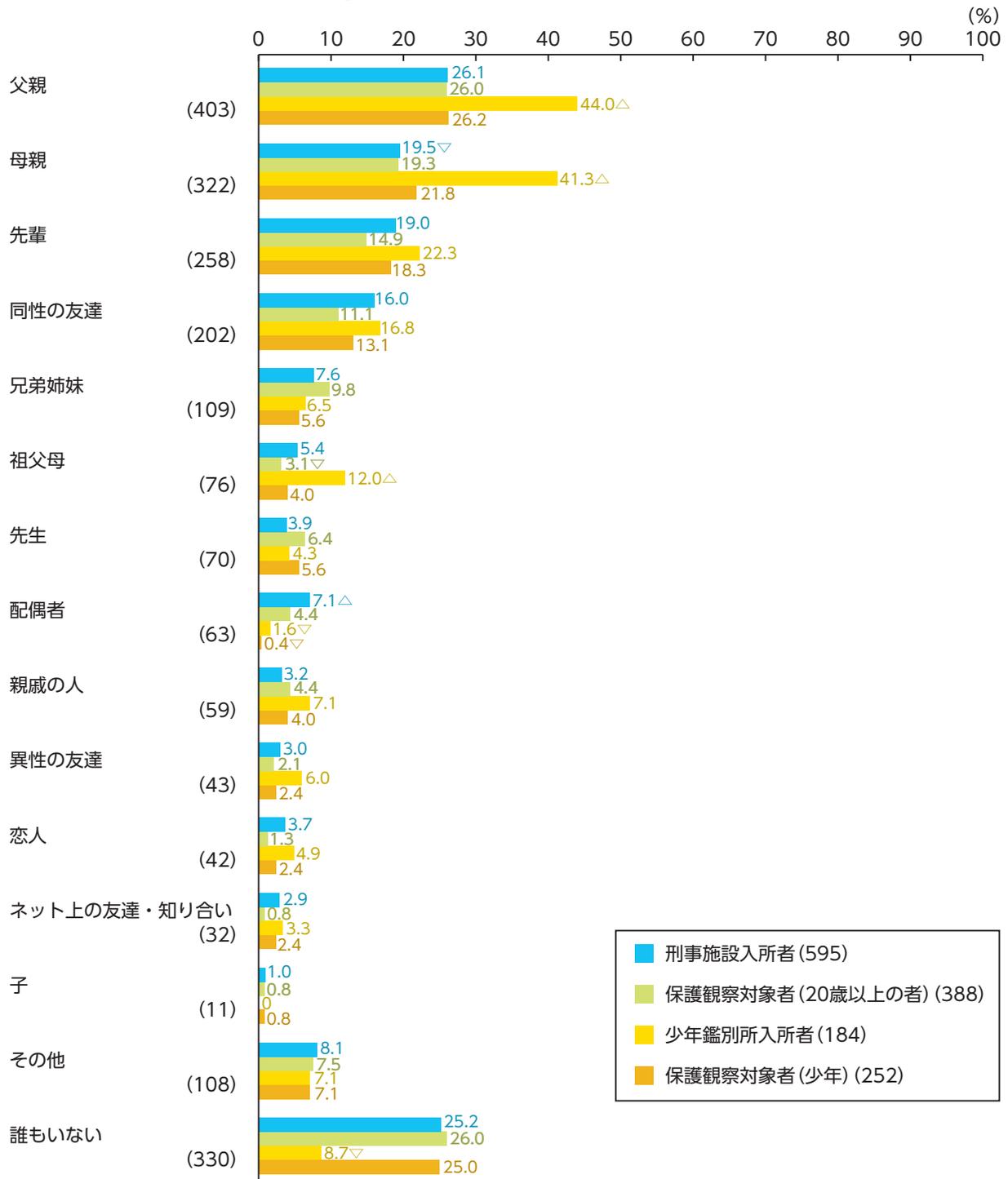
イ あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか。



ウ あなたが、「この人から注意されたら言うことを聞く」と思うのはどの人ですか。



エ あなたが、「こんな人になりたい」と思うのはどんな人物ですか。



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 各項目に該当した者(重複計上による。)の割合である。
 3 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す(p<.05)。
 4 凡例の()内は、対象者の身分別の実人員であり、縦軸の()内は、各項目に該当した者の人員である。
 5 「配偶者」は、内縁関係及び事実婚を含む。

ア 気楽に話ができる人

「あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか」という質問については、いずれの群においても、「同性の友達」の該当率が最も高かった。

また、 χ^2 検定及び残差分析の結果、刑事施設入所者及び保護観察対象者（20歳以上の者）共に該当率が有意に低かった項目は、「同性の友達」、「母親」、「父親」及び「祖父母」であり、高かった項目は、「誰もいない」であった。これに対し、少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）共に該当率が有意に高かった項目は、「同性の友達」、「母親」、「父親」及び「先生」であり、低かった項目は、「配偶者」、「子」及び「誰もいない」であった。

イ 悩みを打ち明けられる人

「あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか」という質問については、いずれの群においても、「同性の友達」の該当率が最も高かった。

また、 χ^2 検定及び残差分析の結果、刑事施設入所者及び保護観察対象者（20歳以上の者）共に該当率が有意に低かった項目は、「同性の友達」、「母親」、「異性の友達」、「父親」及び「恋人」であり、高かった項目は、「子」であった。これに対し、少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）共に該当率が有意に高かった項目は、「同性の友達」、「母親」、「父親」及び「先生」であり、有意に低かった項目は、「配偶者」、「子」及び「誰もいない」であった。

ウ 注意されたら言うことを聞く人

「あなたが、『この人から注意されたら言うことを聞く』と思うのはどの人ですか」という質問については、いずれの群においても、「母親」の該当率が最も高かった（ただし、刑事施設入所者については、「同性の友達」と同率）。

また、 χ^2 検定及び残差分析の結果、刑事施設入所者及び保護観察対象者（20歳以上の者）共に該当率が有意に低かった項目は、「母親」、「父親」、「恋人」及び「祖父母」であった。これに対し、少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）共に該当率が有意に高かった項目は、「母親」及び「父親」であり、低かった項目は、「配偶者」及び「子」であった。

エ 「こんな人になりたい」と思う人

「あなたが、『こんな人になりたい』と思うのはどんな人物ですか」という質問については、「誰もいない」を除くと、いずれの群においても、「父親」の該当率が最も高かった。

また、 χ^2 検定及び残差分析の結果、刑事施設入所者において該当率が有意に低かった項目は、「母親」で、高かった項目は、「配偶者」であり、保護観察対象者（20歳以上の者）において該当率が有意に低かった項目は、「祖父母」であった。これに対し、少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）共に該当率が有意に低かった項目は、「配偶者」であり、さらに、少年鑑別所入所者において該当率が有意に高かった項目は、「父親」、「母親」及び「祖父母」であり、低かった項目は、「誰もいない」であった。

オ 小括

上記のような犯罪者の2群と非行少年の2群の該当率の違いについては、年齢差による生活基盤や対人関係の変化も影響していることが示唆された。また、「あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか」及び「あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか」の各質問について、非行少年の2群で「誰もいない」の該当率が有意に低い点は特徴的であり、非行少年については、犯罪者に比べ、周囲の人々との関係が一定程度保たれていることがうかがえる。

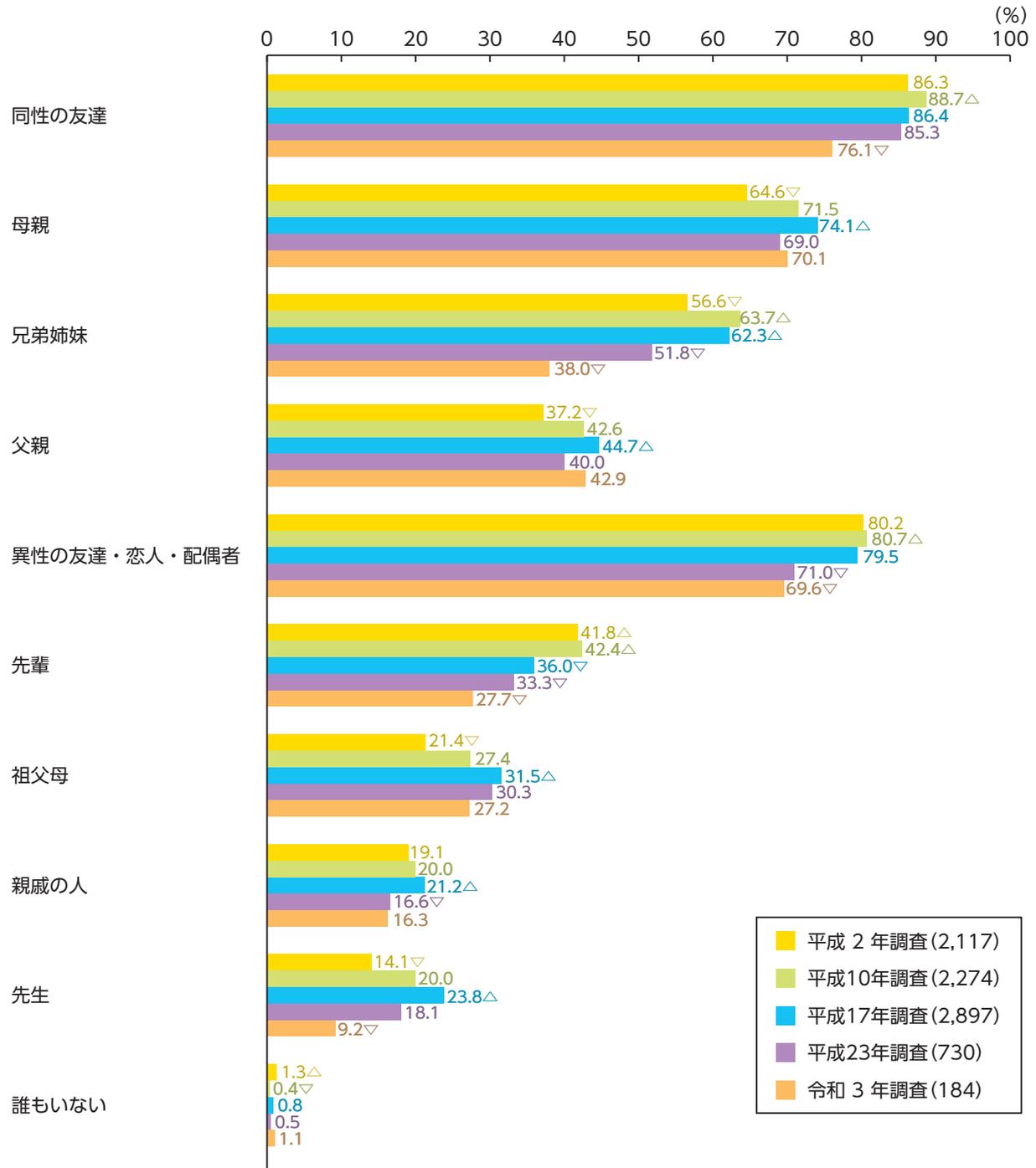
(2) 前回までの調査との比較

少年鑑別所入所者について、周囲の人々との関係に関する各質問の該当率を前回までの調査と比較すると、2-3-2図のとおりである。

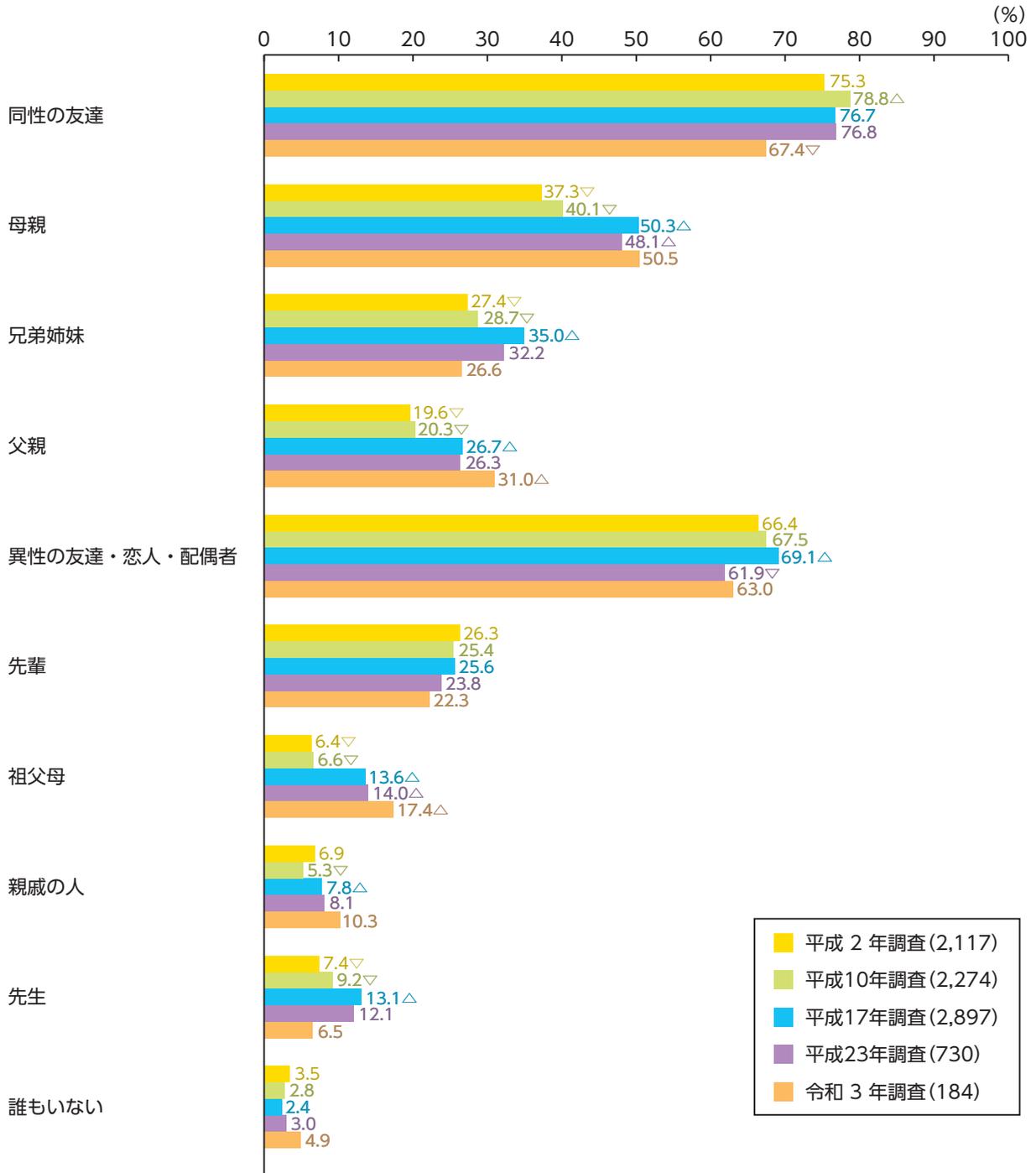
2-3-2 図

少年鑑別所入所者 周囲の人々との関係（前回までの調査との比較）

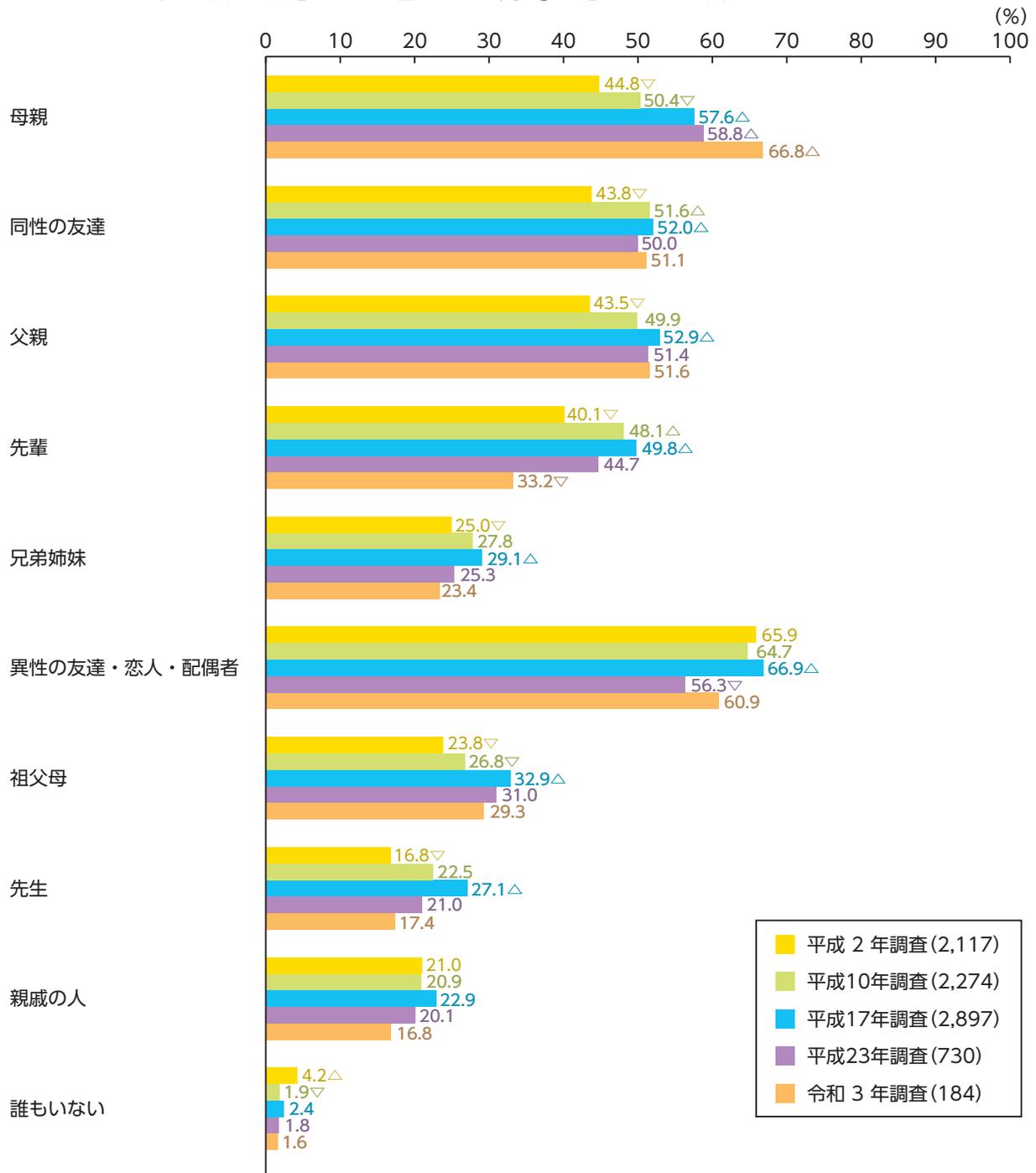
ア あなたが、気楽に話ができると思う人はどの人ですか。



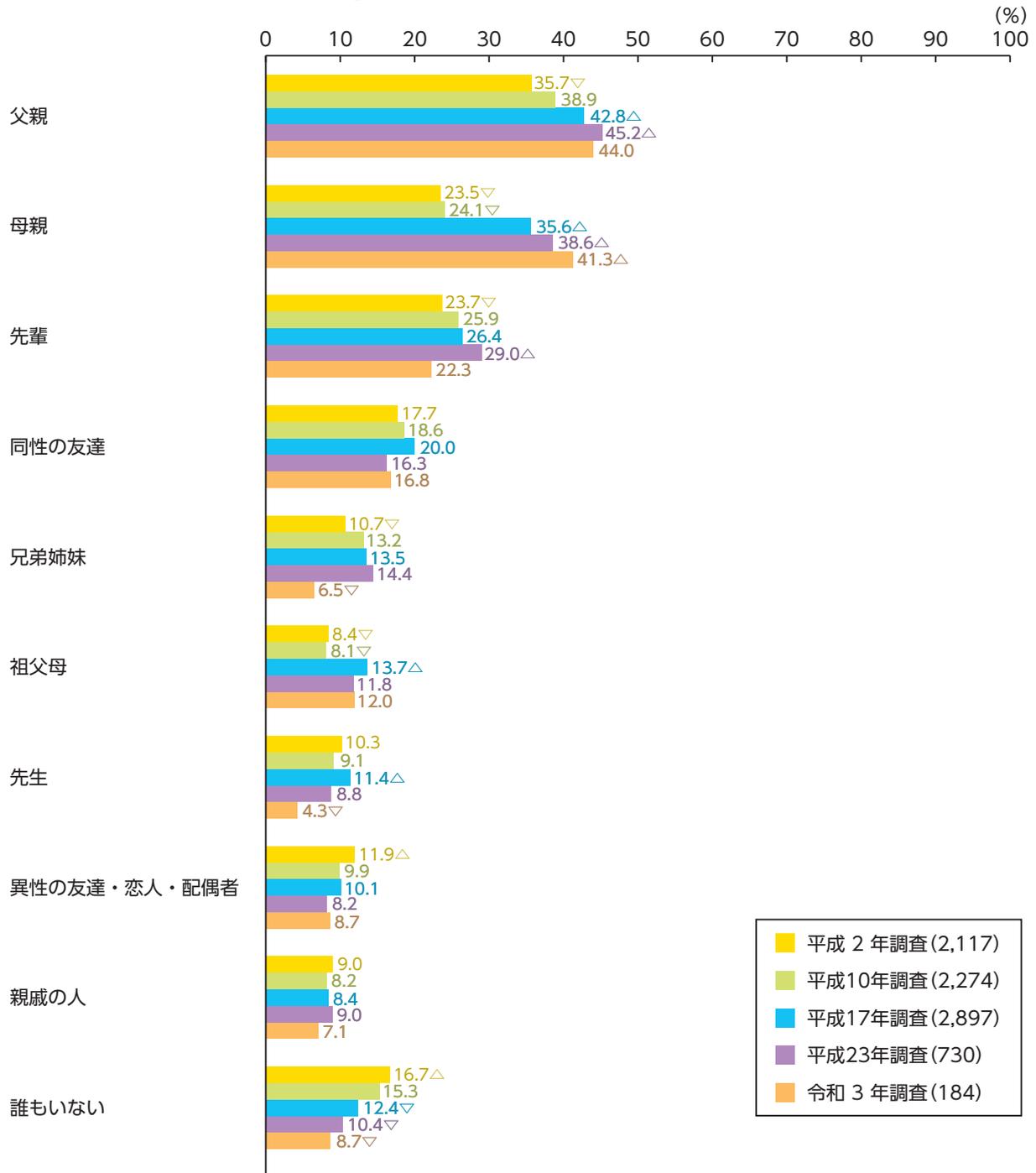
イ あなたが、悩みを打ち明けられると思う人はどの人ですか。



ウ あなたが、「この人から注意されたら言うことを聞く」と思うのはどの人ですか。



エ あなたが、「こんな人になりたい」と思うのはどんな人物ですか。



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 各項目に該当した者(重複計上による。)の割合である。
 3 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す(p<.05)。
 4 凡例の()内は、対象者の調査年別の実人員である。
 5 「異性の友達・恋人・配偶者」は、令和3年調査では「異性の友達」、「恋人」又は「配偶者」のいずれかに該当した者の合計である。
 6 「配偶者」は、内縁関係及び事実婚を含む。
 7 前回までの調査との比較が困難なものは、除外した。

ア 気楽に話ができる人

「あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか」という質問について、今回及び過去4回の調査結果を比較したところ、「同性の友達」、「異性の友達・恋人・配偶者」、「兄弟姉妹」、「先輩」、「親戚の人」及び「先生」の該当率は、いずれも平成17年以降の調査で低下傾向にあり、令和3年調査が最も低く、 χ^2 検定及び残差分析の結果、これら全ての項目において、同調査の該当率が有意に低かった。

イ 悩みを打ち明けられる人

「あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか」という質問について、今回及び過去4回の調査結果を比較したところ、「母親」、「父親」及び「祖父母」の該当率は、いずれも令和3年調査が最も高く、「同性の友達」、「兄弟姉妹」、「先輩」及び「先生」の該当率は、いずれも同調査が最も低かった。 χ^2 検定及び残差分析の結果、同調査の該当率が有意に高かった項目は、「父親」及び「祖父母」であり、低かった項目は、「同性の友達」であった。

ウ 注意されたら言うことを聞く人

「あなたが、『この人から注意されたら言うことを聞く』と思うのはどの人ですか」という質問について、今回及び過去4回の調査結果を比較したところ、「母親」の該当率は上昇し続けており、令和3年調査が最も高かったのに対し、「先輩」、「兄弟姉妹」、「親戚の人」及び「誰もいない」の該当率は、いずれも同調査が最も低かった。 χ^2 検定及び残差分析の結果、同調査の該当率が有意に高かった項目は、「母親」であり、低かった項目は、「先輩」であった。

エ 「こんな人になりたい」と思う人

「あなたが、『こんな人になりたい』と思うのはどんな人物ですか」という質問について、今回及び過去4回の調査結果を比較したところ、「母親」の該当率は上昇し続けており、令和3年調査が最も高かったのに対し、「先輩」、「親戚の人」、「兄弟姉妹」、「先生」及び「誰もいない」の該当率は、同調査が最も低かった。 χ^2 検定及び残差分析の結果、同調査の該当率が有意に高かった項目は、「母親」であり、低かった項目は、「兄弟姉妹」、「先生」及び「誰もいない」であった。

オ 小括

「あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか」及び「あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか」の各質問について、令和3年調査における「同性の友達」、「兄弟姉妹」、「先輩」及び「先生」の該当率が、過去の調査と比べて最も低かった理由としては、近年の少子化により兄弟姉妹のいる非行少年の数自体が減っている可能性や、新型コロナウイルス感染症対策のために実施された一斉休校等のため友人等との関係を構築・維持することが難しい状況が生じていた可能性等が考えられる。

「あなたが、『この人から注意されたら言うことを聞く』と思うのはどの人ですか」及び「あなたが、『こんな人になりたい』と思うのはどんな人物ですか」の各質問については、「父親」の該当率にさほど変化がないにもかかわらず、「母親」の該当率が上昇し続けている点が特徴的であるが、時代と共に、非行少年における親子関係に何らかの変化が生じている可能性が考えられる。

(3) 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較

周囲の人々との関係に関する各質問の該当率を犯罪者・非行少年別に見るとともに、犯罪・非行進度別に見ると、2-3-3図のとおりである。

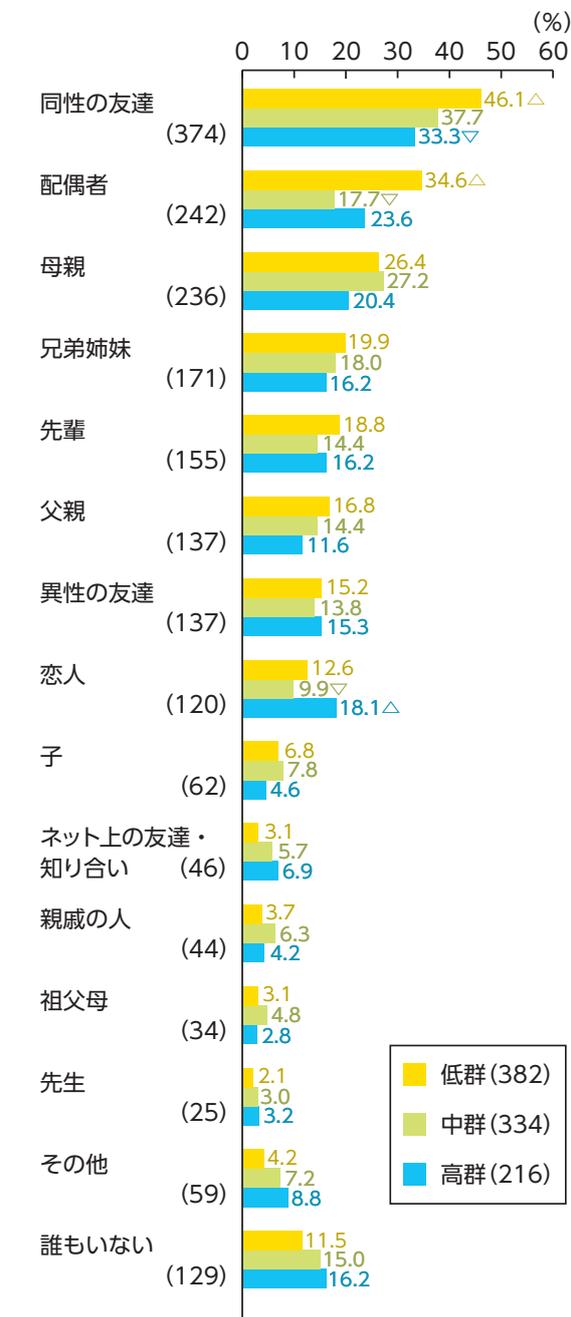
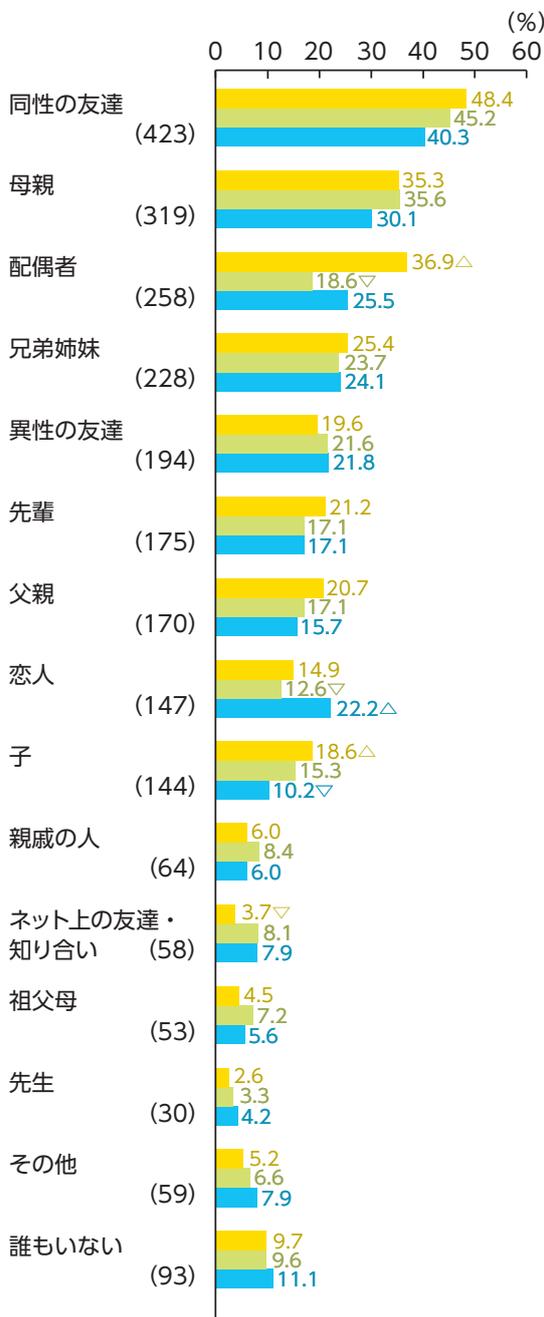
2-3-3 図

周囲の人々との関係（犯罪者・非行少年別、犯罪・非行進度別）

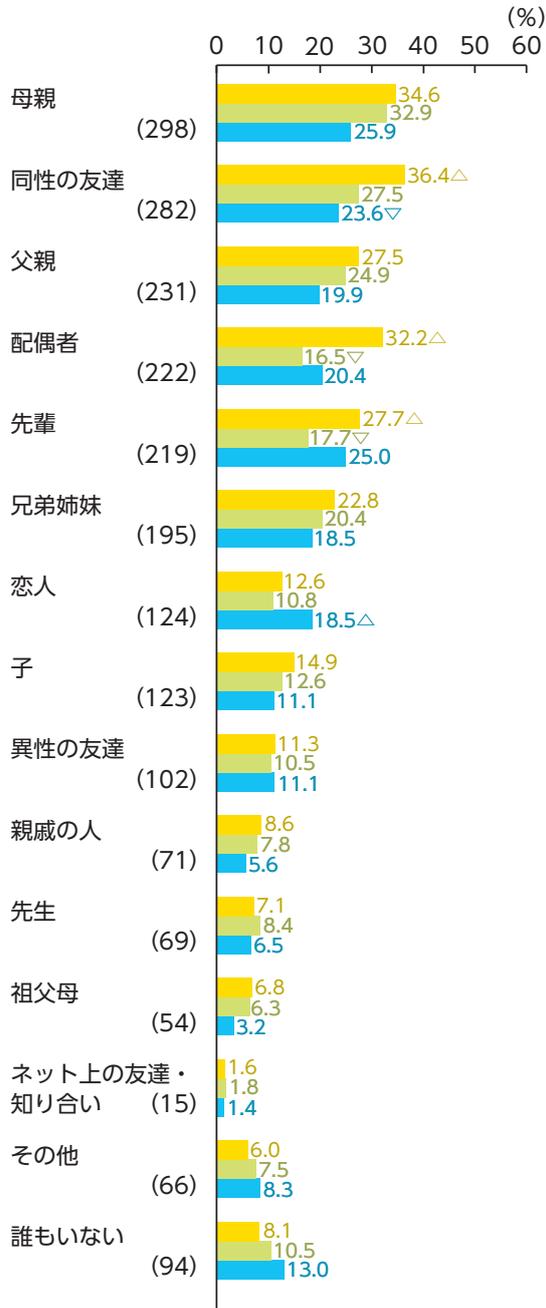
① 犯罪者

ア あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか。

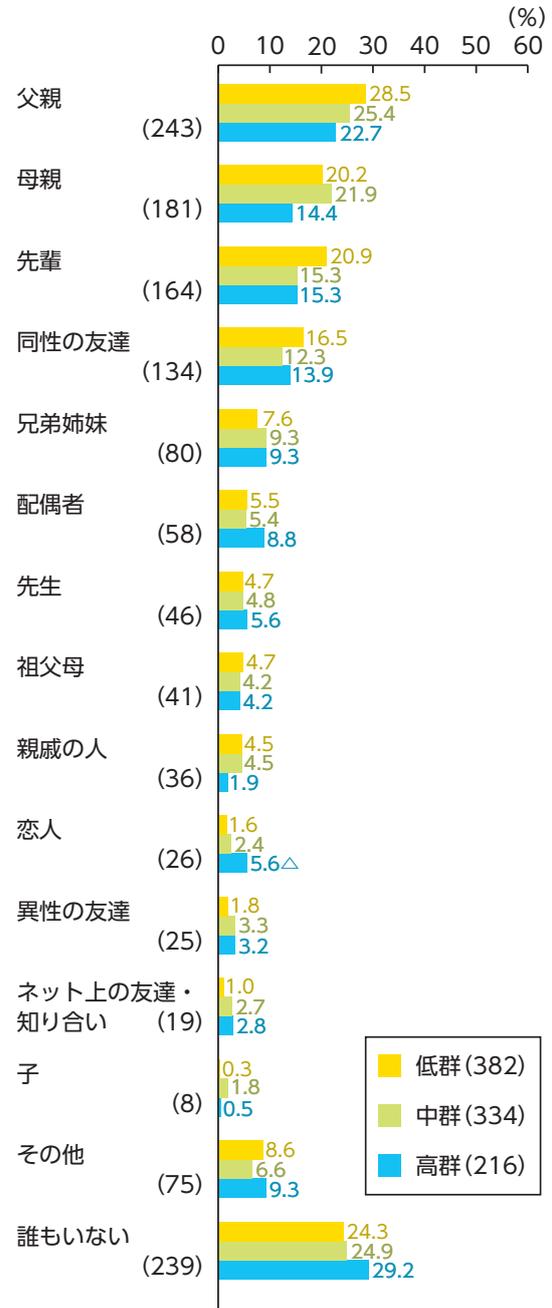
イ あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか。



ウ あなたが、「この人から注意されたら言うことを聞く」と思うのはどの人ですか。

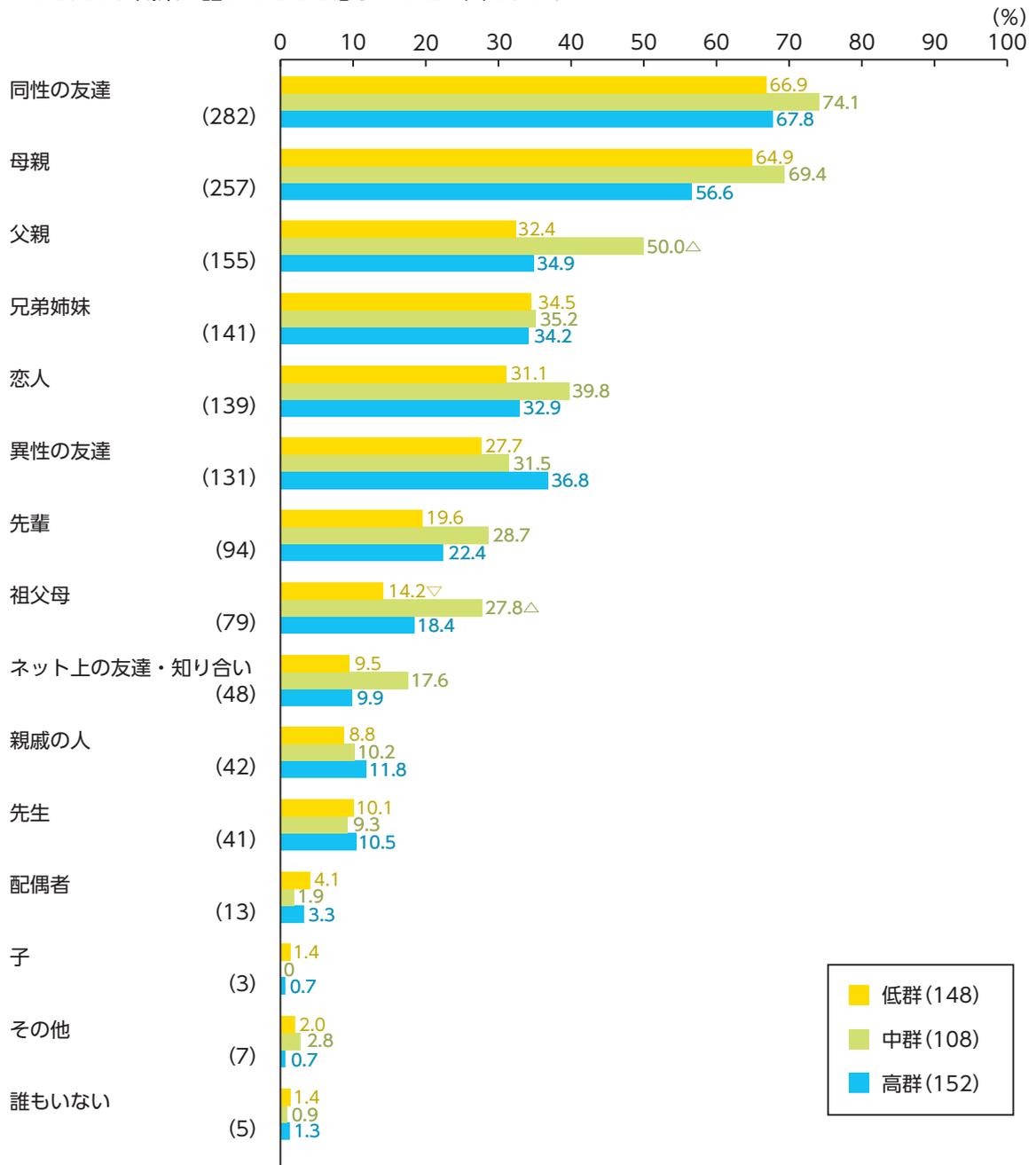


エ あなたが、「こんな人になりたい」と思うのはどんな人物ですか。

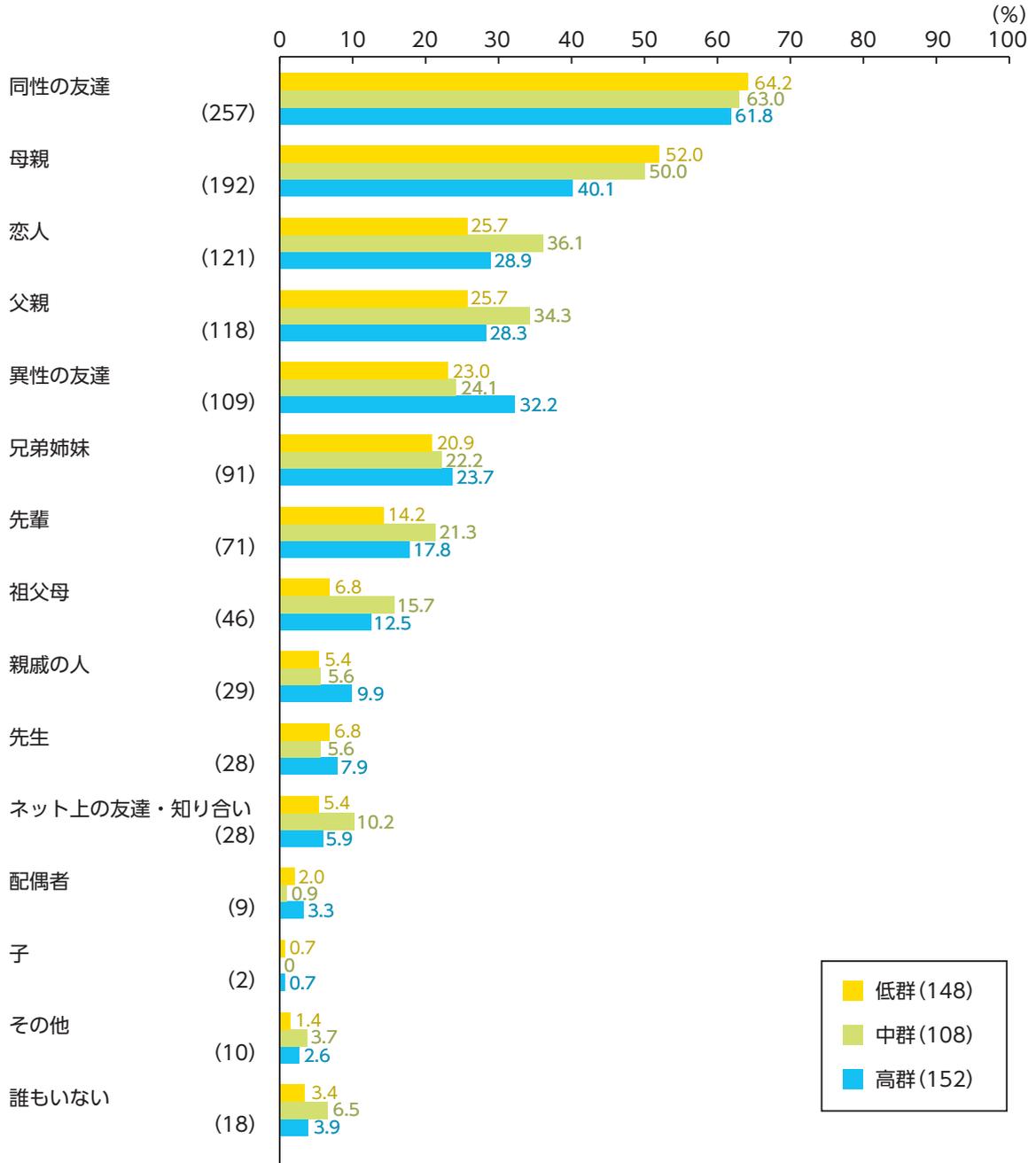


② 非行少年

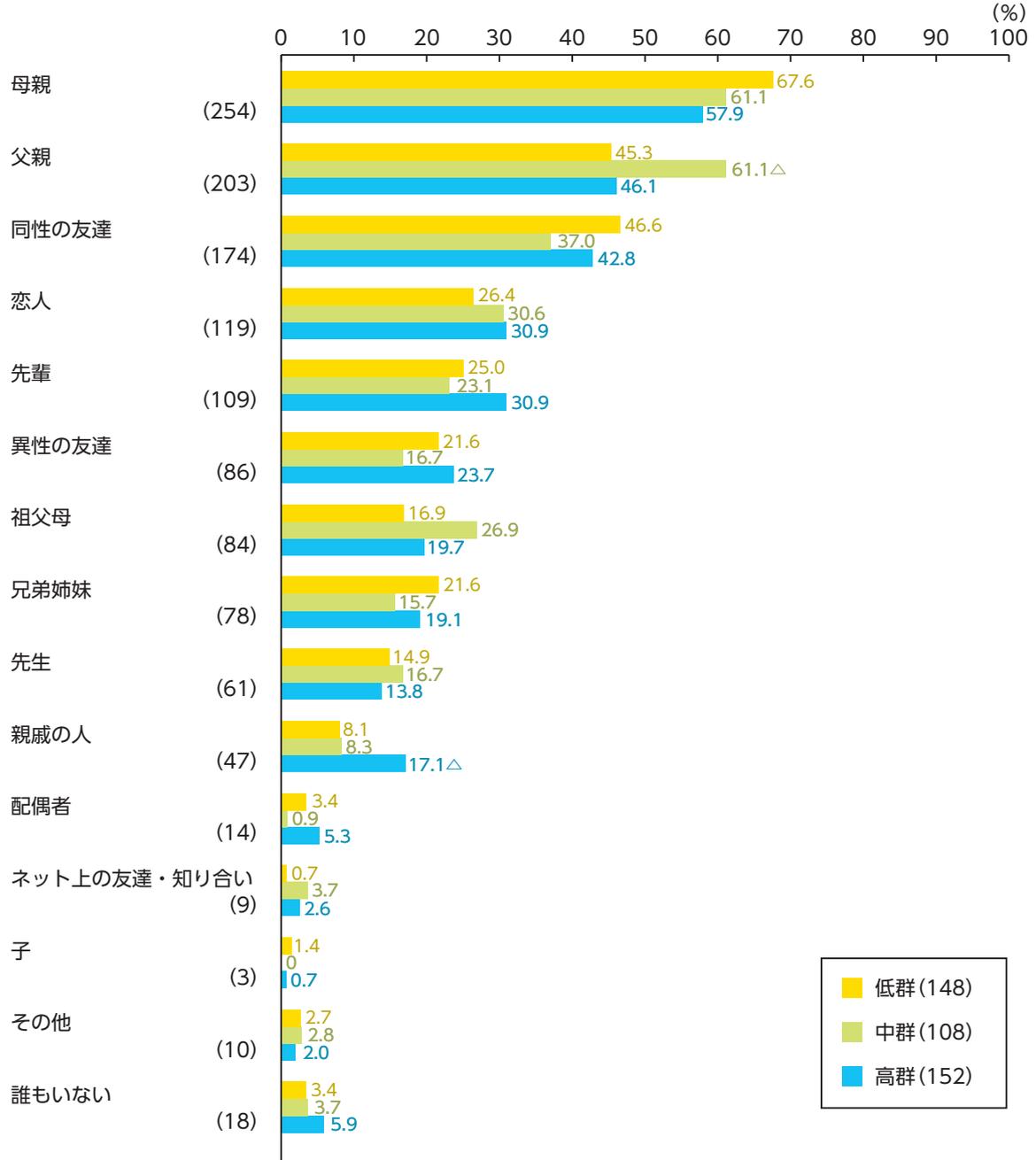
ア あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか。



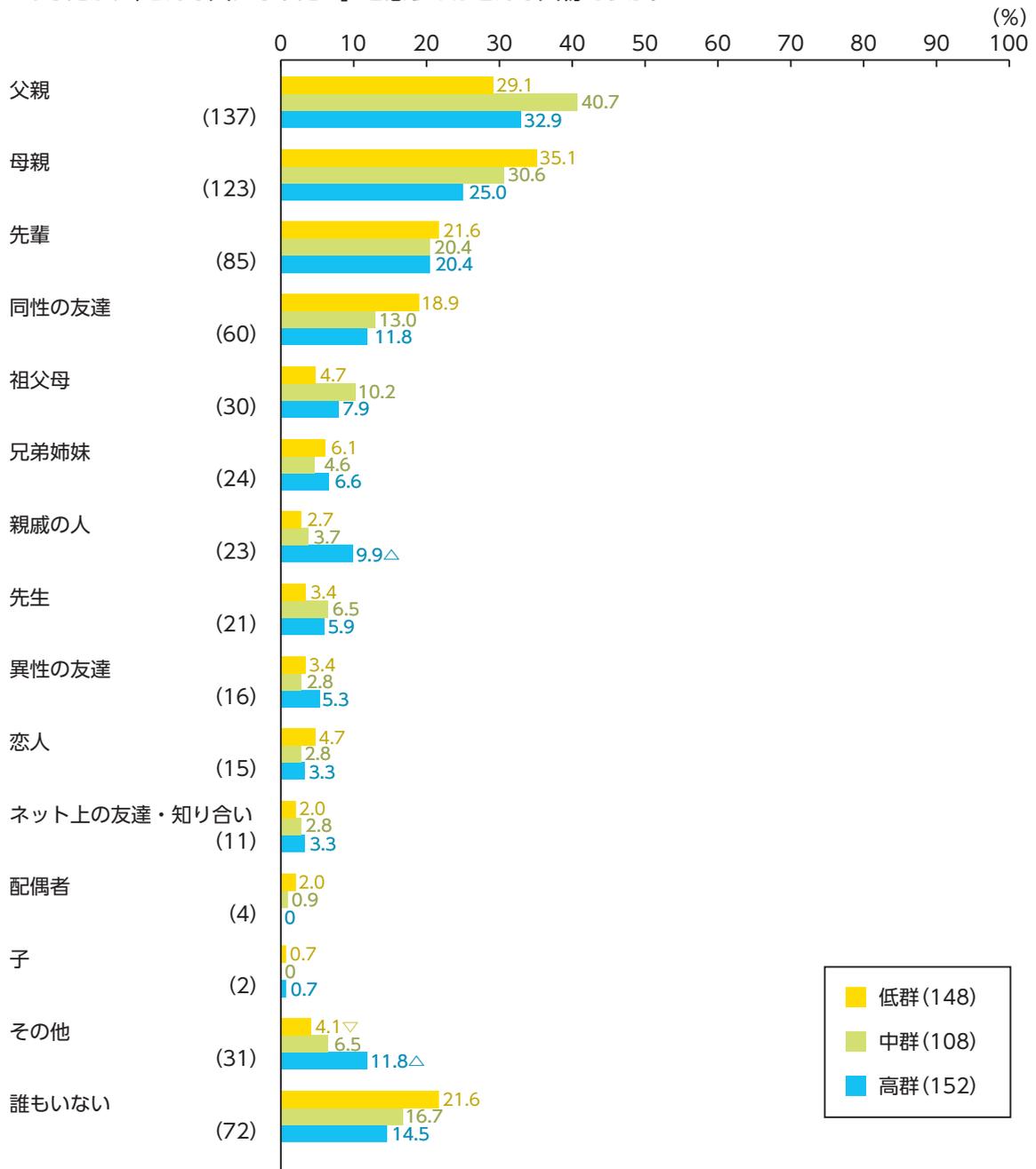
イ あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか。



ウ あなたが、「この人から注意されたら言うことを聞く」と思うのはどの人ですか。



エ あなたが、「こんな人になりたい」と思うのはどんな人物ですか。



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 各項目に該当した者(重複計上による。)の割合である。
 3 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す($p < .05$)。ただし、度数が少ない場合は、モンテカルロ法を使用した検定による。
 4 凡例の()内は、犯罪・非行進捗別の実人員であり、縦軸の()内は、各項目に該当した者の人員である。

ア 気楽に話ができる人

χ^2 検定及び残差分析の結果、「あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか」という質問について、犯罪者では、低群において該当率が有意に高かった項目は「配偶者」及び「子」、低かった項目は「ネット上の友達・知り合い」で、中群において該当率が有意に低かった項目は「配偶者」及び「恋人」であり、高群において該当率が有意に高かった項目は「恋人」、低かった項目は「子」であった。これに対し、非行少年では、低群において該当率が有意に低かった項目は「祖父母」であり、中群において該当率が有意に高かった項目は「父親」及び「祖父母」であった。

イ 悩みを打ち明けられる人

χ^2 検定及び残差分析の結果、「あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか」という質問について、犯罪者では、低群において該当率が有意に高かった項目は「同性の友達」及び「配偶者」で、中群において該当率が有意に低かった項目は「配偶者」及び「恋人」であり、高群において該当率が有意に低かった項目は「同性の友達」、高かった項目は「恋人」であった。これに対し、非行少年では、有意な差が認められる項目はなかった。

ウ 注意されたら言うことを聞く人

χ^2 検定及び残差分析の結果、「あなたが、『この人から注意されたら言うことを聞く』と思うのはどの人ですか」という質問について、犯罪者では、低群において該当率が有意に高かった項目は「同性の友達」、「配偶者」及び「先輩」で、中群において該当率が有意に低かった項目は「先輩」及び「配偶者」であり、高群において該当率が有意に低かった項目は「同性の友達」、高かった項目は「恋人」であった。これに対し、非行少年では、中群において該当率が有意に高かった項目は「父親」で、高群において該当率が有意に高かった項目は「親戚の人」であった。

エ 「こんな人になりたい」と思う人

χ^2 検定及び残差分析の結果、「あなたが、『こんな人になりたい』と思うのはどんな人物ですか」という質問について、犯罪者では、高群において該当率が有意に高かった項目は「恋人」であった。これに対し、非行少年では、高群において該当率が有意に高かった項目は「親戚の人」であった。

オ 小括

犯罪者の中では、高群において、いずれの質問についても「恋人」の該当率が有意に高く、非行少年の中では、高群において、「あなたが、『この人から注意されたら言うことを聞く』と思うのはどの人ですか」及び「あなたが、『こんな人になりたい』と思うのはどんな人物ですか」の各質問について、「親戚の人」の該当率が有意に高かった点が特徴的であった。

4 学校生活に対する意識

Q7 あなたの中学時代や高校時代の学校生活について、
 (高校に入ったことのある人は、あなたの高校生活について教えてください。
 それ以外の人は、あなたの中学校生活について教えてください。)
 次のこと (ア～キ) がどれくらいありましたか。
 あてはまる番号に○をひとつだけつけてください。

- ア 学校に行くのがいやだった
- イ 勉強が分からないことが多かった
- ウ クラブ活動などうちこめるものがあった
- エ 先生から理解されていた
- オ 同級生から理解されていた
- カ 学校ではひとりぼっちや仲間はずれになっていた
- キ 周りから悪く思われていた

(選択肢)

- | | | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|---------|---|---------|
| 1 | とても | 2 | やや | 3 | あまり | 4 | まったく |
| | あてはまる | | あてはまる | | あてはまらない | | あてはまらない |

(1) 対象者の身分別の比較

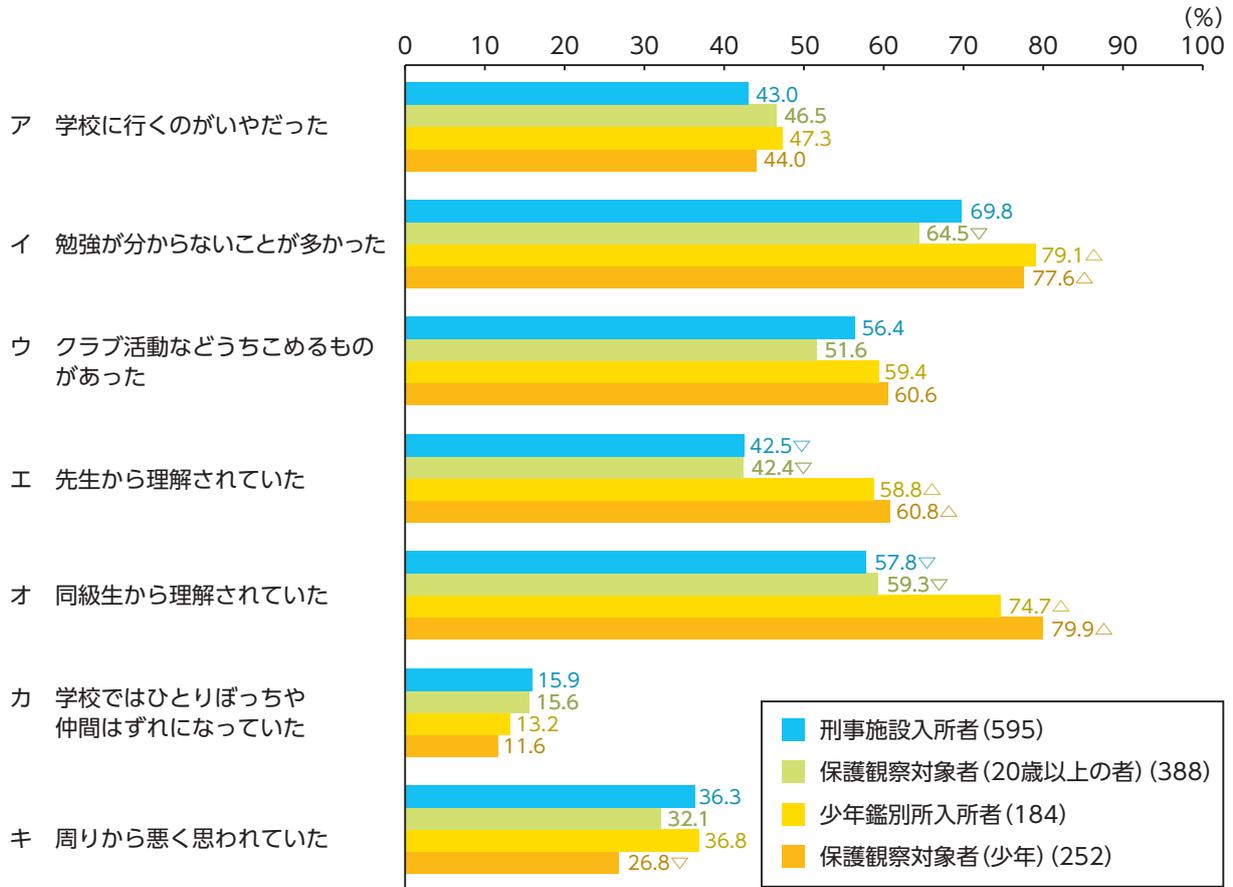
学校生活に対する意識に関する各項目について、「あてはまる」(「とてもあてはまる」及び「ややあてはまる」の合計。以下この項において同じ。)に該当した者の構成比を対象者の身分別に見ると、2-4-1図のとおりである。

「学校ではひとりぼっちや仲間はずれになっていた」、「周りから悪く思われていた」に該当した者の構成比は、いずれの群においても、それぞれ1割強、3割前後にとどまった。

χ^2 検定及び残差分析の結果、「学校に行くのがいやだった」、「クラブ活動などうちこめるものがあつた」及び「学校ではひとりぼっちや仲間はずれになっていた」を除く全ての項目に有意な差が認められたところ、「先生から理解されていた」及び「同級生から理解されていた」は、犯罪者の2群（刑事施設入所者及び保護観察対象者（20歳以上の者））では、いずれも有意に低かつた一方、非行少年の2群（少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年））では、いずれも有意に高かつた。また、「勉強が分からないことが多かつた」は、非行少年の2群において、有意に高く、「周りから悪く思われていた」は、保護観察対象者（少年）において、有意に低かつた。これらの結果からは、犯罪者は、非行少年よりも周囲の先生や生徒から理解されていたと感じる者が少ない傾向があり、非行少年は、人間関係の問題というよりは、勉強面で困難を抱えていたことが認められた。

2-4-1 図

学校生活に対する意識 (対象者の身分別)



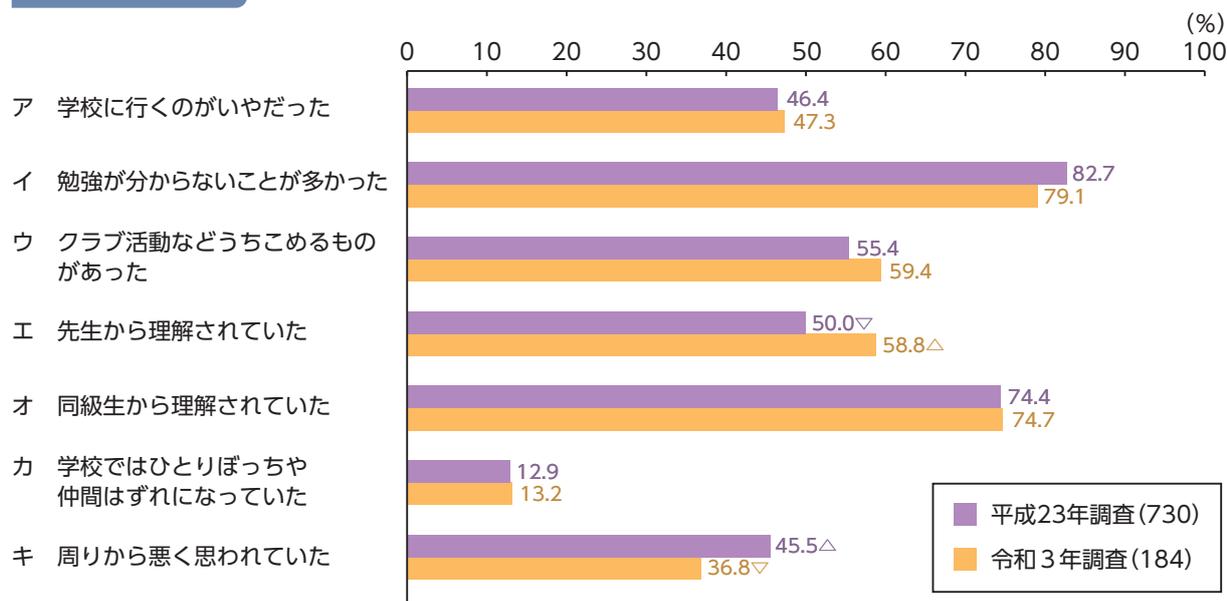
注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 学校生活に対する意識の各項目が不詳の者を除く。
 3 各項目について、「とてもあてはまる」及び「ややあてはまる」を合計した構成比である。
 4 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す ($p < .05$)。
 5 凡例の()内は、対象者の身分別の実人員である。

(2) 前回までの調査との比較

本質問は平成23年調査における新設項目であるため、2回分の比較を行った。少年鑑別所入所者について、今回の調査で各項目に該当した者の構成比を平成23年調査の結果と比較すると、2-4-2図のとおりである。 χ^2 検定の結果、令和3年調査では、「先生から理解されていた」が期待値より有意に高く、「周りから悪く思われていた」が期待値より有意に低かった。この結果から、平成23年よりも令和3年の調査で回答した者の方が、学校での人間関係を肯定的に捉えていることがうかがえる。

2-4-2図

少年鑑別所入所者 学校生活に対する意識（前回までの調査との比較）



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 学校生活に対する意識の各項目が不詳の者を除く。
 3 各項目について、「とてもあてはまる」及び「ややあてはまる」を合計した構成比である。
 4 χ^2 検定により有意差が認められ、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す($p<.05$)。
 5 凡例の()内は、対象者の調査年別の実人員である。

(3) 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較

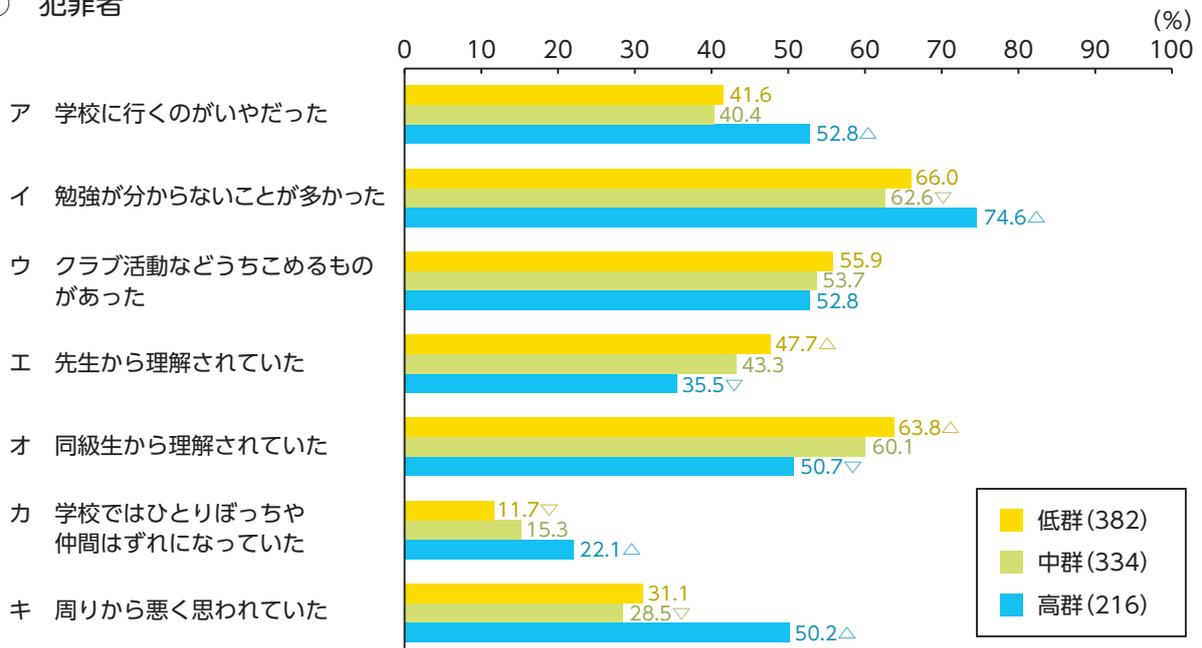
学校生活に対する意識に関する各項目について、「あてはまる」に該当した者の構成比を犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを犯罪・非行進度別に見ると、2-4-3図のとおりである。

χ^2 検定及び残差分析の結果、犯罪者については、低群では、「先生から理解されていた」及び「同級生から理解されていた」が有意に高い一方、「学校ではひとりぼっちや仲間はずれになっていた」が有意に低く、学校生活での孤立感は高くない傾向がうかがえた。これに対し、高群では、「学校に行くのがいやだった」、「勉強が分からないことが多かった」、「学校ではひとりぼっちや仲間はずれになっていた」及び「周りから悪く思われていた」が有意に高い上、「先生から理解されていた」及び「同級生から理解されていた」が有意に低く、総じて、学校生活に対して否定的な意識を持っていることがうかがえる。非行少年については、低群では、「先生から理解されていた」が有意に高く、「周りから悪く思われていた」が有意に低い一方、高群では、前者が有意に低く、後者が有意に高くなっており、非行性の進度の違いによって学校生活における対人関係の意識が異なっていた。

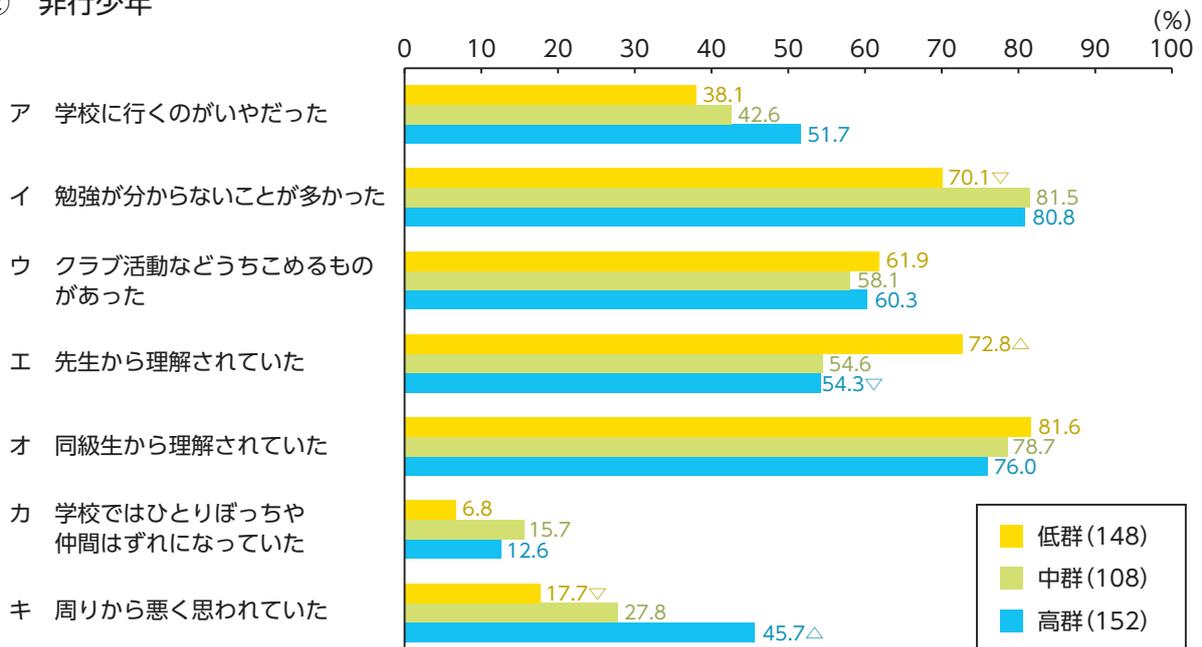
2-4-3 図

学校生活に対する意識 (犯罪者・非行少年別、犯罪・非行進度別)

① 犯罪者



② 非行少年



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 学校生活に対する意識の各項目が不詳の者を除く。
 3 各項目について、「とてもあてはまる」及び「ややあてはまる」を合計した構成比である。
 4 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す ($p < .05$)。
 5 凡例の()内は、犯罪・非行進度別の実人員である。

5 就労に対する意識

Q8 働くことや仕事について、あなたの考えをうかがいます。

あてはまる番号に○をひとつだけつけてください。

- ア 学校を卒業したら、できるだけ早く就職して、親から自立すべきだ
- イ 汗水流して働くより、楽に金を稼げる仕事がしたい
- ウ 自分のやりたい仕事が見つからなければ働かなくてもよい
- エ フリーターや派遣社員は、長期間続けるべき仕事ではない
- オ 仕事や就職に役立つ資格や免許は苦勞しても取りたい
- カ 職場の人間関係は面倒くさい
- キ 努力すれば、満足できる地位や収入は得られるものだ
- ク 仕事について夢や目標を持っている
- ケ できるだけ同じ仕事を続けた方がよい
- コ 自分に向いている仕事が見つかるまで何度でも転職すべきだ

(選択肢)

- | | | | | | | | |
|---|-------------|---|------------------|---|--------------------|---|----------------|
| 1 | とても
そう思う | 2 | どちらかといえば
そう思う | 3 | どちらかといえば
そう思わない | 4 | ぜんぜん
そう思わない |
|---|-------------|---|------------------|---|--------------------|---|----------------|

(1) 対象者の身分別の比較

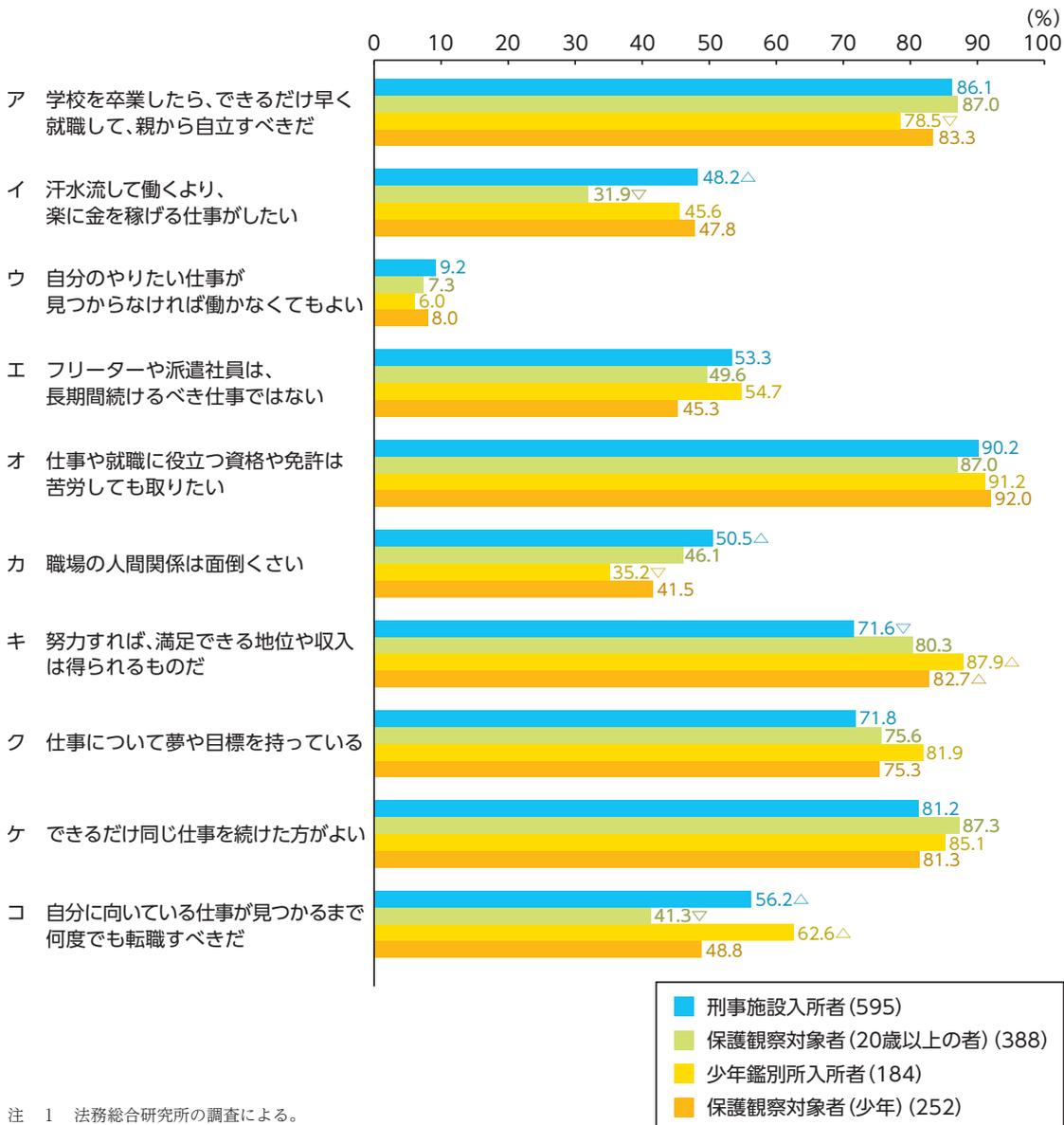
就労に対する意識に関する各項目について、肯定的回答（「とてもそう思う」及び「どちらかといえばそう思う」の合計。以下この項において同じ。）をした者の構成比を対象者の身分別に見ると、2-5-1図のとおりである。

χ^2 検定及び残差分析の結果、刑事施設入所者では、「汗水流して働くより、楽に金を稼げる仕事がしたい」、「職場の人間関係は面倒くさい」及び「自分に向いている仕事が見つかるまで何度でも転職すべきだ」が有意に高い一方、「努力すれば、満足できる地位や収入は得られるものだ」が有意に低く、就労の継続や努力に消極的な姿勢や否定的な意識が見られた。少年鑑別所入所者では、刑事施設入所者と同様に「自分に向いている仕事が見つかるまで何度でも転職すべきだ」が有意に高かったが、他方で、「職場の人間関係は面倒くさい」は有意に低く、「努

力すれば、満足できる地位や収入は得られるものだ」は有意に高いといった前向きな意識も見られた。

なお、就労の有無が再犯と深く関係すると考えられるところ、「自分のやりたい仕事が見つからなければ働かなくてもよい」に肯定的回答をした者の構成比を見ると、いずれの群においても1割未満にとどまった。

2-5-1 図 就労に対する意識（対象者の身分別）



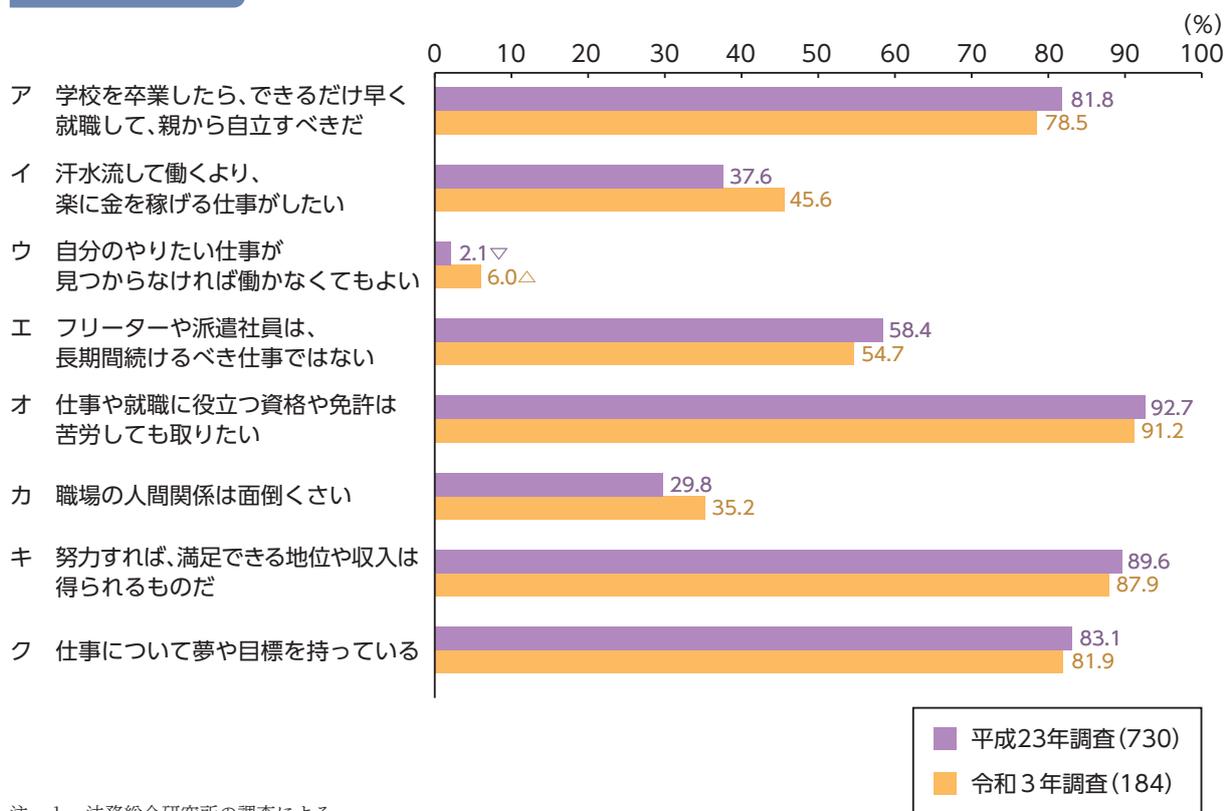
注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 就労に対する意識の各項目が不詳の者を除く。
 3 各項目について、「とてもそう思う」及び「どちらかといえばそう思う」を合計した構成比である。
 4 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す ($p < .05$)。
 5 凡例の()内は、対象者の身分別の実人員である。

(2) 前回までの調査との比較

本質問は平成23年調査における新設項目であるため、2回分の比較を行った。少年鑑別所入所者について、今回及び平成23年調査の結果を比較すると、2-5-2図のとおりである。 χ^2 検定の結果、令和3年調査では、「自分のやりたい仕事が見つからなければ働かなくてもよい」が期待値より有意に高かった。この結果から、平成23年調査よりも、令和3年調査に回答した者の方が、就労に対する安逸傾向の高さが見られた。

2-5-2図

少年鑑別所入所者 就労に対する意識（前回までの調査との比較）



- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 就労に対する意識の各項目が不詳の者を除く。
 3 各項目について、「とてもそう思う」及び「どちらかといえばそう思う」を合計した構成比である。
 4 χ^2 検定により有意差が認められ、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す($p < .05$)。
 5 凡例の()内は、対象者の調査年別の実人員である。
 6 前回までの調査との比較が困難なものは、除外した。

(3) 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較

就労に対する意識に関する各項目について、肯定的回答をした者の構成比を犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを犯罪・非行進度別に見ると、2-5-3図のとおりである。

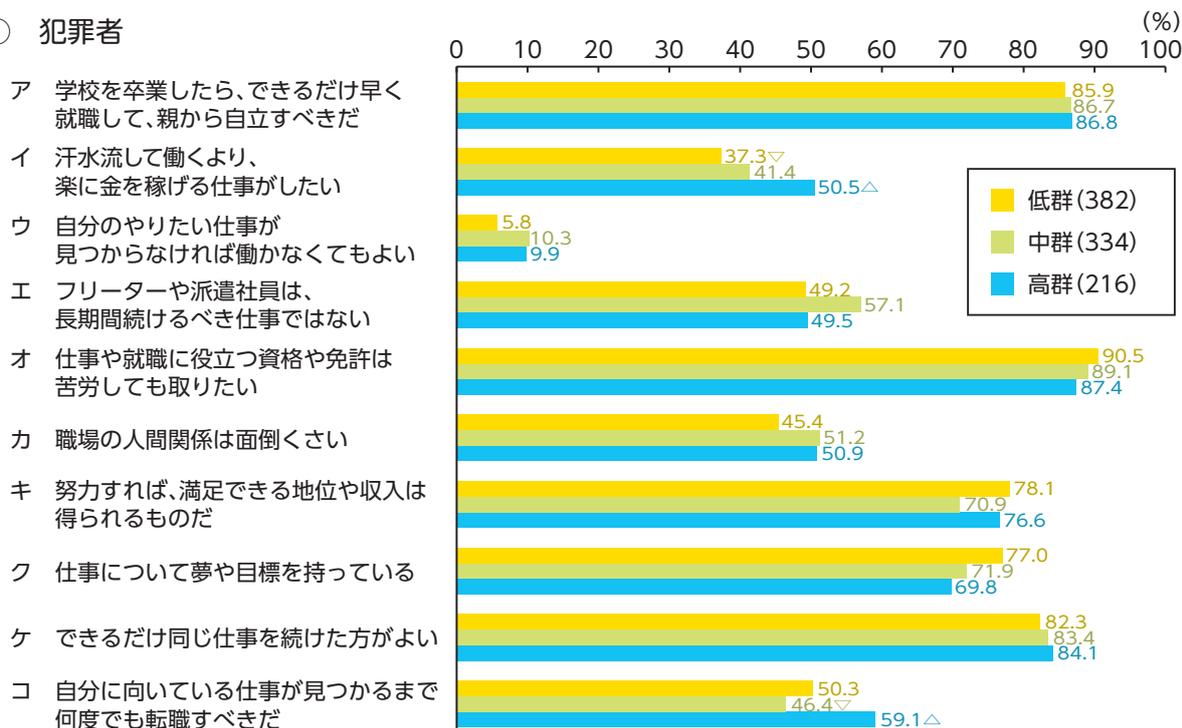
χ^2 検定及び残差分析の結果、犯罪者では、「汗水流して働くより、楽に金を稼げる仕事がしたい」は、低群で有意に低く、高群で有意に高かった。また、「自分に向いている仕事が見つ

かるまで何度でも転職すべきだ」は、中群で有意に低く、高群で有意に高かった。非行少年では、「仕事について夢や目標を持っている」は、低群で有意に低かったのに対し、高群で有意に高かった。これらの結果から、犯罪者の高群は、就労に対する堅実さを欠く傾向があり、非行少年の高群は、夢や目標といった前向きな意識はありつつ、目標と現実の間で葛藤が生じやすい可能性がうかがえる。

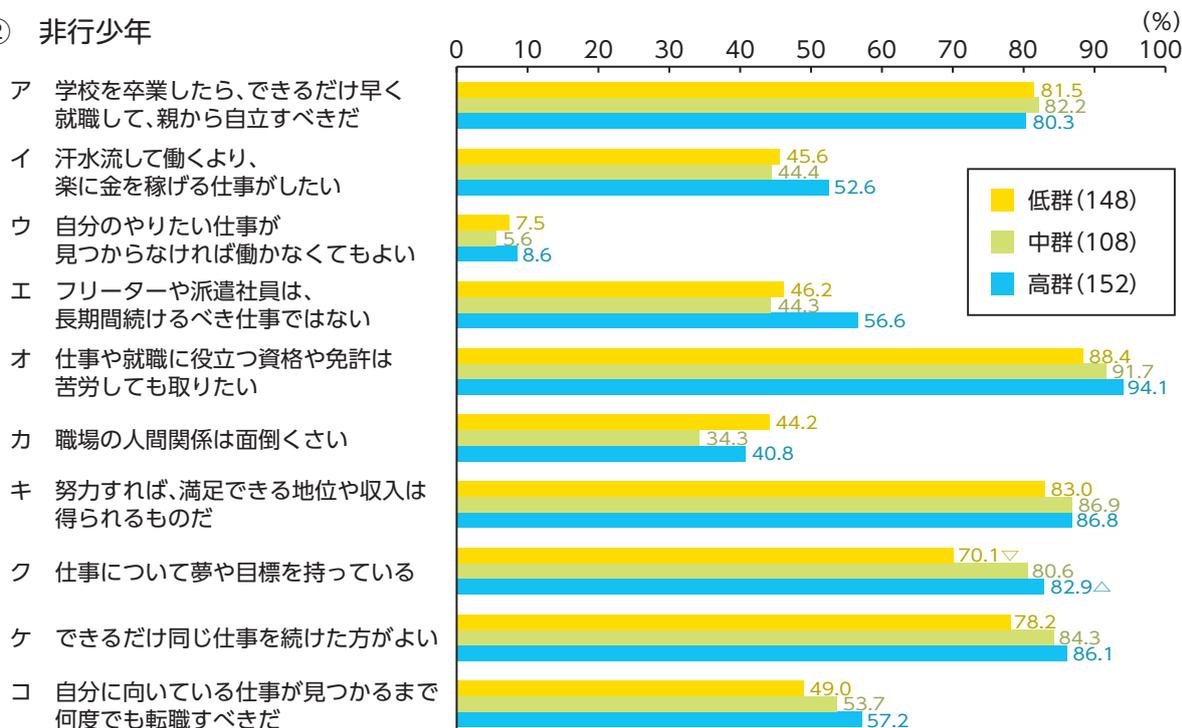
2-5-3 図

就労に対する意識（犯罪者・非行少年、犯罪・非行進度別）

① 犯罪者



② 非行少年



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 就労に対する意識の各項目が不詳の者を除く。
 3 各項目について、「とてもそう思う」及び「どちらかといえばそう思う」を合計した構成比である。
 4 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す ($p < .05$)。
 5 凡例の()内は、犯罪・非行進度別の実人員である。

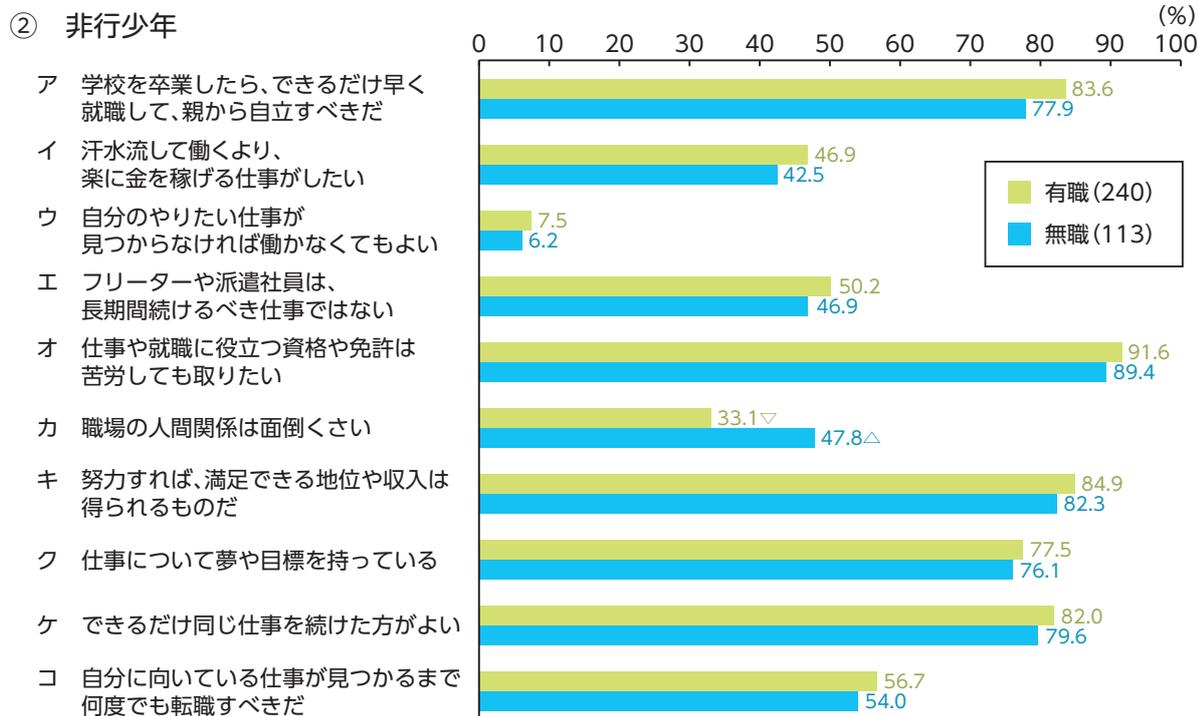
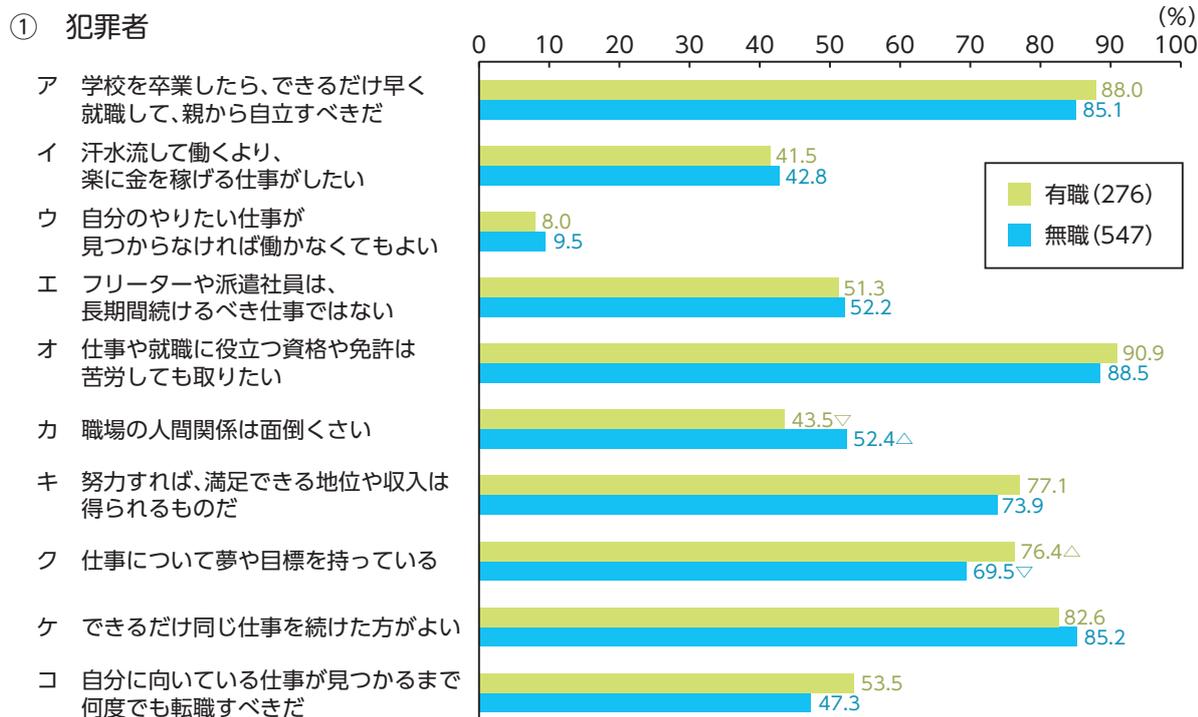
(4) 犯罪者・非行少年別及び就労状況別の比較

就労の有無により、就労に対する意識に違いが見られることが考えられるため、就労に対する意識に関する各項目について、肯定的回答をした者の構成比を犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを就労状況別（有職・無職）に見ると、2-5-4図のとおりである。

χ^2 検定の結果、犯罪者及び非行少年のいずれについても、「職場の人間関係は面倒くさい」は、有職では期待値より有意に低いのに対し、無職では期待値より有意に高く、犯罪者については、「仕事について夢や目標を持っている」は、有職では期待値より有意に高いのに対し、無職では期待値より有意に低かった。これらの結果から、職場の人間関係の捉え方や目標指向性が、就労状況の安定と関連している可能性がうかがえる。

2-5-4 図

就労に対する意識（犯罪者・非行少年別、就労状況別）



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 就労に対する意識の各項目が不詳の者を除く。
 3 各項目について、「とてもそう思う」及び「どちらかといえばそう思う」を合計した構成比である。
 4 「就労状況」は、調査時により、「無職」は失業中の者を含み、専業主婦又は主夫を含まない。
 5 χ^2 検定により有意差が認められ、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す ($p < .05$)。
 6 凡例の()内は、対象者の就労状況別の実人員である。

6 地域社会との関係

Q9 あなたの住んでいた地域とのかかわりで、次のことがどれくらいあてはまりますか。
あてはまる番号に○をひとつだけつけてください。

- ア 地域のお祭りなど行事にはよく参加した
- イ 地域のスポーツ活動によく参加した
- ウ 公園のそうじなどの地域のボランティア活動によく参加した
- エ 地域の人、困ったときに力になってくれる
- オ 地域の人、喜ぶようなことをしてあげたい

(選択肢)

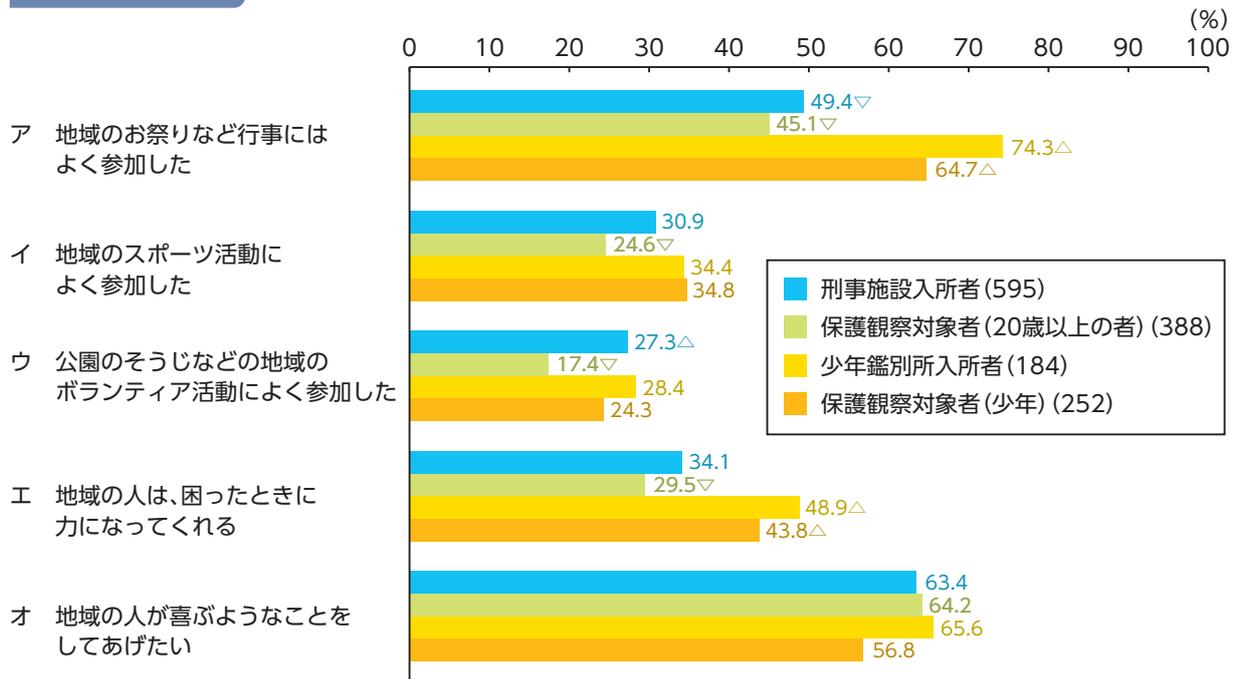
- | | | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|---------|---|---------|
| 1 | とても | 2 | やや | 3 | あまり | 4 | まったく |
| | あてはまる | | あてはまる | | あてはまらない | | あてはまらない |

(1) 対象者の身分別の比較

地域社会との関係に関する各項目について、「あてはまる」（「とてもあてはまる」及び「ややあてはまる」の合計。以下この項において同じ。）に該当した者の構成比を対象者の身分別に見ると、2-6-1図のとおりである。 χ^2 検定の結果、「地域の人、喜ぶようなことをしてあげたい」を除く、全ての項目に有意な差が認められたところ、残差分析の結果、犯罪者である刑事施設入所者及び保護観察対象者（20歳以上の者）共に有意に低かった項目は、「地域のお祭りなど行事にはよく参加した」であり、非行少年である少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）共に有意に高かった項目は、「地域のお祭りなど行事にはよく参加した」及び「地域の人、困ったときに力になってくれる」であった。さらに、刑事施設入所者が有意に高かった項目には、「公園のそうじなどの地域のボランティア活動によく参加した」があった。保護観察対象者（20歳以上の者）は、「地域の人、喜ぶようなことをしてあげたい」を除く、全ての項目において、有意に低かった。

2-6-1 図

地域社会との関係（対象者の身分別）



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 地域社会との関係の各項目が不詳の者を除く。
 3 各項目について、「とてもあてはまる」及び「ややあてはまる」を合計した者の構成比である。
 4 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す ($p < .05$)。
 5 ()内は、対象者の身分別の実人員である。

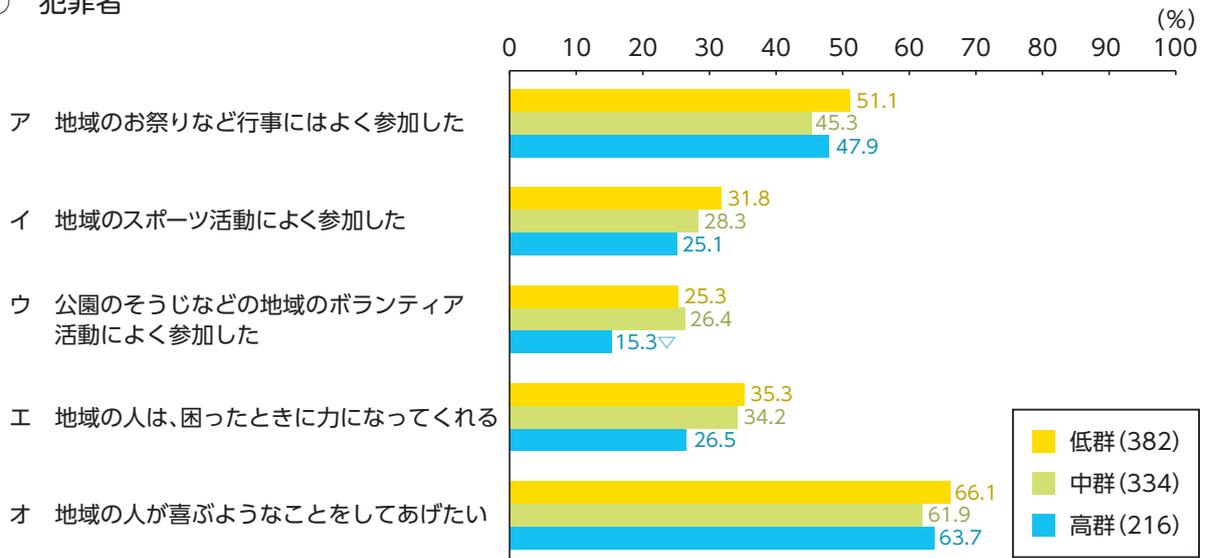
(2) 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較

地域社会との関係に関する各項目について、「あてはまる」に該当した者の構成比を犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを犯罪・非行進度別に見ると、2-6-2図のとおりである。 χ^2 検定及び残差分析の結果、犯罪者では、「公園のそうじなどの地域のボランティア活動によく参加した」に有意な差が認められ、高群において有意に低かった。一方、非行少年の高群において、有意に低かった項目は、「地域のスポーツ活動によく参加した」及び「公園のそうじなどの地域のボランティア活動によく参加した」であった。また、非行少年の低群において、有意に高かった項目は、「地域のスポーツ活動によく参加した」、「公園のそうじなどの地域のボランティア活動によく参加した」及び「地域の人、困ったときに力になってくれる」であり、同高群とは、地域活動に参加した経験（イ・ウ）や、地域からの支援に対する期待（エ）に異なる特徴が見られた。

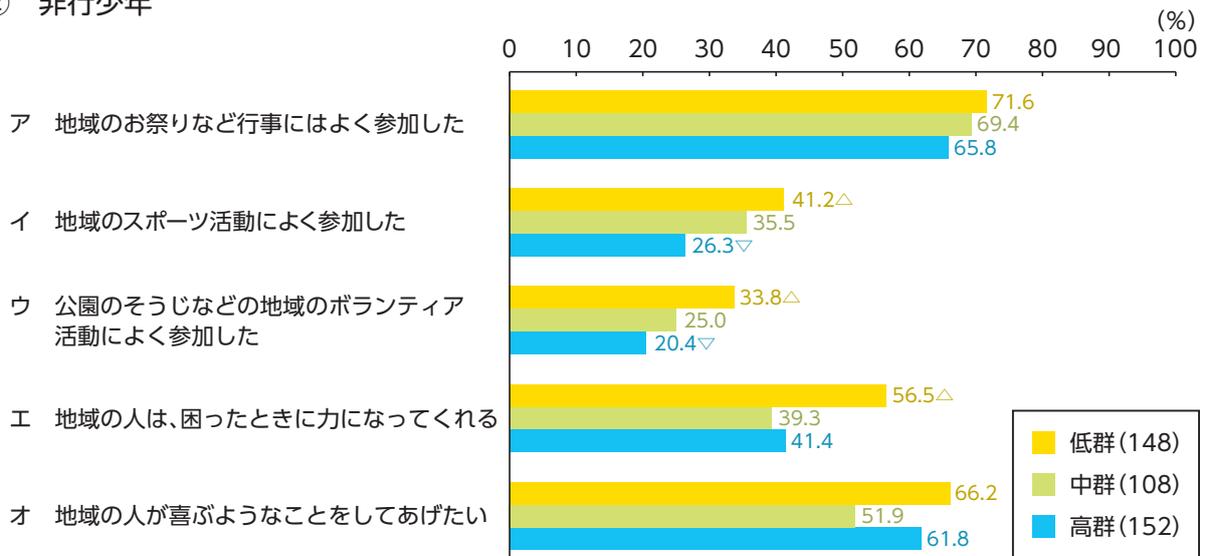
2-6-2図

地域社会との関係（犯罪者・非行少年別、犯罪・非行進度別）

① 犯罪者



② 非行少年



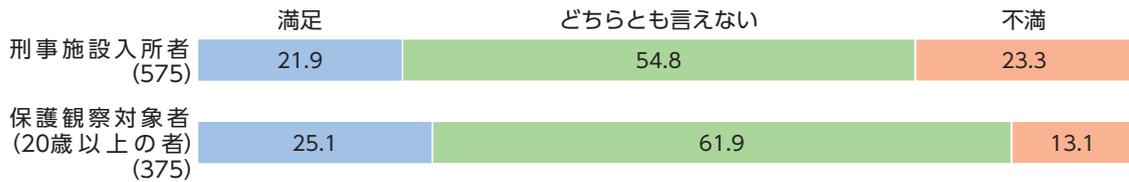
注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 地域社会との関係の各項目が不詳の者を除く。
 3 各項目について、「とてもあてはまる」及び「ややあてはまる」を合計した構成比である。
 4 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す ($p < .05$)。
 5 ()内は、犯罪・非行進度別の実人員である。

及び残差分析の結果、犯罪者である刑事施設入所者及び保護観察対象者（20歳以上の者）共に、「満足」の構成比が有意に低く、刑事施設入所者は、「不満」の構成比が有意に高かった。一方、非行少年である少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）共に、「満足」の構成比が有意に高く、保護観察対象者（少年）は、「不満」の構成比が有意に低かった。

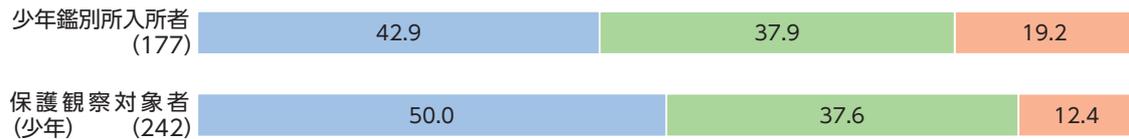
2-7-1 図

社会に対する満足度（対象者の身分別）

① 犯罪者



② 非行少年



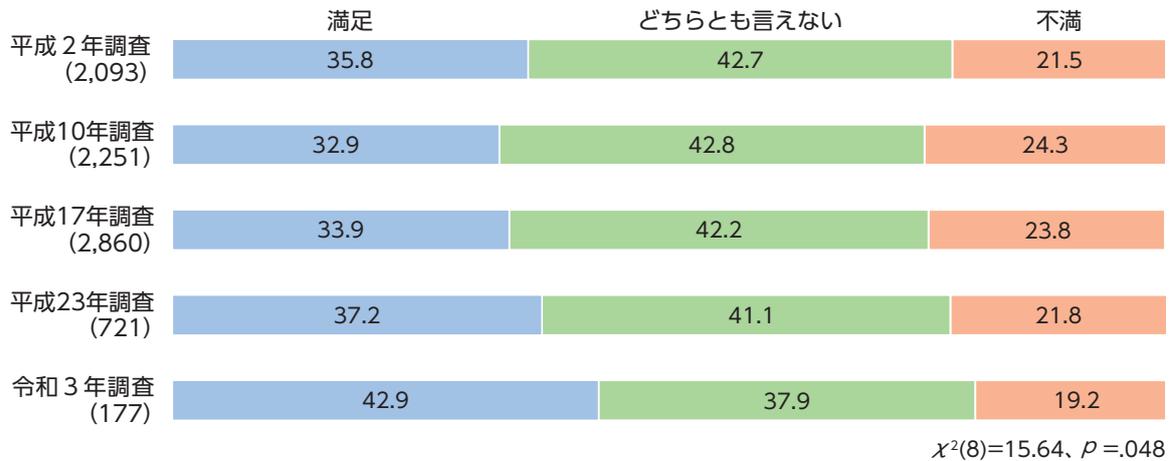
$\chi^2(6)=99.64, p<.001$

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 社会に対する満足度が不詳の者を除く。
 3 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計した構成比であり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計した構成比である。
 4 () 内は、実人員である。

イ 前回までの調査との比較

少年鑑別所入所者について、社会に対する満足度を前回までの調査と比較すると、2-7-2図のとおりである。今回及び過去4回の調査結果を比較すると、「満足」の構成比は、上昇傾向にあり、令和3年調査において初めて4割を超えた。また、同調査では、3カテゴリーのうち「満足」の構成比が最も高くなった。 χ^2 検定及び残差分析の結果、「満足」の構成比は、同調査において有意に高く、平成10年調査において有意に低かった。「不満」の構成比は、平成2年調査において有意に低かった。

2-7-2図 社会に対する満足度（前回までの調査との比較）



【参考 若年犯罪者（刑事施設入所者）】



- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 社会に対する満足度が不詳の者を除く。
 3 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計した構成比であり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計した構成比である。
 4 ()内は、実人員である。

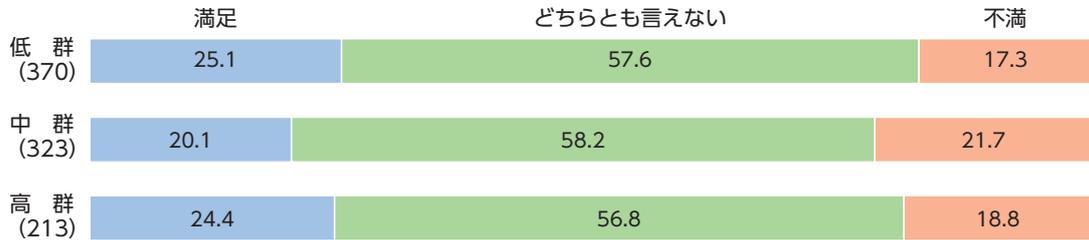
ウ 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較

社会に対する満足度を犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを犯罪・非行進度別に見ると、2-7-3図のとおりである。 χ^2 検定の結果、非行少年において有意な差が認められたところ、残差分析の結果、低群は、「満足」の構成比が有意に高かったが、高群は、「満足」の構成比が有意に低く、「不満」の構成比が有意に高かった。

2-7-3 図

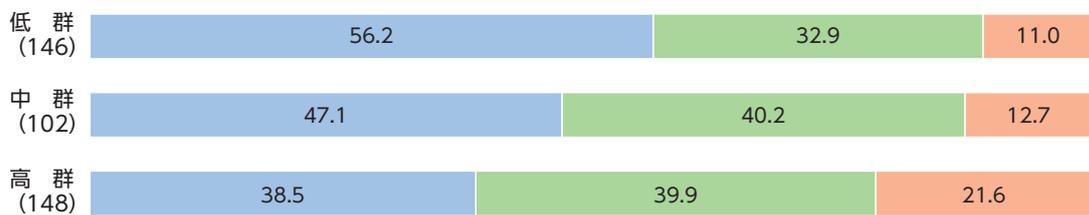
社会に対する満足度（犯罪者・非行少年別、犯罪・非行進度別）

① 犯罪者



$\chi^2(4)=3.84, p=.428$

② 非行少年



$\chi^2(4)=12.16, p=.016$

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 社会に対する満足度が不詳の者を除く。
 3 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計した構成比であり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計した構成比である。
 4 () 内は、実人員である。

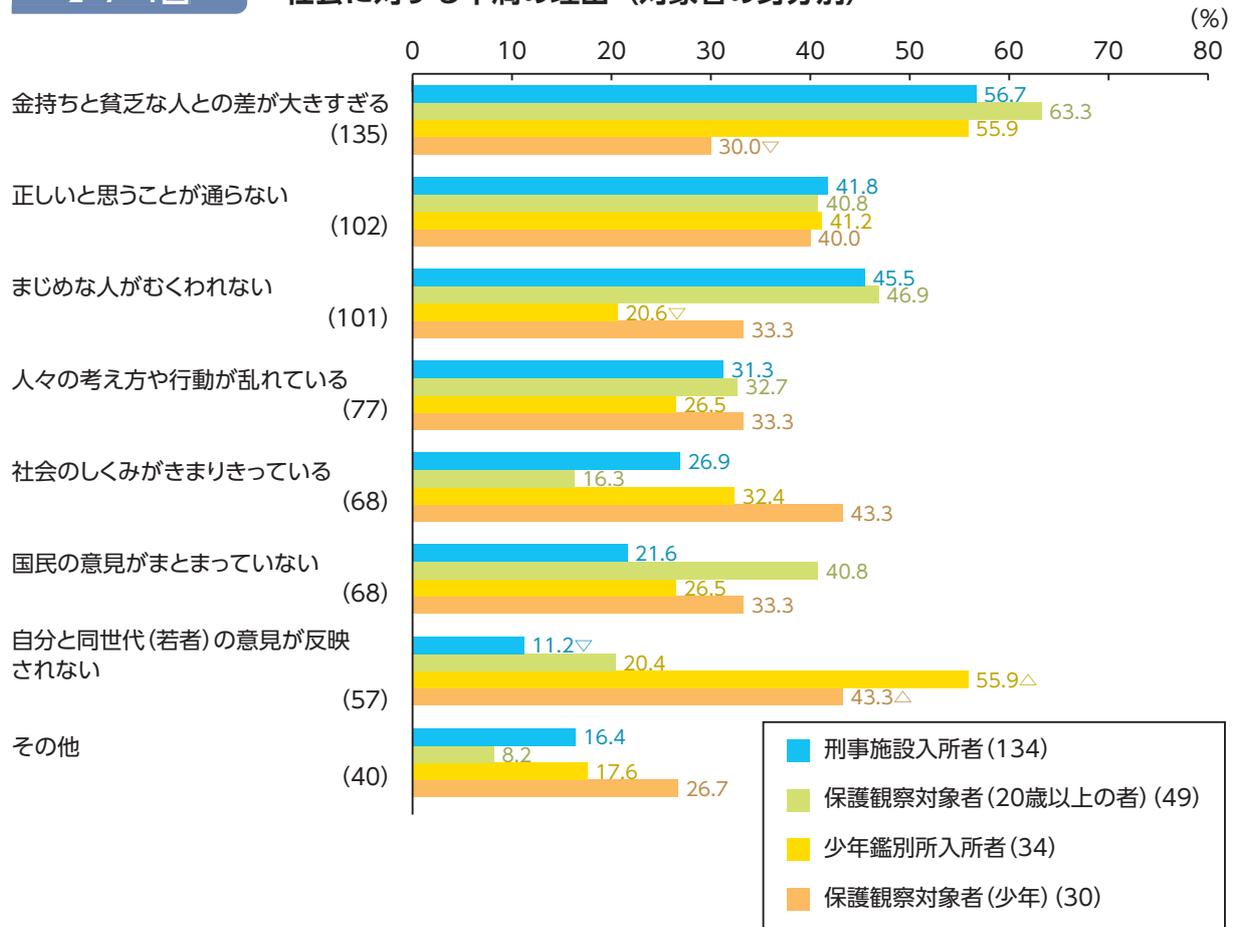
(2) 社会に対する不満の理由

ア 対象者の身分別の比較

社会に対する不満の理由について（「社会に対する満足度」において、「不満」に該当した者に限る。以下この項において同じ。）、対象者の身分別に見ると、2-7-4図のとおりである。犯罪者である刑事施設入所者及び保護観察対象者（20歳以上の者）は、該当率の高い上位3項目が共通しており、「金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる」が最も高く、次いで、「まじめな人がむくわれない」、「正しいと思うことが通らない」の順であった。保護観察対象者（20歳以上の者）では、「国民の意見がまとまっていない」も、同率で3番目に高かった。一方、非行少年である少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）共に、最も該当率の高い項目は「自分と同世代（若者）の意見が反映されない」であったところ、これと並んで、少年鑑別所入所者では「金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる」が、保護観察対象者（少年）では「社会のしくみがきまりきっている」が、それぞれの該当率が同率で最も高かった。上記の項目のうち、「金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる」、「まじめな人がむくわれない」及び「自分と同世代（若者）の意見が反映されない」は、 χ^2 検定及び残差分析の結果でも有意な差が認められており、犯罪者の2群と非行少年の2群では上位項目に違いがあることが特徴的であった。

2-7-4 図

社会に対する不満の理由 (対象者の身分別)



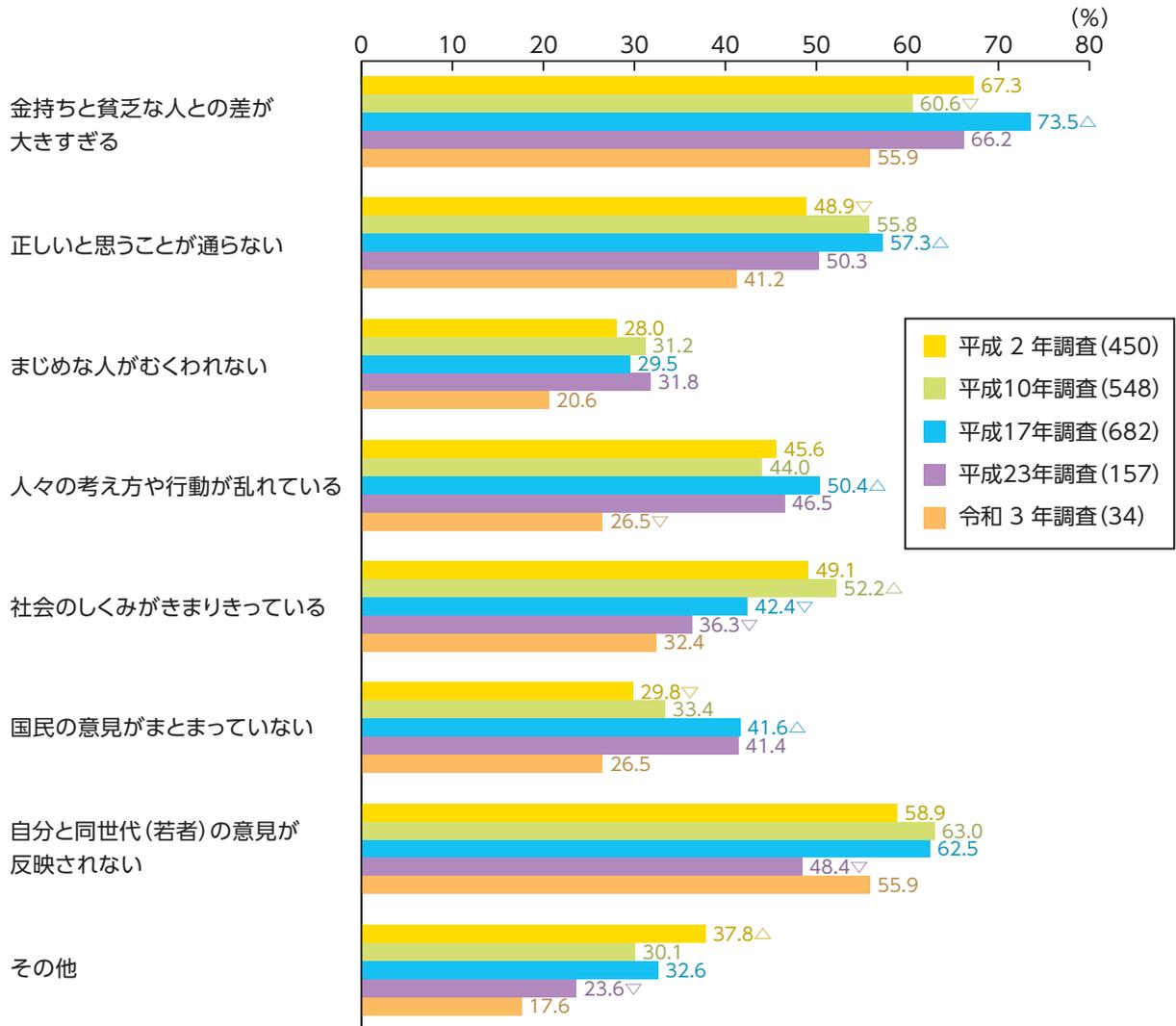
注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 Q10において「不満」(「不満」及び「やや不満」)とした者に占める各項目に該当した者(重複計上による。)の割合である。
 3 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す($p<.05$)。
 4 凡例の()内は、対象者の身分別の人員であり、縦軸の()内は、各項目に該当した者の人員である。

イ 前回までの調査との比較

少年鑑別所入所者について、社会に対する不満の理由を前回までの調査と比較すると、2-7-5図のとおりである。今回及び過去4回の調査結果を比較したところ、「自分と同世代(若者)の意見が反映されない」を除く全ての項目で、令和3年調査が最も低い該当率であった。 χ^2 検定及び残差分析の結果、同調査の中では、「人々の考え方や行動が乱れている」の項目のみ有意に該当率が低かった。一方で、同調査において、有意に該当率が高くなった項目はなく、全体的に不満の理由を回答する者が過去に比べて少なかった。

2-7-5 図

社会に対する不満の理由（前回までの調査との比較）



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 Q10において「不満」(「不満」及び「やや不満」)とした者に占める各項目に該当した者(重複計上による。)の割合である。
 3 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す($p<.05$)。
 4 ()内は、調査年別の該当者の人員である。

ウ 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較

社会に対する不満の理由を犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを犯罪・非行進度別に見ると、非行少年では、 χ^2 検定及び残差分析の結果、「まじめな人がむくわれない」(低群56.3%、中群23.1%、高群15.6%)に有意な差が認められ($\chi^2(2) = 8.95, p = .011$)、低群が有意に高く、高群が有意に低かった。なお、犯罪者では、有意な差が認められる項目は見られなかった。

8 態度・価値観

Q11 あなたは、次の意見（ア～セ）に賛成ですか、それとも反対ですか。
あてはまる番号に○をひとつだけつけてください。

- ア 「ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ」
- イ 「年上の人や目上の人には従うべきだ」
- ウ 「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」
- エ 「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」
- オ 「世の中は、なるようにしかならないものだ」
- カ 「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」
- キ 「悪い者をやっつけるためならば、場合によっては腕力に訴えてもよい」
- ク 「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」
- ケ 「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」
- コ 「義理人情を大切にすべきだ」
- サ 「リーダーになって苦労するよりは、人に従っていた方が気楽でよい」
- シ 「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」
- ス 「自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ」
- セ 「ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ」

(選択肢)

- 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

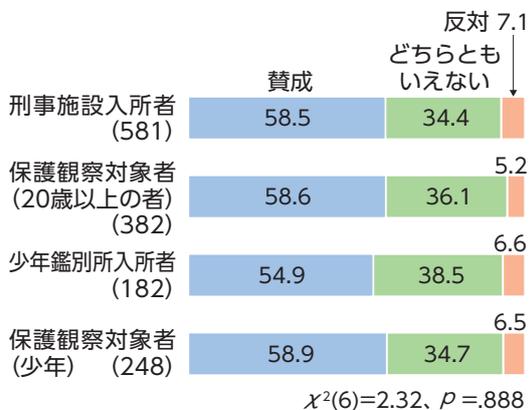
(1) 対象者の身分別の比較

態度・価値観に関する各項目について、「賛成」（「賛成」及び「やや賛成」の合計。以下この項において同じ。）、「どちらともいえない」、「反対」（「やや反対」及び「反対」の合計。以下この項において同じ。）の3カテゴリーに統合した上で、各カテゴリーの構成比を対象者の身分別に見ると、2-8-1図のとおりである。各項目について、身分別に「賛成」の構成比を見ると、 χ^2 検定及び残差分析の結果、「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好き

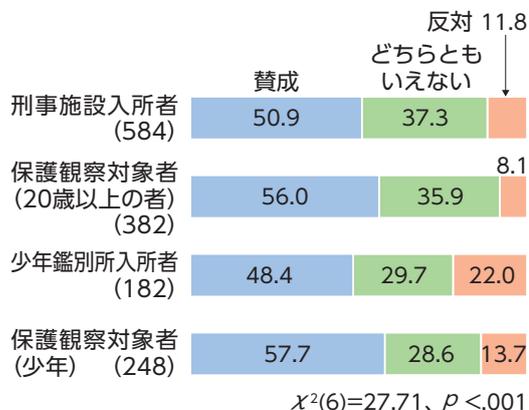
だ」については、犯罪者の2群では、いずれも有意に低い一方、非行少年の2群では、いずれも有意に高かった。犯罪者の2群について、身分別に「賛成」の構成比を見ると、刑事施設入所者では、「義理人情を大切にすべきだ」、「世の中は、なるようにしかならないものだ」及び「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」の項目で有意に高いのに対し、保護観察対象者（20歳以上の者）では、「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」、「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」、「悪い者をやっつけるためならば、場合によっては腕力に訴えてもよい」、「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」等の項目で有意に低かった。この結果から、保護観察対象者（20歳以上の者）は、自らの欲求を優先するよりも、秩序や規則を重んじ、周囲に配慮して自制する傾向があることが認められた。非行少年の2群について、身分別に「賛成」の構成比を見ると、少年鑑別所入所者・保護観察対象者（少年）共に、「義理人情を大切にすべきだ」は有意に低かった。他方で、少年鑑別所入所者は、「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」、「悪い者をやっつけるためならば、場合によっては腕力に訴えてもよい」及び「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」の項目において「賛成」の構成比が有意に高く、保護観察対象者（少年）は、「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」の項目において、「賛成」の構成比が有意に高かった。この結果から、少年鑑別所入所者・保護観察対象者（少年）共に、未来よりも現在の楽しみに目を向けやすいことに加え、少年鑑別所入所者は、自らの欲求や目先の問題解決を優先する傾向が認められた。

2-8-1 図 態度・価値観 (対象者の身分別)

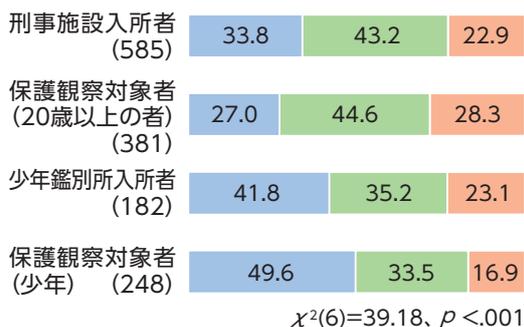
ア ひとつのことに熱中するよりも、
いろいろなことをやってみるべきだ



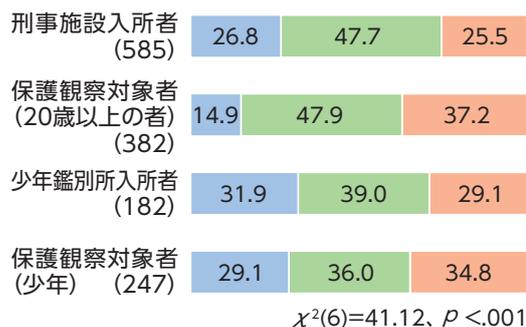
イ 年上の人や目上の人には従うべきだ



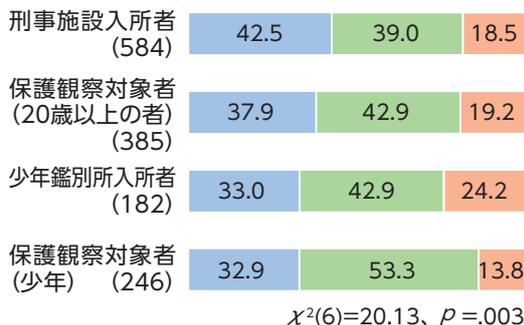
ウ コツコツ努力するよりは、
毎日の生活を楽しくやった方がよい



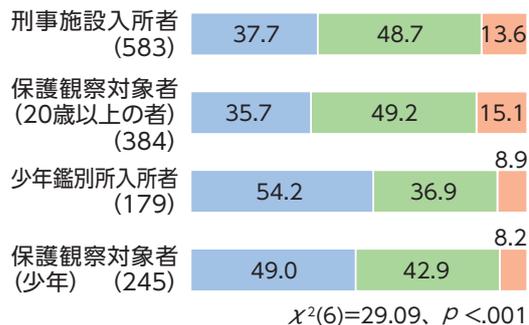
エ 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ



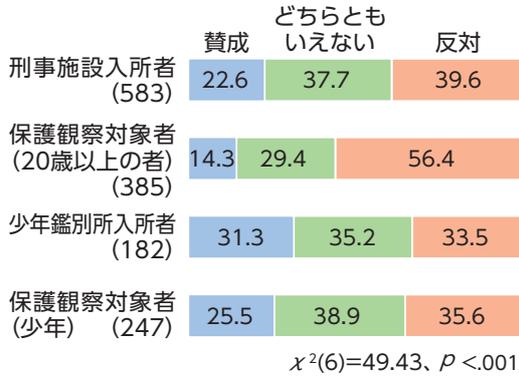
オ 世の中は、なるようにしかならないものだ



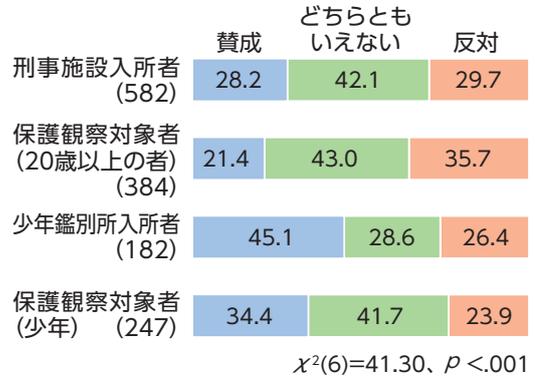
カ まじめな人よりも、
ひょうきんにふるまう人の方が好きだ



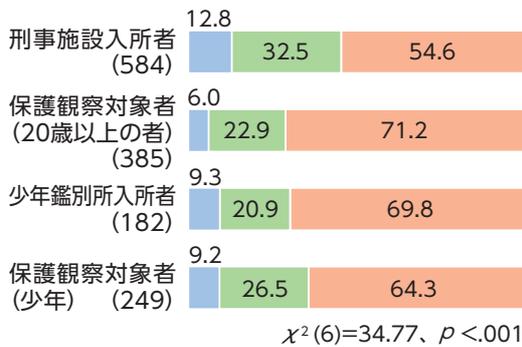
キ 悪い者をやっつけるためならば、
場合によっては腕力に訴えてもよい



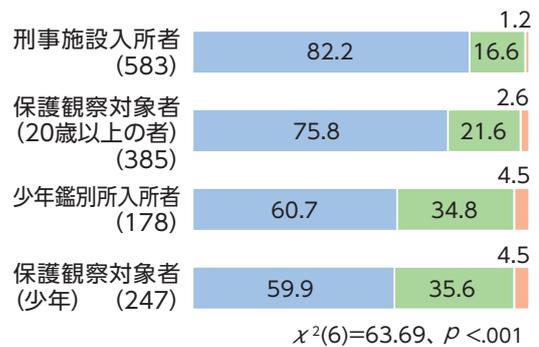
ク 世の中全体のことを考えるよりも、
自分のしたいことをする方がよい



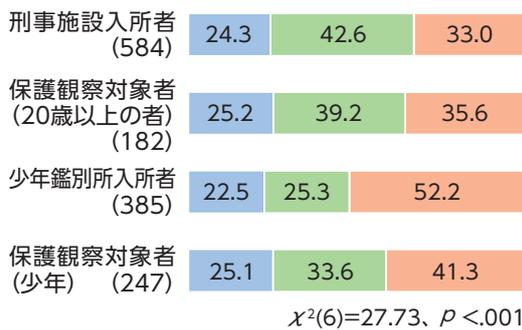
ケ 自分のやりたいことをやりぬくためには、
ルールを破るのも仕方がないことだ



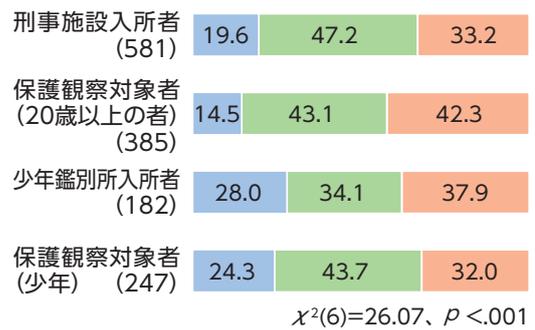
コ 義理人情を大切にすべきだ



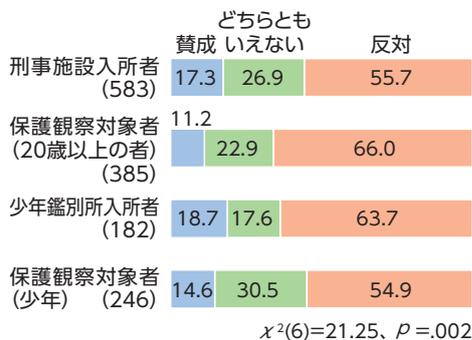
サ リーダーになって苦労するよりは、
人に従っていた方が気楽でよい



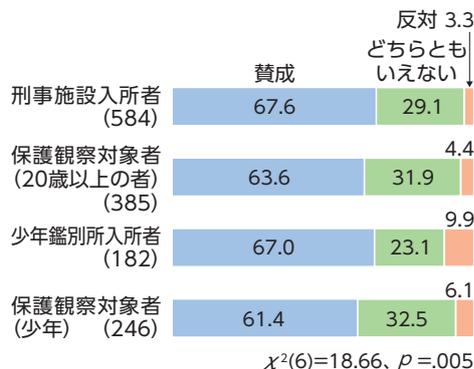
シ 将来のために現在の楽しみをがまんするのは
ばかげている



ス 自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ



セ ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ



- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 態度・価値観が不詳の者を除く。
 3 「賛成」は「賛成」及び「やや賛成」を合計した構成比であり、「反対」は、「反対」及び「やや反対」を合計した構成比である。
 4 ()内は、実人員である。

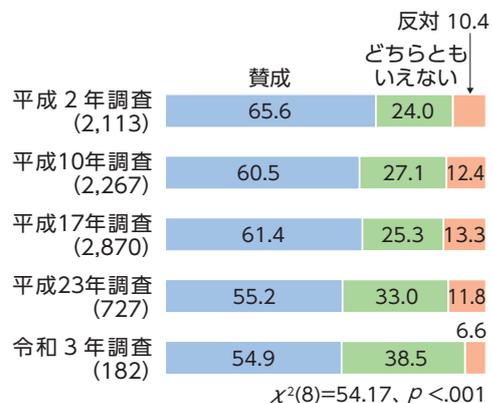
(2) 前回までの調査との比較

少年鑑別所入所者について、態度・価値観に関する各項目を前回までの調査と比較すると、2-8-2図のとおりである。各項目について、調査年別に「賛成」の構成比について見ると、 χ^2 検定及び残差分析の結果、令和3年調査では、「悪い者をやっつけるためならば、場合によっては腕力に訴えてもよい」、「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」、「義理人情を大切にすべきだ」及び「ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ」の項目が有意に低かった。

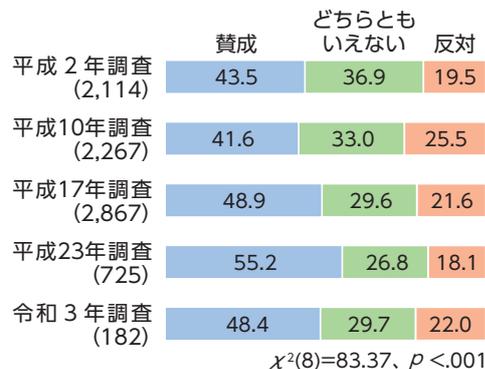
これらの結果から、暴力肯定的な態度や伝統的な価値観が薄れるとともに、社会貢献には消極的となっていることがうかがえた。

2-8-2図 少年鑑別所入所者 態度・価値観 (前回までの調査との比較)

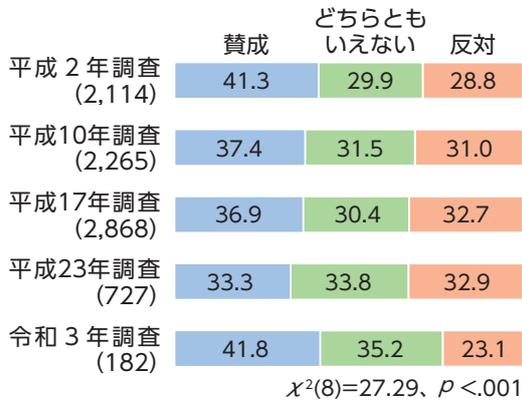
ア ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ



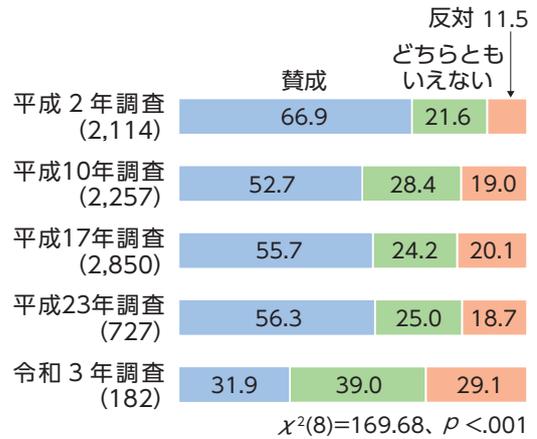
イ 年上の人や目上の人には従うべきだ



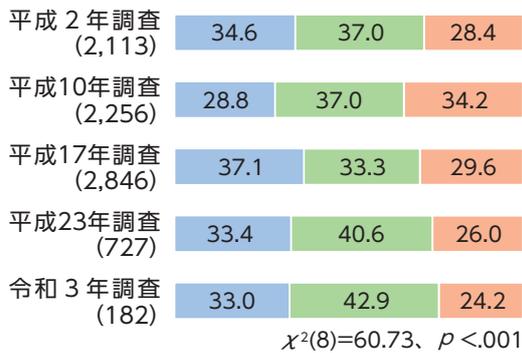
ウ コツコツ努力するよりは、
毎日の生活を楽しくやった方がよい



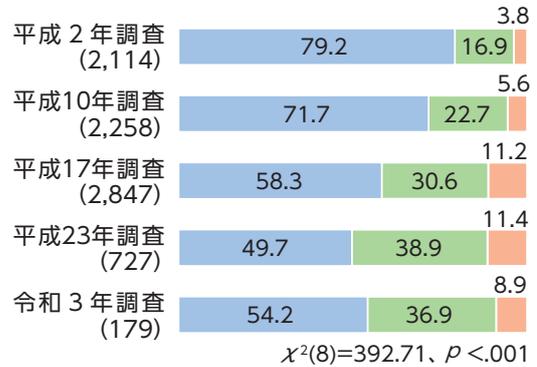
エ 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ



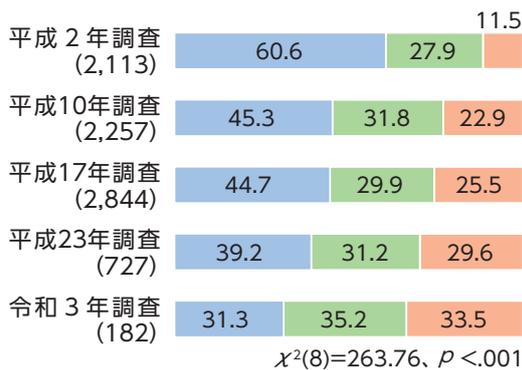
オ 世の中は、なるようにしかならないものだ



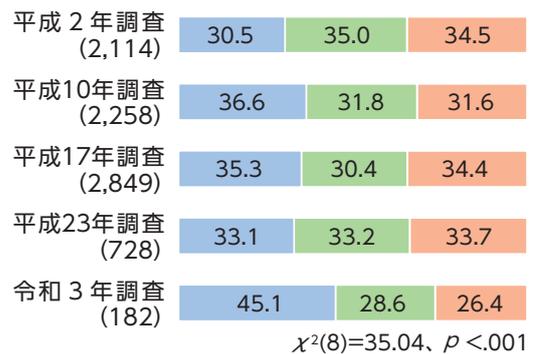
カ まじめな人よりも、
ひょうきんにふるまう人の方が好きだ



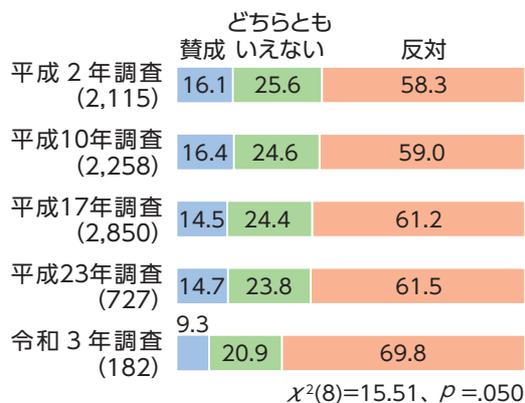
キ 悪い者をやっつけるためならば、
場合によっては腕力に訴えてもよい



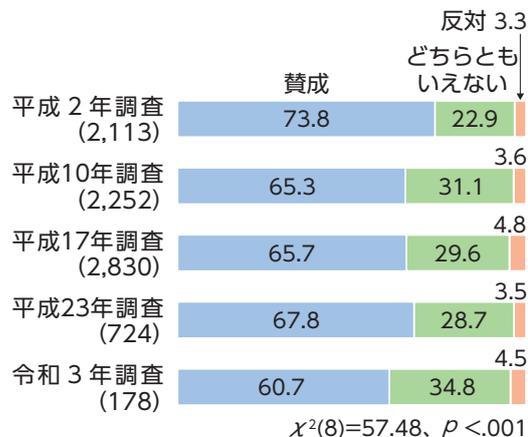
ク 世の中全体のことを考えるよりも、
自分のしたいことをする方がよい



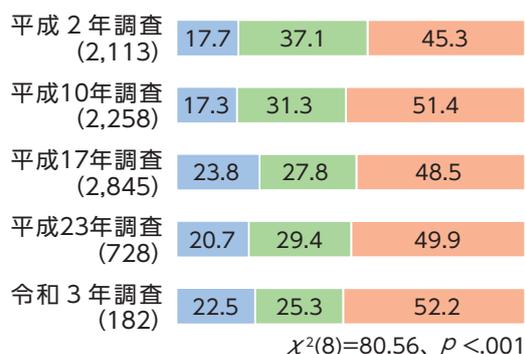
ケ 自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ



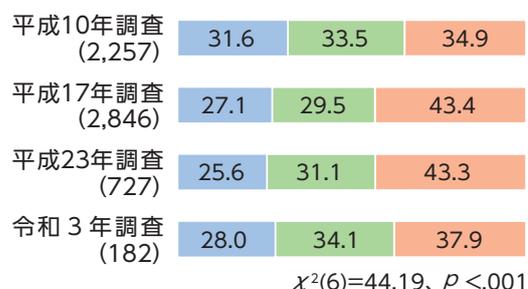
コ 義理人情を大切にすべきだ



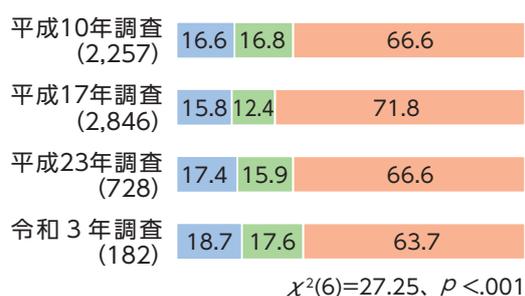
サ リーダーになって苦労するよりは、人に従っていた方が気楽でよい



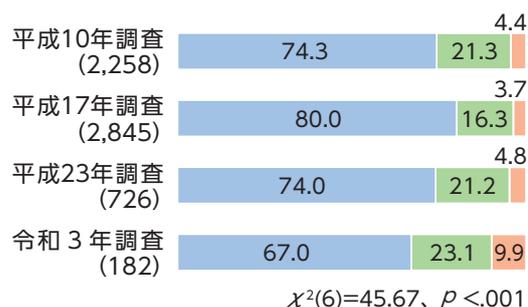
シ 将来のために現在の楽しみをがまんするのはかげている



ス 自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ



セ ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 態度・価値観が不詳の者を除く。
 3 「賛成」は「賛成」及び「やや賛成」を合計した構成比であり、「反対」は、「反対」及び「やや反対」を合計した構成比である。
 4 ()内は、実人員である。

(3) 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較

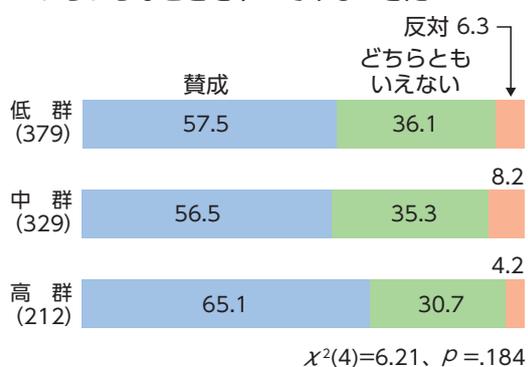
態度・価値観に関する各項目について、犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを犯罪・非行進度別に見ると、2-8-3図のとおりである。各項目について、犯罪・非行進度別に「賛成」の構成比について見ると、 χ^2 検定及び残差分析の結果、犯罪者では、「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」、「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」及び「悪い者をやっつけるためならば、場合によっては腕力に訴えてもよい」の項目で、低群では有意に低い一方、高群では有意に高かった。また、非行少年でも、「悪い者をやっつけるためならば、場合によっては腕力に訴えてもよい」は、低群では有意に低い一方、高群では有意に高かった。この結果からは、犯罪者・非行少年共に、犯罪・非行進度が進んでいる者は、進んでいない者に比し、暴力肯定的な態度を有するとともに、犯罪者については、自身や現在の欲求充足を求める傾向が見られた。

2-8-3図

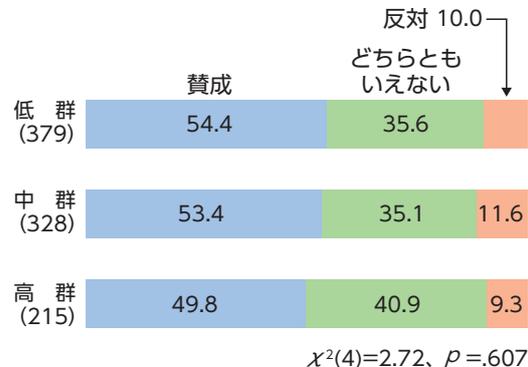
態度・価値観（非行少年・犯罪者別、非行・犯罪進度別）

① 犯罪者

ア ひとつのことに熱中するよりも、
いろいろなことをやってみるべきだ



イ 年上の人や目上の人には従うべきだ



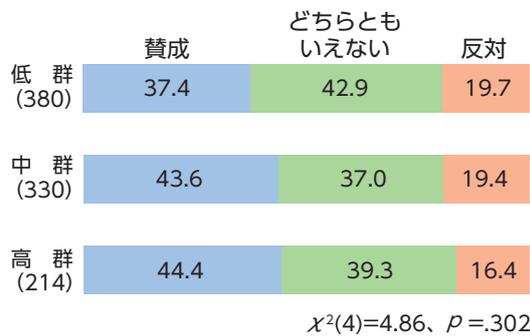
ウ コツコツ努力するよりは、
毎日の生活を楽しくやった方がよい



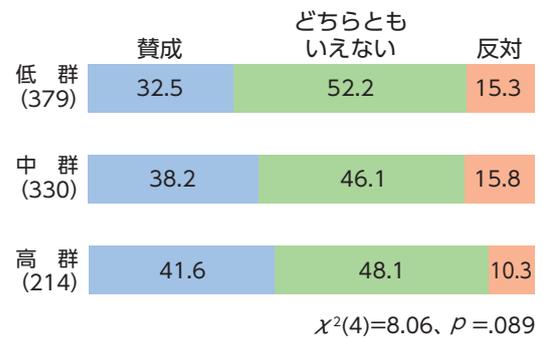
エ 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ



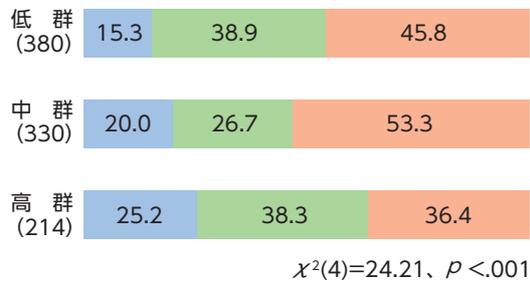
オ 世の中は、なるようにしかならないものだ



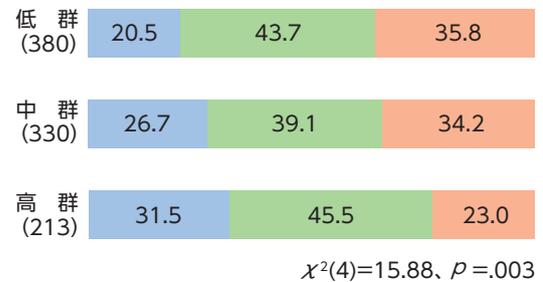
カ まじめな人よりも、
ひょうきんにふるまう人の方が好きだ



キ 悪い者をやっつけるためならば、
場合によっては腕力に訴えてもよい



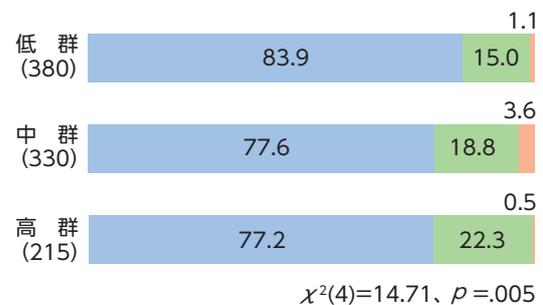
ク 世の中全体のことを考えるよりも、
自分のしたいことをする方がよい



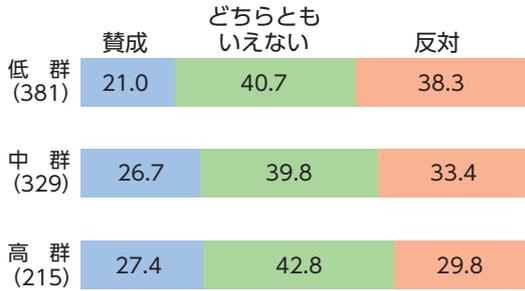
ケ 自分のやりたいことをやりぬくためには、
ルールを破るのも仕方がないことだ



コ 義理人情を大切にすべきだ



サ リーダーになって苦労するよりは、
人に従っていた方が気楽でよい



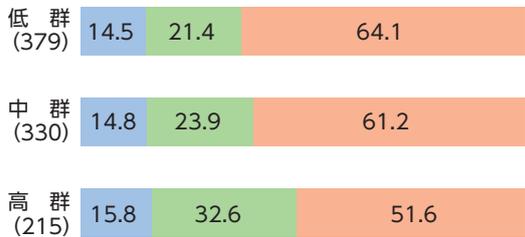
$\chi^2(4)=6.73, p=.151$

シ 将来のために現在の楽しみをがまんするのは
ばかげている



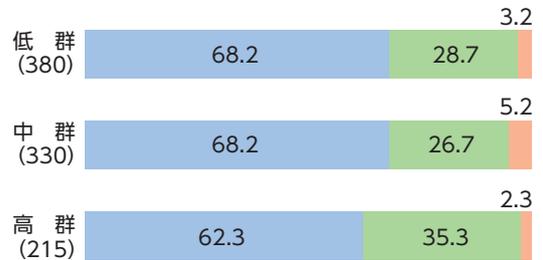
$\chi^2(4)=17.51, p=.002$

ス 自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ



$\chi^2(4)=10.89, p=.028$

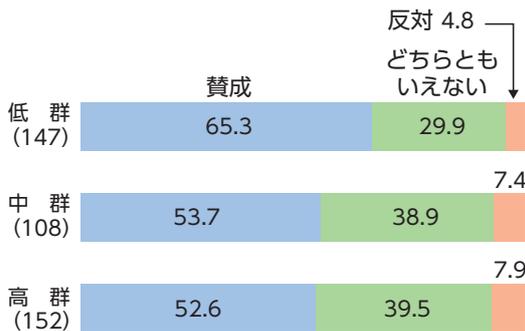
セ ボランティア活動などを通じて、
世の中のためになることが必要だ



$\chi^2(4)=7.62, p=.107$

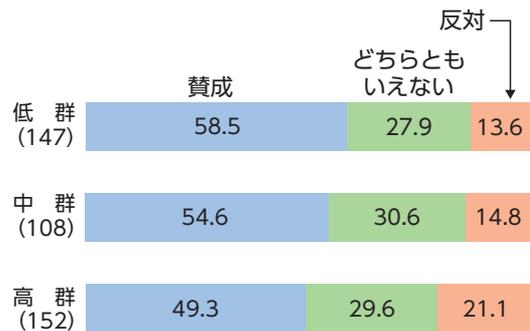
② 非行少年

ア ひとつのことに熱中するよりも、
いろいろなことをやってみるべきだ



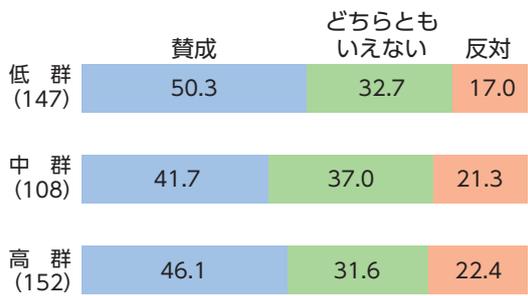
$\chi^2(4)=5.96, p=.202$

イ 年上の人や目上の人には従うべきだ



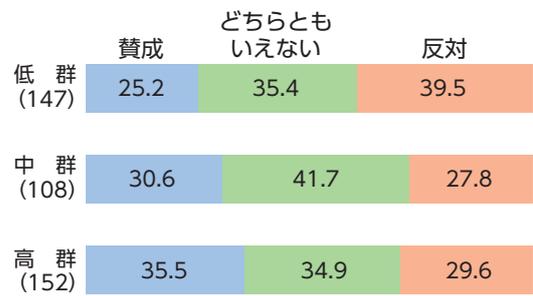
$\chi^2(4)=4.13, p=.389$

ウ コツコツ努力するよりは、
毎日の生活を楽しくやった方がよい



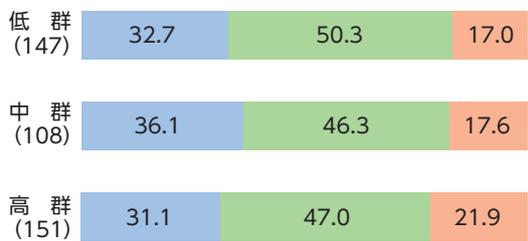
$\chi^2(4)=2.78, p=.595$

エ 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ



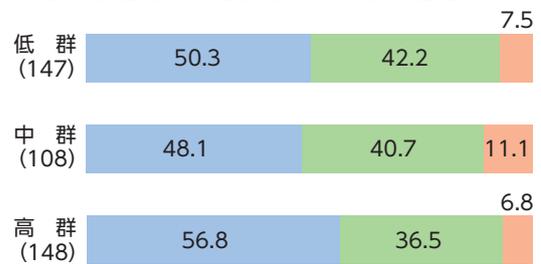
$\chi^2(4)=6.86, p=.144$

オ 世の中は、なるようにしかならないものだ



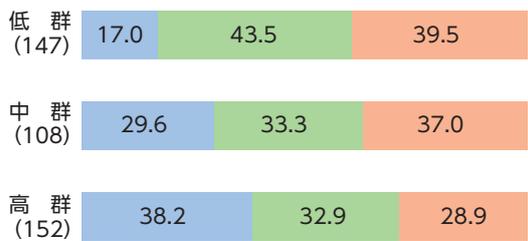
$\chi^2(4)=1.82, p=.770$

カ まじめな人よりも、
ひょうきんにふるまう人の方が好きだ



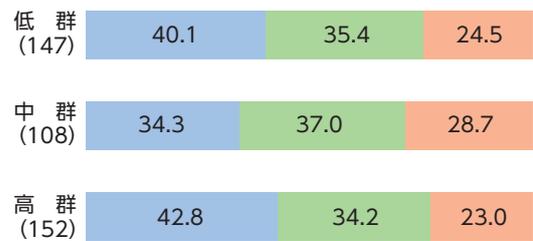
$\chi^2(4)=3.26, p=.516$

キ 悪い者をやっつけるためならば、
場合によっては腕力に訴えてもよい



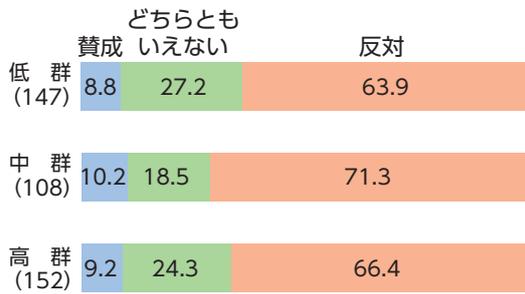
$\chi^2(4)=17.28, p=.002$

ク 世の中全体のことを考えるよりも、
自分のしたいことをする方がよい



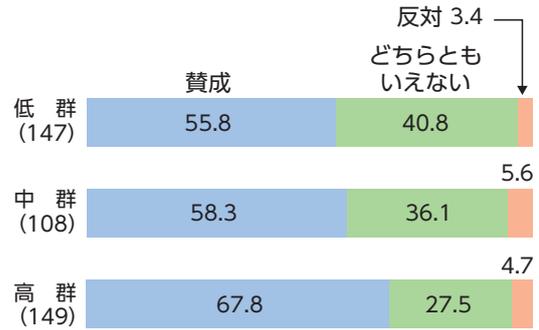
$\chi^2(4)=2.16, p=.707$

ケ 自分のやりたいことをやりぬくためには、
ルールを破るのも仕方がないことだ



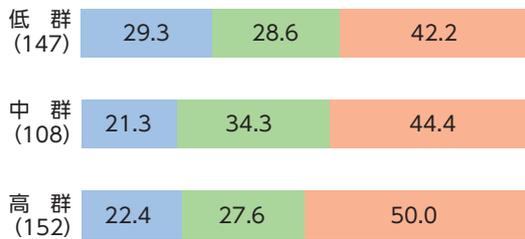
$\chi^2(4)=2.63, p=.621$

コ 義理人情を大切にすべきだ



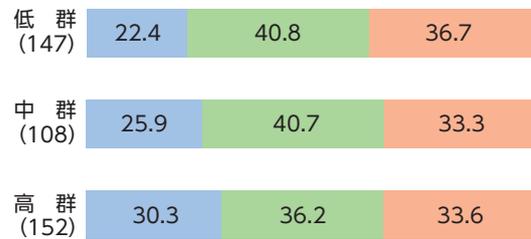
$\chi^2(4)=6.46, p=.168$

サ リーダーになって苦勞するよりは、
人に従っていた方が氣樂でよい



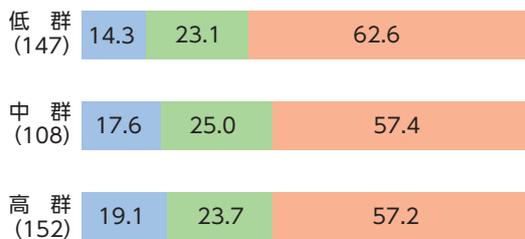
$\chi^2(4)=4.17, p=.386$

シ 将来のために現在の楽しみをがまんするの
はばかっている



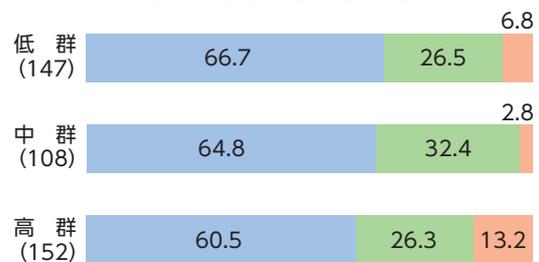
$\chi^2(4)=2.55, p=.636$

ス 自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ



$\chi^2(4)=1.58, p=.812$

セ ボランティア活動などを通じて、
世の中のためになることが必要だ



$\chi^2(4)=10.35, p=.035$

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 態度・価値観が不詳の者を除く。
 3 「賛成」は「賛成」及び「やや賛成」を合計した構成比であり、「反対」は、「反対」及び「やや反対」を合計した構成比である。
 4 ()内は、実人員である。

9 対人感情

Q12 あなたは日ごろの生活で、次（ア～シ）のような感じになることがありますか。
あてはまる番号に○をひとつだけつけてください。

- ア 世の中には自分しか信じるものがないという感じが・・・
- イ 世の中は結局金だけが頼りだという感じが・・・
- ウ 心のあたたまる思いが少ないという感じが・・・
- エ 自分の性格がいやになるという感じが・・・
- オ 自分は何をやってもだめな人間だという感じが・・・
- カ 自分は世の中から取り残されているという感じが・・・
- キ 自分だけが悪く思われているという感じが・・・
- ク 自分は意志が弱いという感じが・・・
- ケ 自分はものごとに打ち込んでいるという感じが・・・
- コ 自分は頼りにされているという感じが・・・
- サ 自分の努力がだんだん実ってきているという感じが・・・
- シ 世の中の人々は互いに助け合っているという感じが・・・

(選択肢)

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

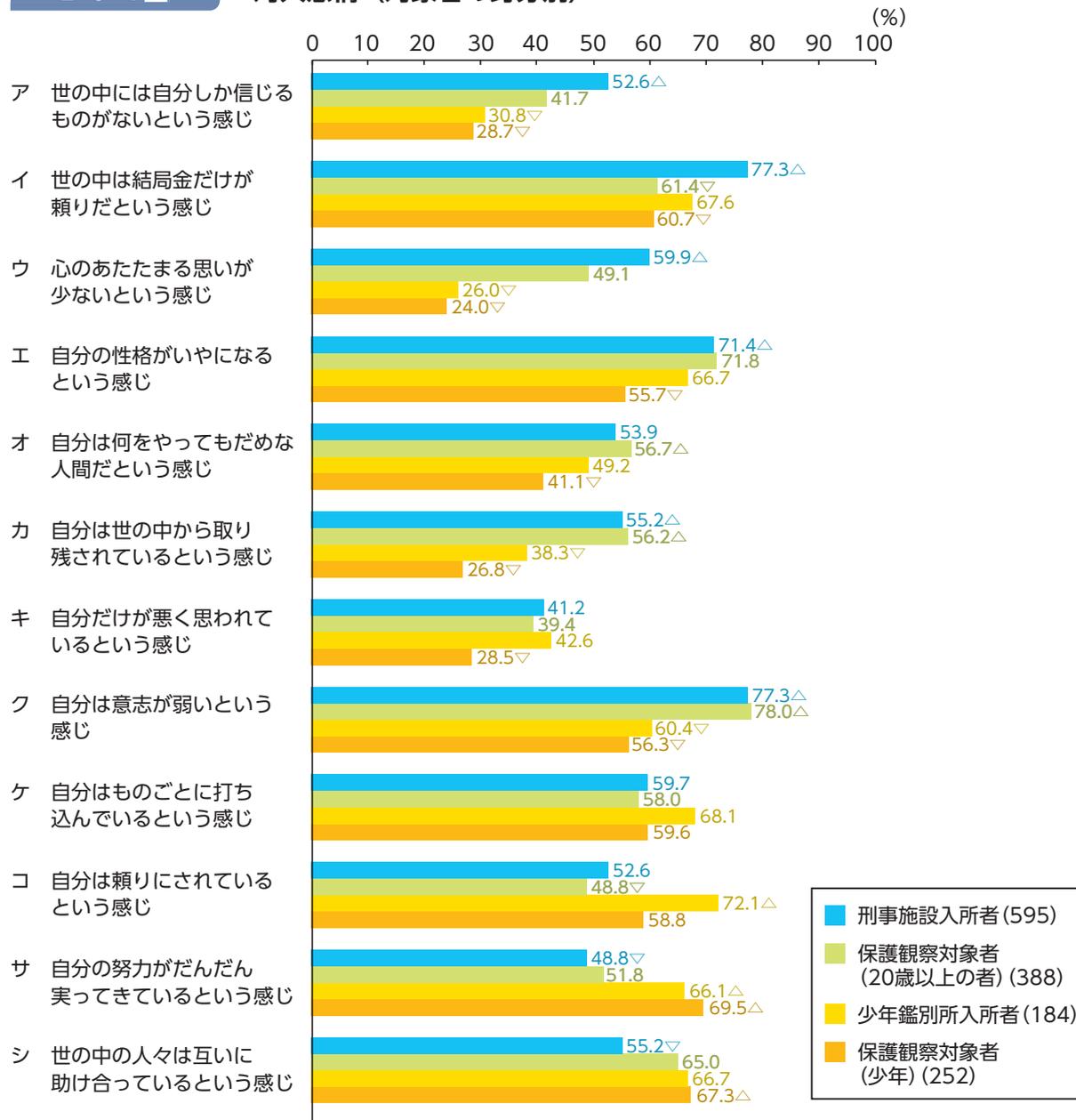
(1) 対象者の身分別の比較

対人感情に関する各項目について、「ある」（「よくある」及び「ときどきある」の合計。以下同じ。）に該当した者の構成比を対象者の身分別に見ると、2-9-1図のとおりである。各項目のうち、エ、オ、カ、ケ、コ及びサの6項目が自己肯定感に関連する項目である（エないしカの3項目は逆転項目であり、「ある」と回答した場合に自己肯定感が低いとみなされる。）。 χ^2 検定及び残差分析の結果、犯罪者である刑事施設入所者及び保護観察対象者（20歳以上の者）共に有意に高かった項目は、「自分は世の中から取り残されているという感じ」及び「自分は意志が弱いという感じ」であった。さらに、刑事施設入所者は、上記2項目に加え、「世の中

には自分しか信じるものがないという感じ」、「世の中は結局金だけが頼りだという感じ」等、ほとんどの否定的な項目が有意に高いことが特徴的であった。また、保護観察対象者（20歳以上の者）では、「自分は何をやってもだめな人間だという感じ」が有意に高く、「自分は頼りにされているという感じ」が有意に低いなど、有意差が見られた5項目中、3項目が自己肯定感に関連するものであった点が特徴的であった。一方、非行少年である少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）共に有意に高かった項目は、「自分の努力がだんだん実ってきているという感じ」、有意に低かった項目は、「世の中には自分しか信じるものがないという感じ」、「心のあたたまる思いが少ないという感じ」、「自分は世の中から取り残されているという感じ」及び「自分は意志が弱いという感じ」であり、犯罪者の2群とは異なる傾向が見られた。少年鑑別所入所者では、「自分は頼りにされているという感じ」も有意に高く、自己肯定感に関連する項目で「ある」に該当する者の構成比の高さが目立った。保護観察対象者（少年）では、「自分は何をやってもだめな人間だという感じ」、「自分だけが悪く思われているという感じ」等、全ての否定的な項目が有意に低く、「世の中の人々は互いに助け合っているという感じ」等、複数の肯定的な項目でも有意に高かった。

2-9-1 図

対人感情 (対象者の身分別)



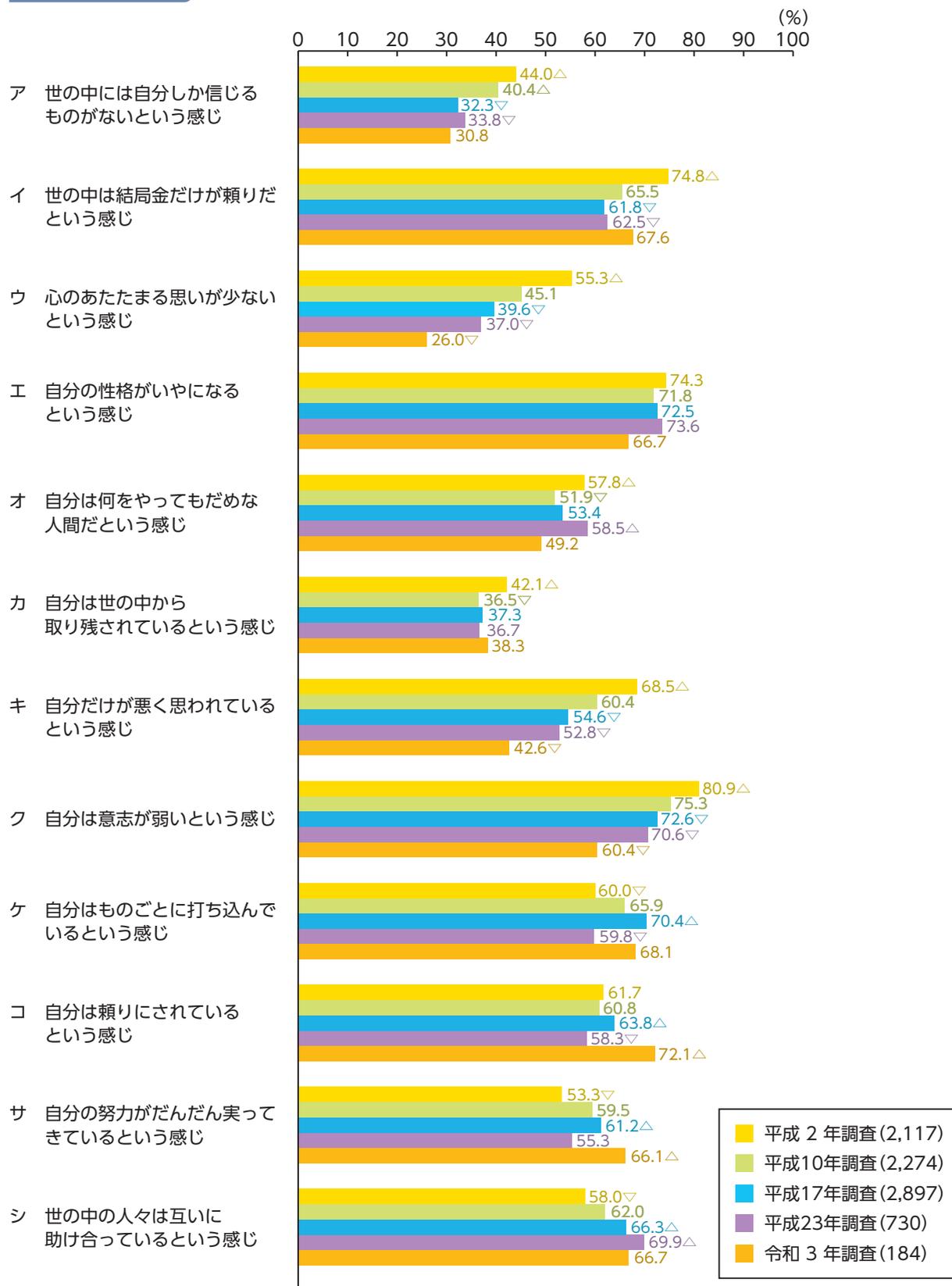
注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 各項目について、「よくある」及び「ときどきある」を合計した構成比である。
 3 対人感情の各項目が不詳の者を除く。
 4 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す ($p < .05$)。
 5 ()内は、対象者の身分別の実人員である。

(2) 前回までの調査との比較

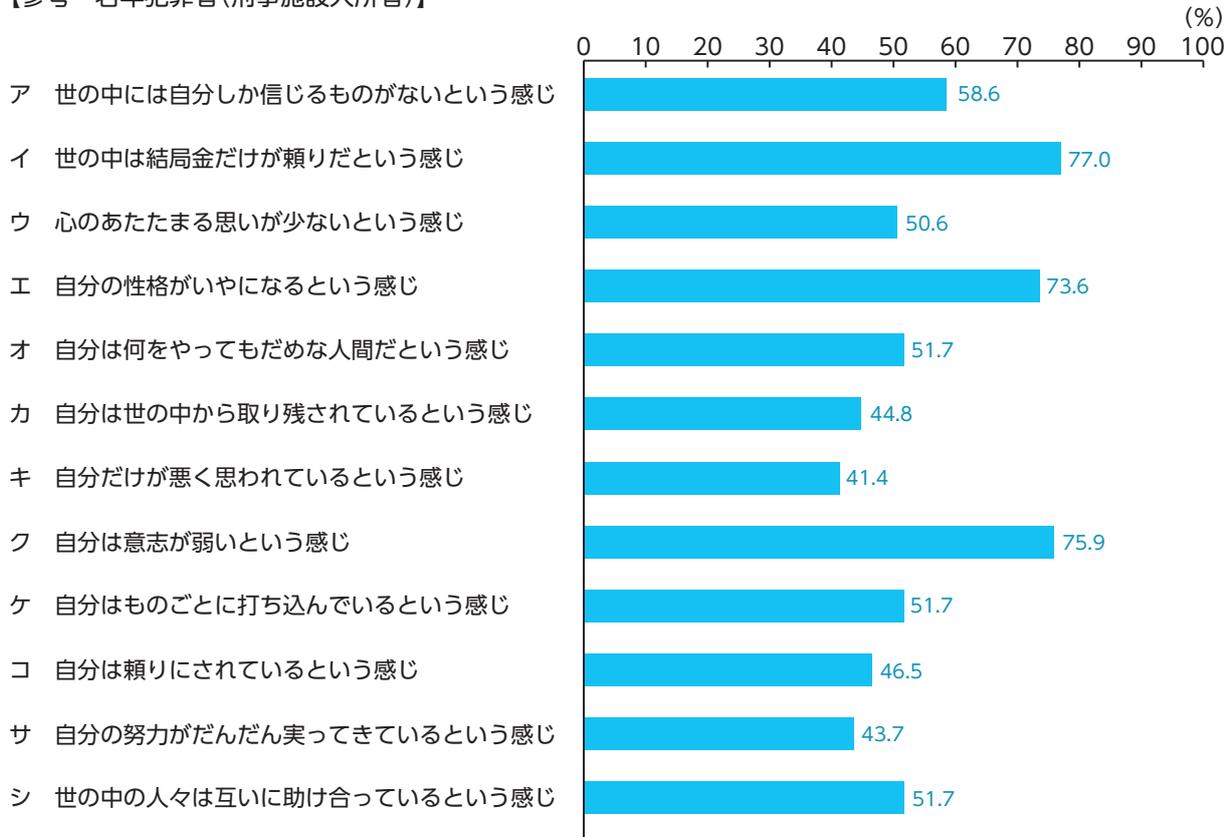
少年鑑別所入所者について、対人感情に関する各項目を前回までの調査と比較すると、2-9-2図のとおりである。今回及び過去4回の調査結果を比較すると、「ある」の構成比が低下傾向にある項目は、「世の中には自分しか信じるものがないという感じ」、「心のあたたまる思いが少ないという感じ」、「自分だけが悪く思われているという感じ」、「自分は意志が弱いという感じ」等であり、上昇傾向にある項目は、「自分は頼りにされているという感じ」及び「自分の努力がだんだん実ってきているという感じ」であった。これらの項目の一部は、 χ^2 検定及び残差分析の結果でも、令和3年調査において有意な差が認められた。これらの結果から、肯定的な対人感情を持つ傾向がうかがえる。

2-9-2図

少年鑑別所入所者 対人感情 (前回までの調査との比較)



【参考 若年犯罪者(刑事施設入所者)】



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 各項目について、「よくある」及び「ときどきある」を合計した構成比である。
 3 対人感情の各項目が不詳の者を除く。
 4 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す ($p < .05$)。
 5 ()内は、調査年別の実人員である。

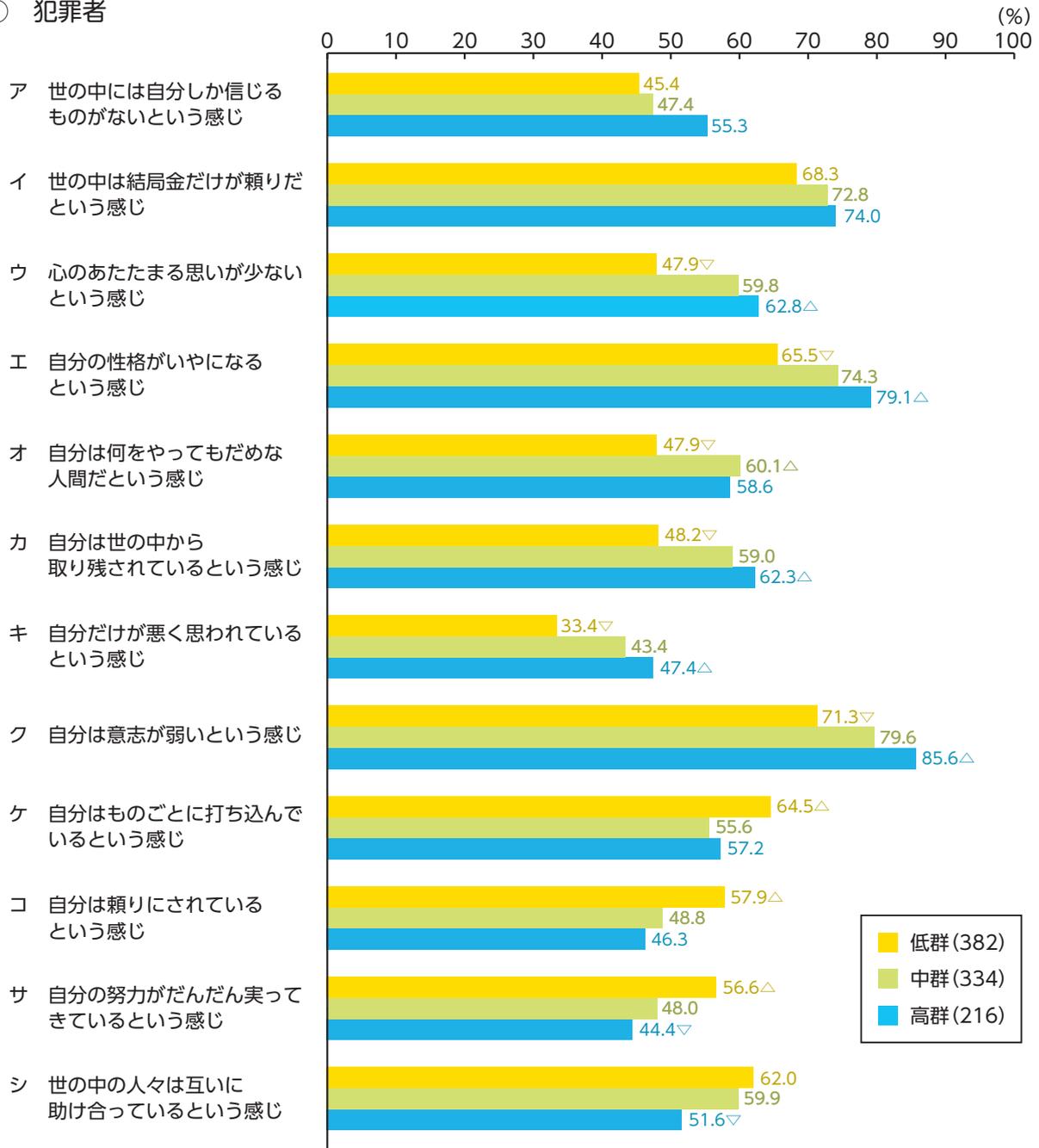
(3) 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較

対人感情に関する各項目について、「ある」に該当した者の構成比を犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを犯罪・非行進度別に見ると、2-9-3図のとおりである。 χ^2 検定及び残差分析の結果、犯罪者では、ほとんどの項目に有意な差が認められたところ、低群が有意に高かった項目は、「自分はものごとに打ち込んでいるという感じ」、「自分は頼りにされているという感じ」等、全て自己肯定感に関連する項目であった。高群が有意に高かった項目は、「自分の性格がいやになるという感じ」、「自分は意志が弱いという感じ」等、全て否定的な項目であり、特に、これら2項目については約8割が「ある」に該当した。一方、非行少年では、低群が有意に高かった項目は、「世の中の人々は互いに助け合っているという感じ」であり、高群が有意に高かった項目は、「心のあたたまる思いが少ないという感じ」及び「自分は世の中から取り残されているという感じ」であった。これらの結果から、特に犯罪者においては、犯罪・非

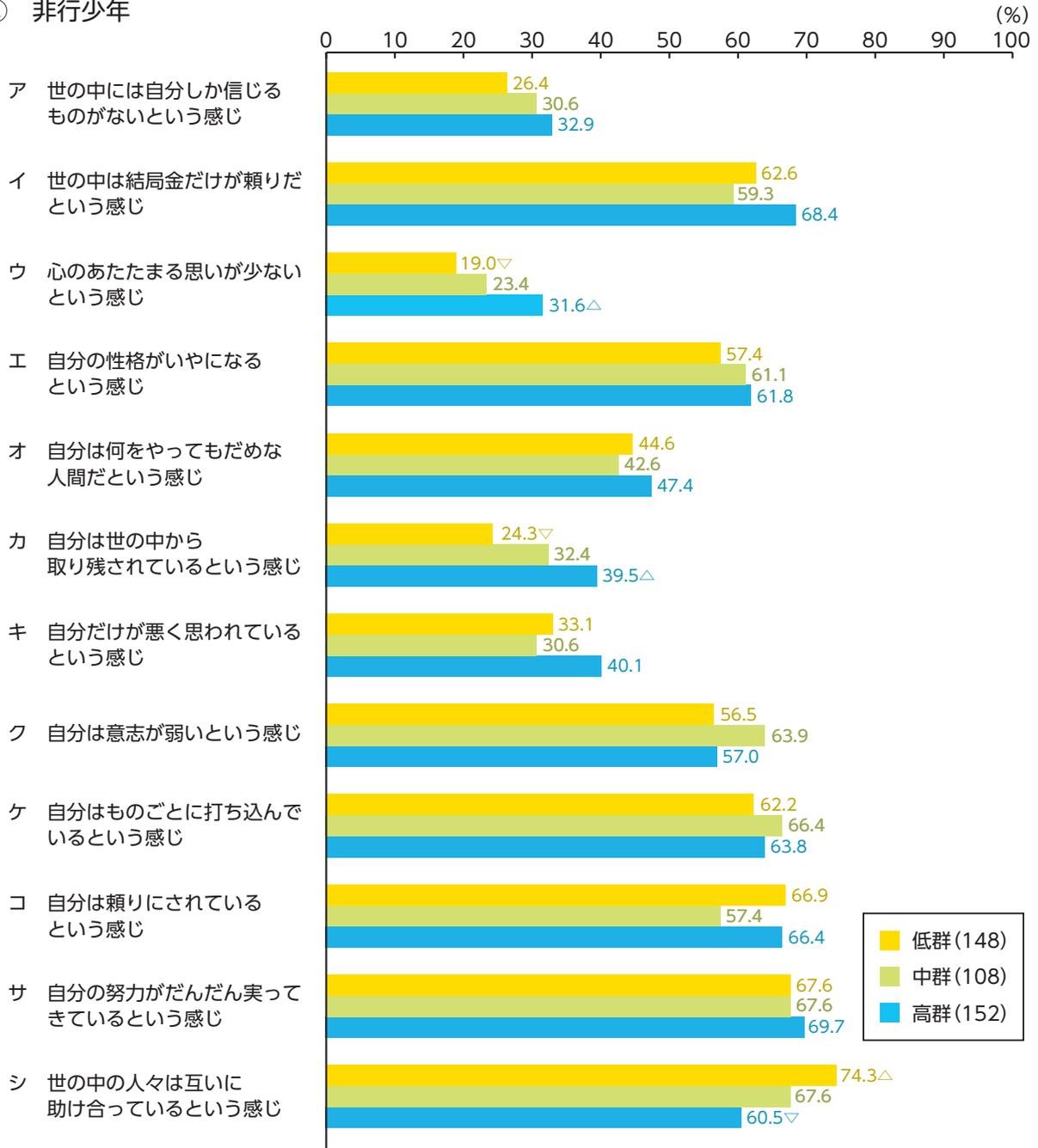
行進度が進むにつれて、否定的な対人感情を持つ傾向が認められた。

2-9-3 図 対人感情（犯罪者・非行少年別、犯罪・非行進度別）

① 犯罪者



② 非行少年



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 各項目について、「よくある」及び「ときどきある」を合計した構成比である。
 3 対人感情の各項目が不詳の者を除く。
 4 χ^2 検定により有意差が認められ、かつ残差分析の結果、期待値よりも有意に度数が多いものを△で示し、少ないものを▽で示す ($p < .05$)。
 5 ()内は、犯罪・非行進度別の実人員である。

10 犯罪・非行に対する意見

Q13 犯罪や非行についてお聞きします。

あてはまる番号に○をひとつだけつけてください。

ア あなたは、人々が犯罪や非行に走るのには、どこに主な原因があると思いますか

1 自分自身 2 家族（親） 3 友達・仲間 4 その他（ ）

イ あなたは、非行や犯罪をした青少年の扱いについて、次のどちらの意見に賛成ですか

1 厳しく罰する 2 あたたく指導する 3 その他（ ）

（1）対象者の身分別の比較

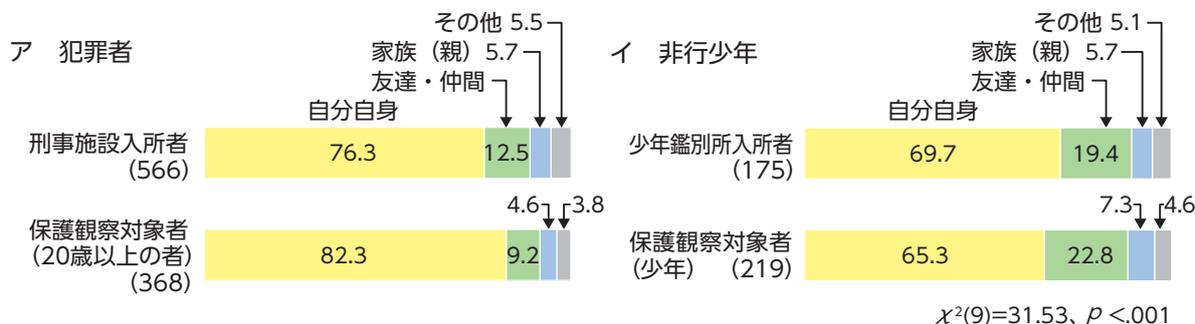
犯罪・非行に対する意見を対象者の身分別に見ると、2-10-1図のとおりである。

まず、人々が犯罪・非行に走る原因に関する項目について、いずれの身分でも、原因を「自分自身」と捉える者の構成比が最も高く、犯罪者の2群で約8割、非行少年の2群で約7割であった。「友達・仲間」の構成比が高い点は、いずれの身分でも共通しているが、犯罪者の2群が約1割であるのに対し、非行少年の2群が約2割であり、非行少年の2群の方が人々が犯罪・非行に走る原因を友達・仲間に帰属する者の構成比が高かった。 χ^2 検定及び残差分析の結果、犯罪者の2群のうち、保護観察対象者（20歳以上の者）では、「自分自身」の構成比が有意に高く、「友達・仲間」の構成比が有意に低かった。一方、非行少年である少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）共に、「友達・仲間」の構成比がいずれも有意に高く、保護観察対象者（少年）では、「自分自身」の構成比が有意に低かった。

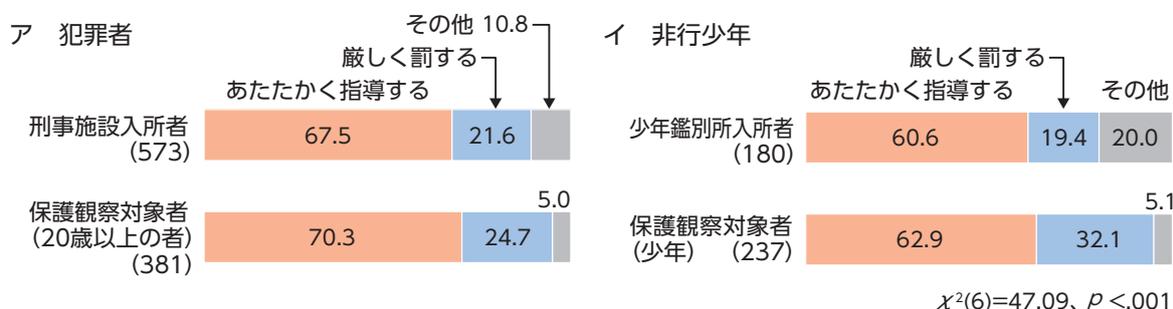
次に、犯罪・非行をした青少年の扱いに関する項目について、犯罪者の2群及び非行少年の2群共に「あたたかく指導する」という意見に賛成する者の構成比が最も高く、いずれも6割以上であった。 χ^2 検定及び残差分析の結果、保護観察対象者（少年）では、「厳しく罰する」の構成比が有意に高かった。

2-10-1図 犯罪・非行に対する意見（対象者の身分別）

① あなたは、人々が犯罪や非行に走るの、どこに主な原因があると思いますか



② あなたは、非行や犯罪をした青少年の扱いについて、次のどちらの意見に賛成ですか



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 犯罪・非行に対する各意見が不詳の者を除く。
 3 () 内は、実人員である。

(2) 前回までの調査との比較

少年鑑別所入所者について、犯罪・非行に対する意見を前回までの調査と比較すると、2-10-2図のとおりである。

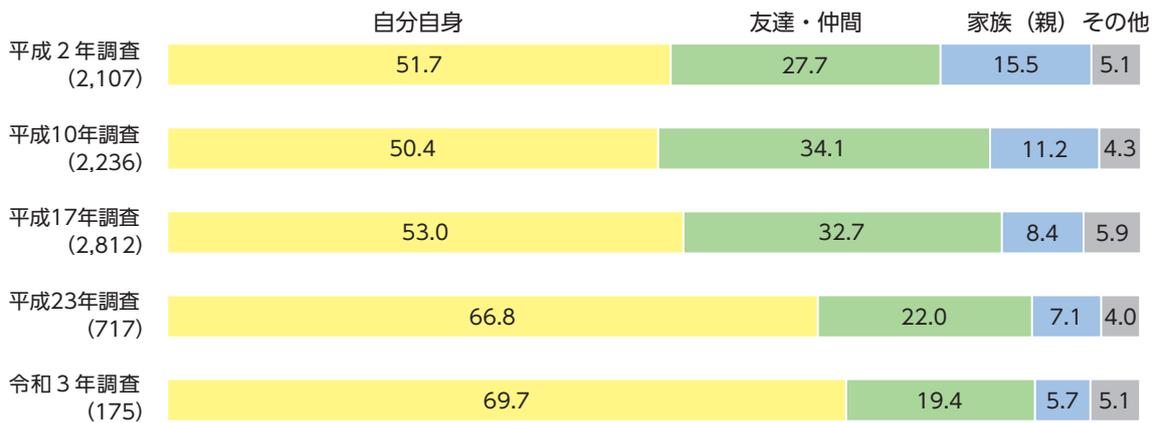
まず、人々が犯罪・非行に走る原因に関する項目について、今回及び過去4回の調査結果を比較すると、「自分自身」の構成比が上昇傾向にあり、「友達・仲間」及び「家族（親）」の構成比が低下傾向にあった。 χ^2 検定及び残差分析の結果、「自分自身」の構成比は、平成23年及び令和3年の各調査において有意に高く、「友達・仲間」の構成比は、平成2年、23年及び令和3年の各調査において、「家族（親）」の構成比は、平成17年、23年及び令和3年の各調査において、それぞれ有意に低かった。

次に、犯罪・非行をした青少年の扱いに関する項目について、今回及び過去4回の調査結果を比較すると、「厳しく罰する」の構成比が上昇傾向にあった。 χ^2 検定及び残差分析の結果でも、「厳しく罰する」の構成比は、平成23年及び令和3年の各調査において、それぞれ有意に高かった。「あたたかく指導する」の構成比は、平成2年調査において有意に高かった。なお、

本項目における「その他」の選択肢は、令和3年調査から新設したものであるため、分析からは除外した。

2-10-2図 少年鑑別所入所者 犯罪・非行に対する意見（前回までの調査との比較）

① あなたは、人々が犯罪や非行に走るのには、どこに主な原因があると思いますか



$\chi^2(12)=159.54, p < .001$

【参考 若年犯罪者（刑事施設入所者）】

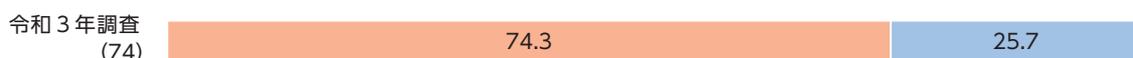


② あなたは、非行や犯罪をした青少年の扱いについて、次のどちらの意見に賛成ですか



$\chi^2(4)=66.54, p < .001$

【参考 若年犯罪者（刑事施設入所者）】



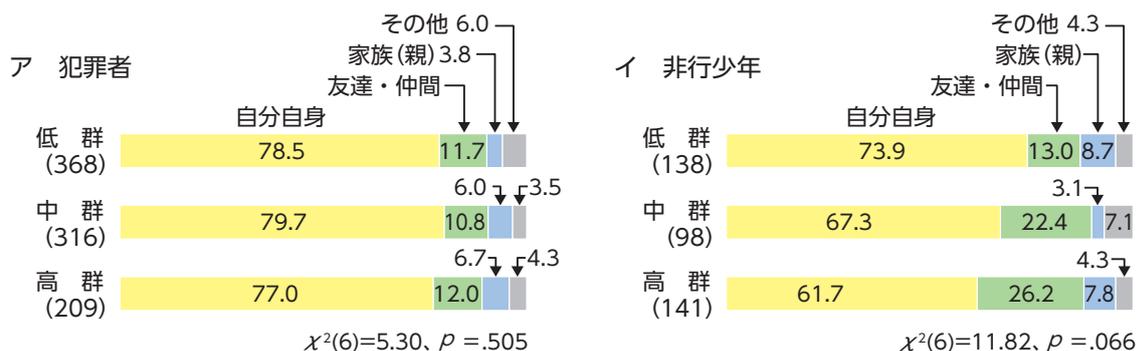
- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 犯罪・非行に対する各意見が不詳の者を除く。
 3 ②は、令和3年調査における「その他」に該当した者を除く。
 4 ()内は、実人員である。

(3) 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較

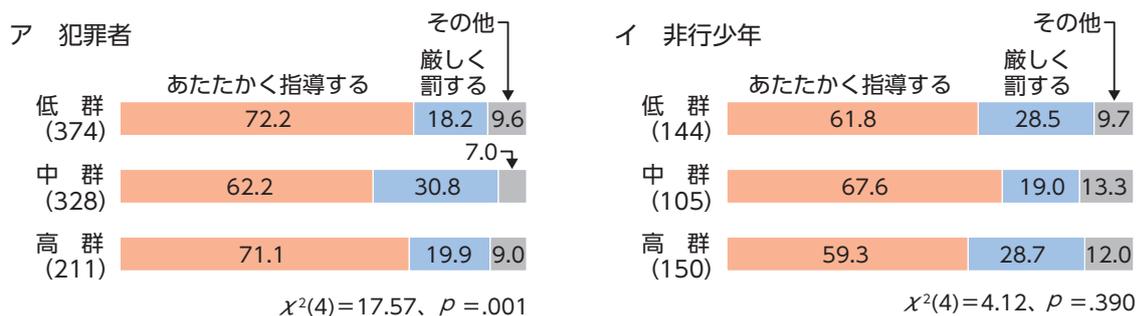
犯罪・非行に対する意見を犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを犯罪・非行進度別に見ると、2-10-3図のとおりである。人々が犯罪・非行に走る原因に関する項目を見ると、非行少年においては、低群は「自分自身」の構成比の高さ、高群は「友達・仲間」の構成比の高さが目立ったが、 χ^2 検定及び残差分析の結果、犯罪者及び非行少年共に、有意な差は認められなかった。また、犯罪・非行をした青少年の扱いに関する項目を見ると、犯罪者において有意な差が認められたところ、残差分析の結果、低群は、「あたたかく指導する」の構成比が有意に高く、「厳しく罰する」の構成比が有意に低かったが、中群は、「厳しく罰する」の構成比が有意に高く、「あたたかく指導する」の構成比が有意に低かった。

2-10-3図 犯罪・非行に対する意見（犯罪者・非行少年別、犯罪・非行進度別）

① あなたは、人々が犯罪や非行に走るの、どこに主な原因があると思いますか



② あなたは、非行や犯罪をした青少年の扱いについて、次のどちらの意見に賛成ですか



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 犯罪・非行に対する各意見が不詳の者を除く。
 3 () 内は、実人員である。

11 犯罪・非行等をする者に対する意見

Q14 次のような人について、あなたの考えをうかがいます。

あてはまる番号に○をひとつだけつけてください。

- ア あなたは「シンナー」を吸う人についてどう思いますか
イ あなたは「覚醒剤」を使う人についてどう思いますか
ウ あなたは「大麻」を吸う人についてどう思いますか
エ あなたは「コカイン」や「MDMA（エクスタシー）」など、他の違法薬物を使う人についてどう思いますか
オ あなたは「暴走族」に入る人についてどう思いますか
カ あなたは「暴力団」に入る人についてどう思いますか
キ あなたは「ひったくり」をする人についてどう思いますか
ク あなたは「盗み（ひったくりを除く）」をする人についてどう思いますか
ケ あなたは「傷害」をする人についてどう思いますか
コ あなたは「特殊詐欺（いわゆるオレオレ詐欺、架空請求詐欺、還付金等詐欺などを含む）」をする人についてどう思いますか
サ あなたは「児童虐待」をする人についてどう思いますか
シ あなたは「強姦性交（強姦・レイプ）」をする人についてどう思いますか
ス あなたは「痴漢」をする人についてどう思いますか

(選択肢)

- | | | | | | | | |
|---|-------------|---|----------------|---|---------------|---|-------------|
| 1 | 自分には
無関係 | 2 | 気持ちが
理解できない | 3 | 気持ちが
理解できる | 4 | 親しみを
感じる |
|---|-------------|---|----------------|---|---------------|---|-------------|

※ 以下、各項目を、それぞれ「シンナー」、「覚醒剤」、「大麻」、「他の違法薬物」、「暴走族」、「暴力団」、「ひったくり」、「盗み」、「傷害」、「特殊詐欺」、「児童虐待」、「強姦性交」、「痴漢」という。

(1) 対象者の身分別の比較

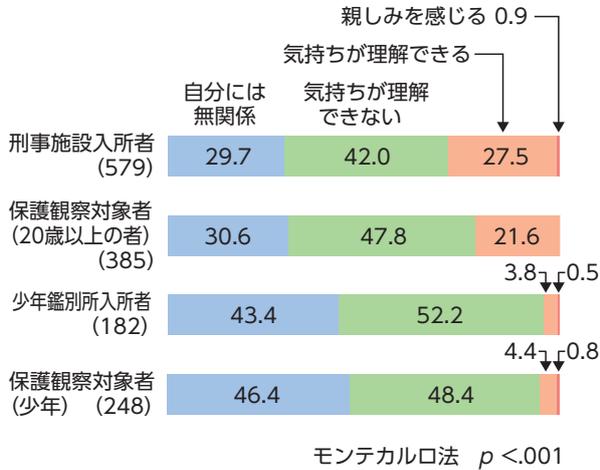
犯罪・非行等をする者に対する意見を対象者の身分別に見ると、2-11-1図のとおりである。各項目における「気持ちが理解できる」の構成比を比較すると、犯罪者である刑事施設入所者及び保護観察対象者（20歳以上の者）共に、非行少年である少年鑑別所入所者及び保護観察対象者（少年）と比べて、ほとんどの項目で高かった。対象者の身分別に上記4肢（自分には無関係、気持ちが理解できない、気持ちが理解できる、親しみを感じる）について、 χ^2 検定を行ったところ、「強制的性交」を除く12項目に有意な差が認められたことから残差分析を行った。その結果、各項目における「気持ちが理解できる」の構成比を見ると、刑事施設入所者で有意に高かった項目は、上記12項目のうち、「児童虐待」及び「痴漢」を除く10項目であった一方、保護観察対象者（20歳以上の者）で有意に高かった項目は、「児童虐待」及び「痴漢」であった。したがって、刑事施設入所者は、ほとんどの項目において「気持ちが理解できる」と回答する傾向が認められ、保護観察対象者（20歳以上の者）は、刑事施設入所者において有意な差が見られなかった「児童虐待」、「痴漢」について、「気持ちが理解できる」と回答する者の構成比が高いことが認められた。また、少年鑑別所入所者において、 χ^2 検定及び残差分析の結果、「気持ちが理解できる」の構成比が有意に低かった項目は、「シンナー」、「覚醒剤」、「他の違法薬物」、「暴走族」、「暴力団」及び「ひったくり」であり、保護観察対象者（少年）で有意に低かった項目は、「強制的性交」を除く、すべての項目であった。したがって、少年においては、比較的多くの項目について「気持ちが理解できる」と回答する者の構成比が低く、特に保護観察対象者（少年）は、ほとんどの項目において「気持ちが理解できる」と回答する者の構成比が低かった。

なお、各選択肢の構成比について、少年鑑別所入所者と保護観察対象者（少年）を単純に比較した場合に、同一の選択肢において10pt以上の差が見られた項目は、「大麻」、「盗み」及び「児童虐待」であった。「大麻」及び「盗み」において、「気持ちが理解できる」の構成比は少年鑑別所入所者の方が高く、いずれの項目においても、「自分には無関係」の構成比は保護観察対象者（少年）の方が高かった。したがって、上記3項目の非行について、保護観察対象者（少年）は、少年鑑別所入所者と比べて、自分には関係がないと捉える傾向があり、「大麻」及び「盗み」については、少年鑑別所入所者の方が犯罪・非行等をする者の気持ちに理解を示す傾向が認められた。

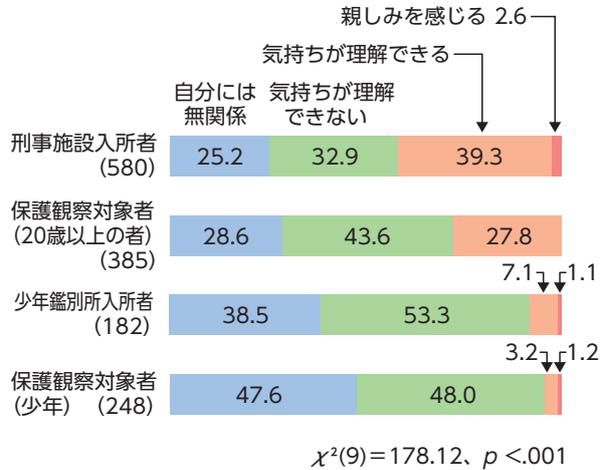
2-11-1図

犯罪・非行等をする者に対する意見（対象者の身分別）

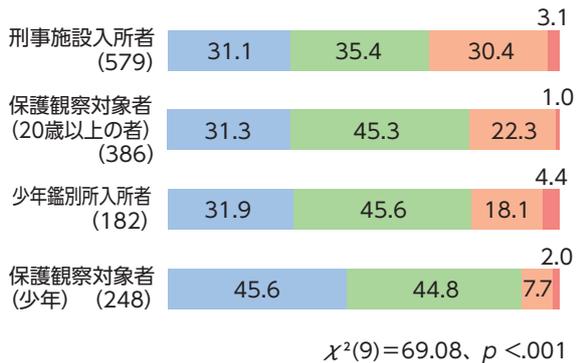
ア あなたは「シンナー」を吸う人について
どう思いますか



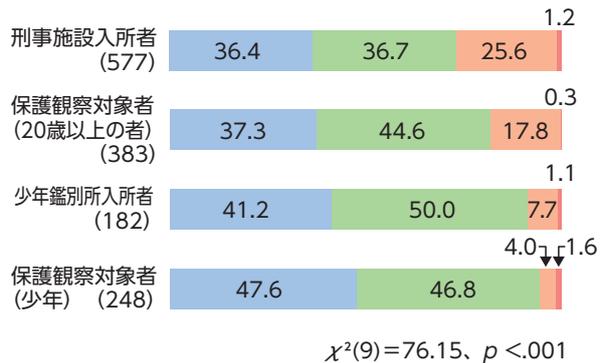
イ あなたは「覚醒剤」を使う人について
どう思いますか



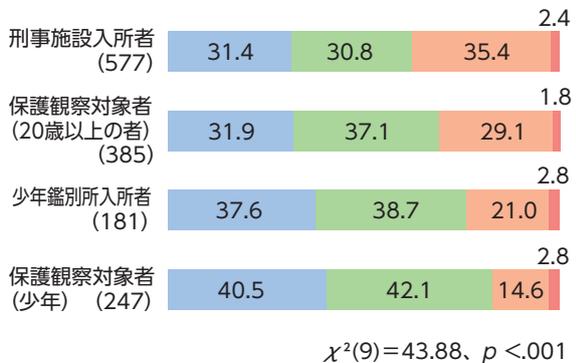
ウ あなたは「大麻」を吸う人について
どう思いますか



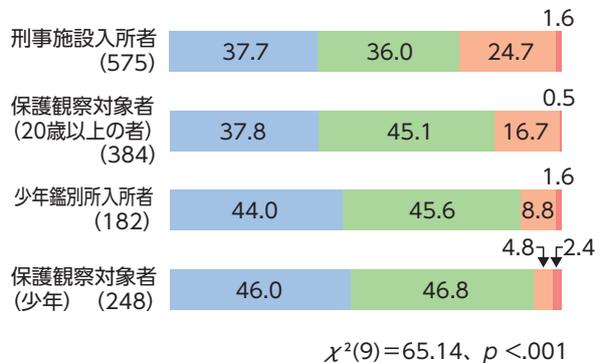
エ あなたは「コカイン」や「MDMA(エクスタシー)」など、
他の違法薬物を使う人についてどう思いますか



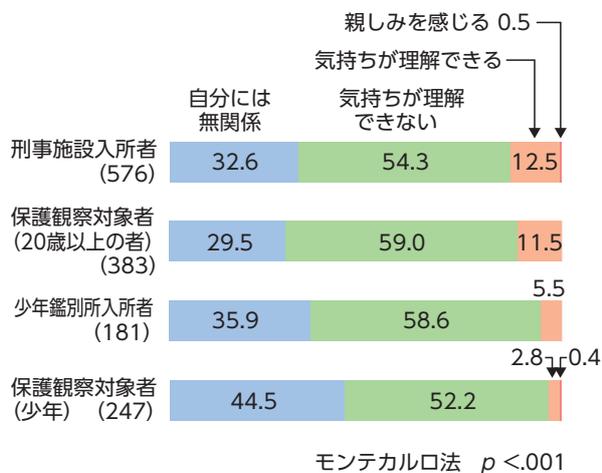
オ あなたは「暴走族」に入る人について
どう思いますか



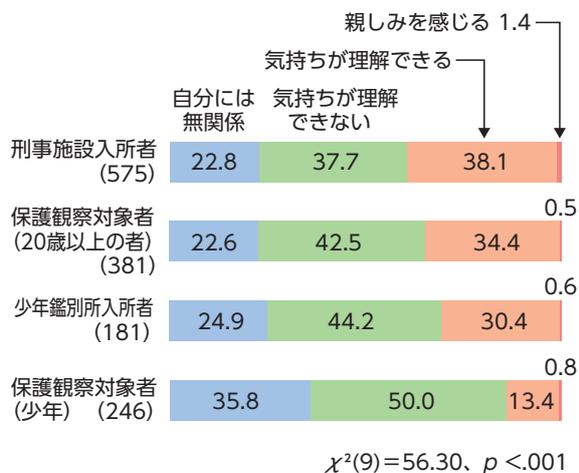
カ あなたは「暴力団」に入る人について
どう思いますか



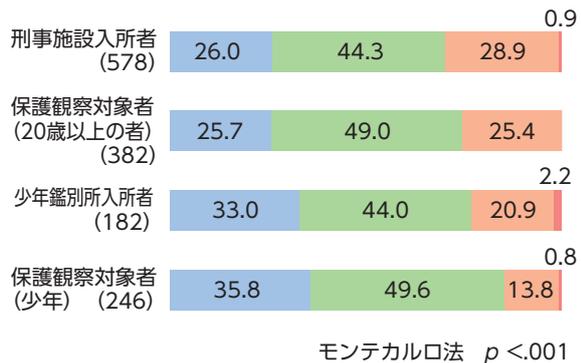
キ あなたは「ひったくり」をする人について
どう思いますか



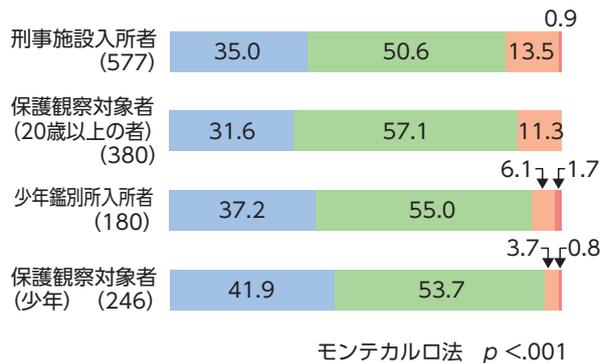
ク あなたは「盗み (ひったくりを除く)」をする人について
どう思いますか



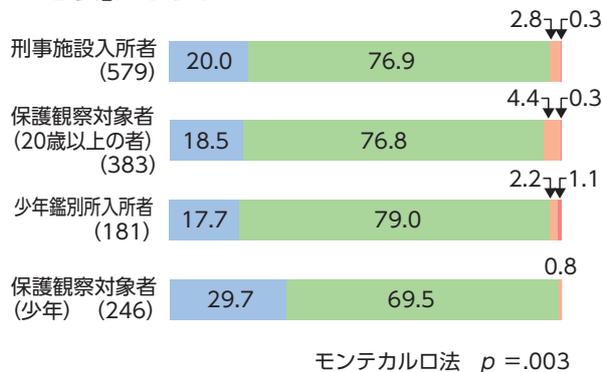
ケ あなたは「傷害」をする人について
どう思いますか



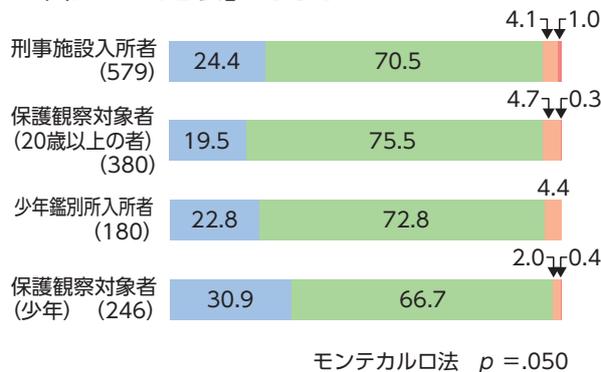
コ あなたは「特殊詐欺(いわゆるオレオレ詐欺、架空請求詐欺、
還付金等詐欺などを含む)」をする人についてどう思いますか



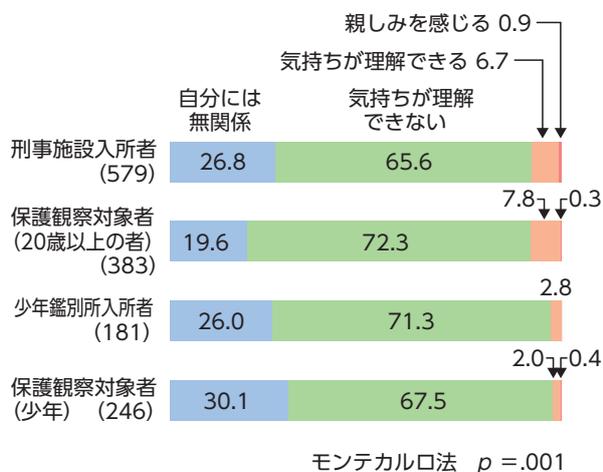
サ あなたは「児童虐待」をする人について
どう思いますか



シ あなたは「強制性交 (強姦・レイプ)」をする
人についてどう思いますか



ス あなたは「痴漢」をする人について
どう思いますか



- 注 1 法務総合研究所の調査による。
2 犯罪・非行等をする者に対する各意見が不詳の者を除く。
3 ()内は、実人員である。

(2) 犯罪者・非行少年別及び罪種別の比較

犯罪・非行等をする者に対する意見を犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを罪種別に見ると、2-11-2図のとおりである。

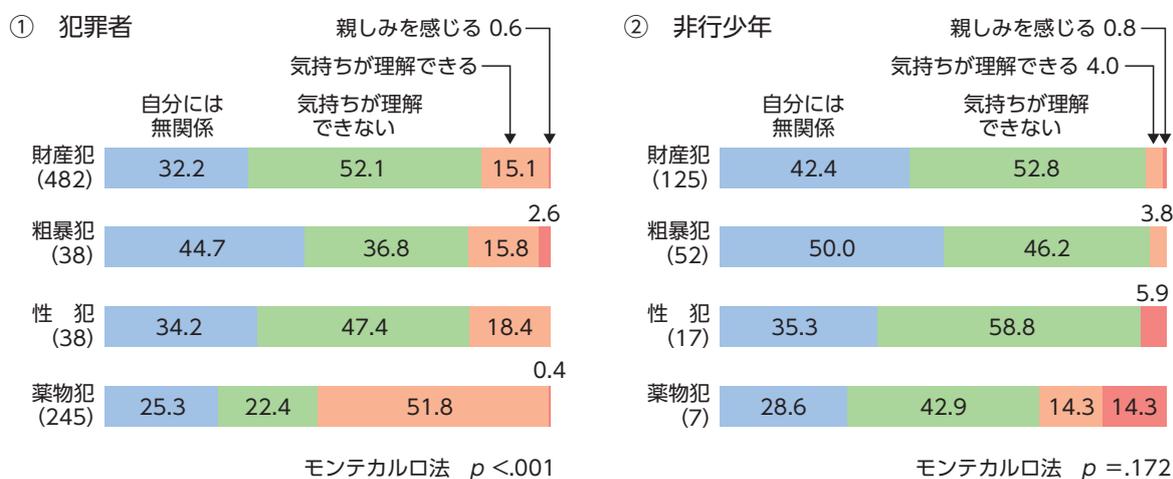
χ^2 検定を行ったところ、犯罪者では全ての項目に有意な差が認められたことから、残差分析を行った。その結果、「気持ちが理解できる」又は「親しみを感じる」のいずれかの構成比が有意に高かった項目は、財産犯（窃盗、詐欺、恐喝、横領（遺失物等横領を含む。）及び盗品等に関する罪をいう。以下同じ。）では、「ひったくり」、「盗み」及び「特殊詐欺」、粗暴犯（傷害、暴行、脅迫、凶器準備集合及び暴力行為等処罰法違反をいう。以下同じ。）では、「大麻」、「暴走族」、「暴力団」、「ひったくり」、「傷害」及び「痴漢」、性犯（強制性交等、強制わいせつ及びわいせつ文書頒布等をいう。以下同じ。）では、「児童虐待」、「強制性交」及び「痴漢」、薬物犯（麻薬及び向精神薬取締法、覚醒剤取締法並びに毒物及び劇物取締法の各違反をいう。以下同じ。）では、「シンナー」、「覚醒剤」、「大麻」、「他の違法薬物」、「暴走族」、「暴力団」及び「傷害」であった。したがって、財産犯及び性犯が犯罪・非行等をする者の気持ちに理解を示した項目は、大部分が自身の罪種と同種のものであったが、粗暴犯及び薬物犯が犯罪・非行等をする者の気持ちに理解を示した項目には、自身の罪種とは異なる犯罪に関するものも幅広く含まれていた。

一方、非行少年では、 χ^2 検定の結果、「大麻」、「他の違法薬物」、「暴力団」、「盗み」、「傷害」、

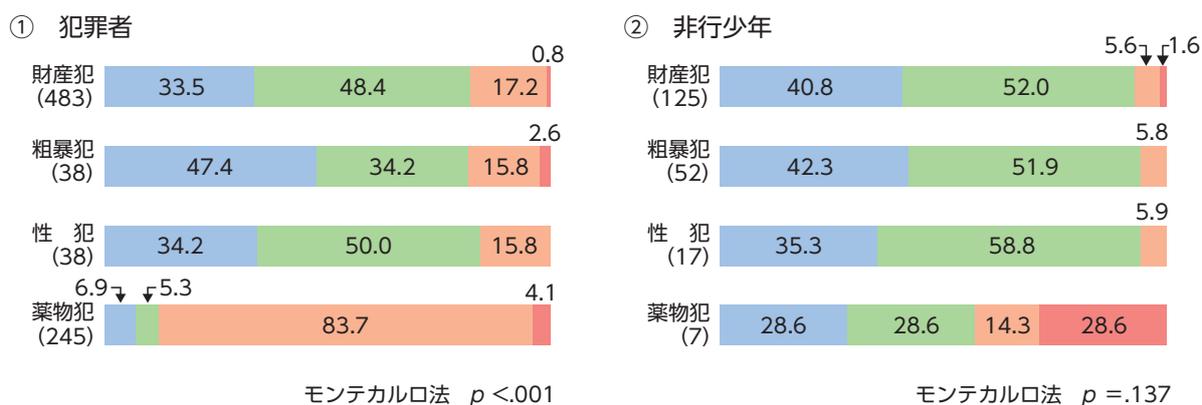
「強制性交」及び「痴漢」に有意な差が認められたことから、残差分析を行った。その結果、「気持ちができる」又は「親しみを感じる」のいずれかの構成比が有意に高かった項目は、財産犯では「盗み」、粗暴犯では「傷害」、性犯では「傷害」、「強制性交」及び「痴漢」であり、薬物犯では、上記7項目のうち、「傷害」を除く6項目であった。したがって、少年の場合、財産犯、粗暴犯及び性犯は、自身の非行種と同種の犯罪・非行等に理解を示すが、薬物犯は、自身の非行種とは異なる犯罪・非行等についても理解を示すことが示唆された。

2-11-2図 犯罪・非行等をする者に対する意見（犯罪者・非行少年別、罪種別）

ア あなたは「シンナー」を吸う人についてどう思いますか

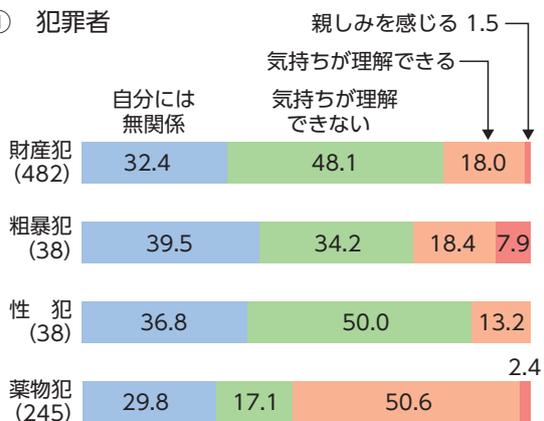


イ あなたは「覚醒剤」を使う人についてどう思いますか



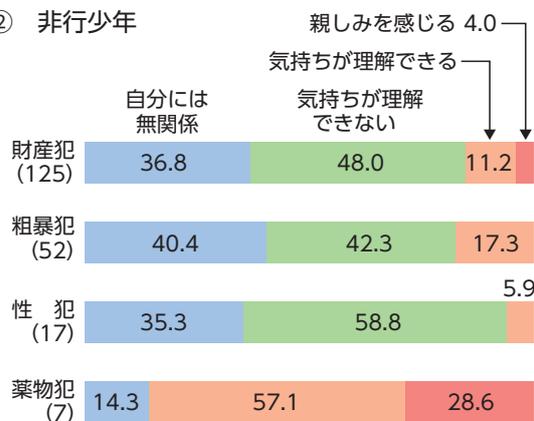
ウ あなたは「大麻」を吸う人についてどう思いますか

① 犯罪者



モンテカルロ法 $p < .001$

② 非行少年



モンテカルロ法 $p = .004$

エ あなたは「コカイン」や「MDMA (エクスタシー)」など、他の違法薬物を使う人についてどう思いますか

① 犯罪者



モンテカルロ法 $p < .001$

② 非行少年



モンテカルロ法 $p = .024$

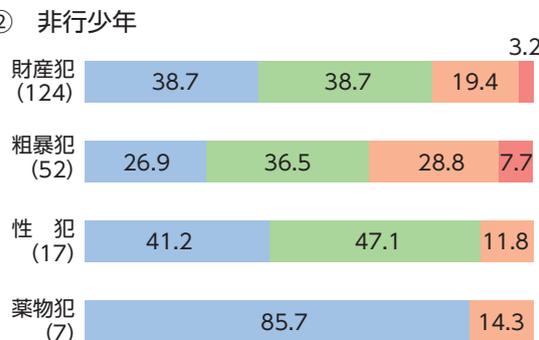
オ あなたは「暴走族」に入る人についてどう思いますか

① 犯罪者



モンテカルロ法 $p < .001$

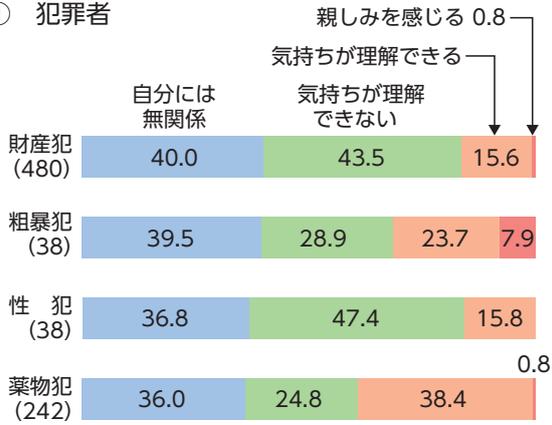
② 非行少年



モンテカルロ法 $p = .121$

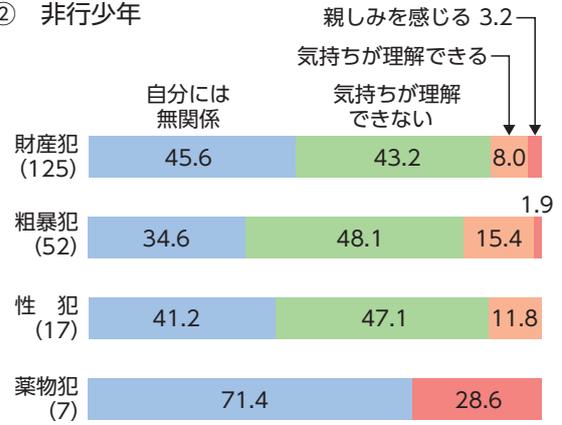
カ あなたは「暴力団」に入る人についてどう思いますか

① 犯罪者



モンテカルロ法 $p < .001$

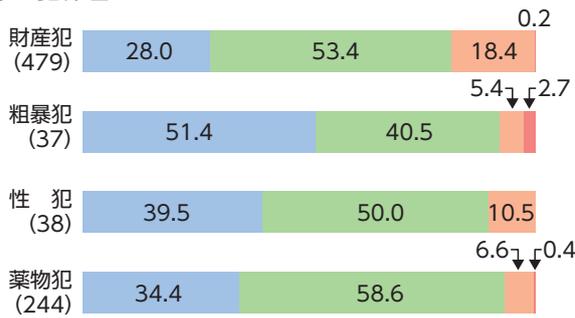
② 非行少年



モンテカルロ法 $p = .048$

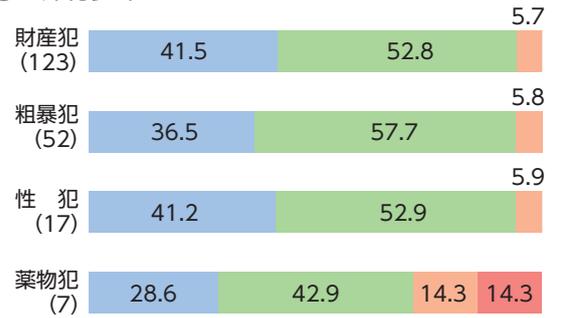
キ あなたは「ひったくり」をする人についてどう思いますか

① 犯罪者



モンテカルロ法 $p < .001$

② 非行少年



モンテカルロ法 $p = .306$

ク あなたは「盗み (ひったくりを除く)」をする人についてどう思いますか

① 犯罪者



モンテカルロ法 $p < .001$

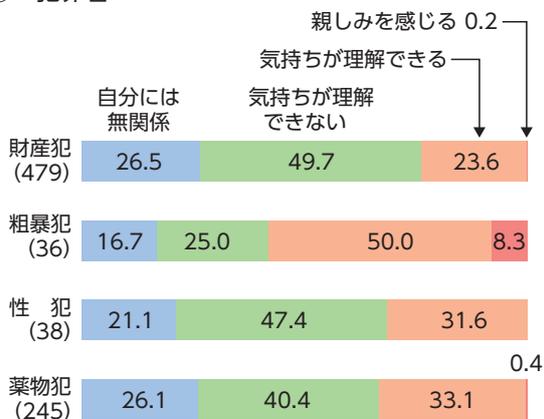
② 非行少年



モンテカルロ法 $p = .002$

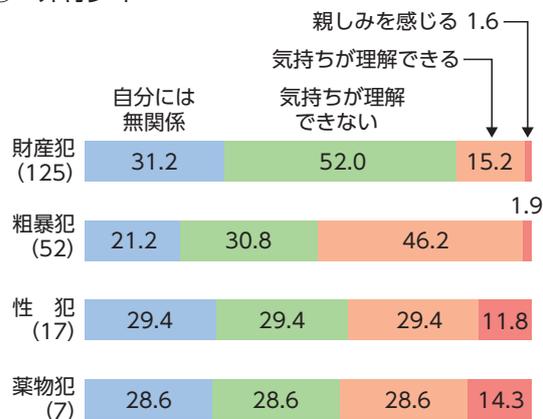
ケ あなたは「傷害」をする人についてどう思いますか

① 犯罪者



モンテカルロ法 $p < .001$

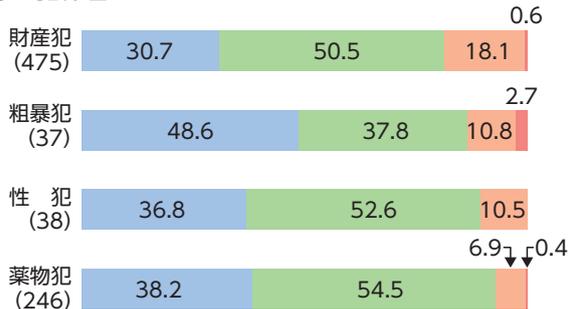
② 非行少年



モンテカルロ法 $p = .001$

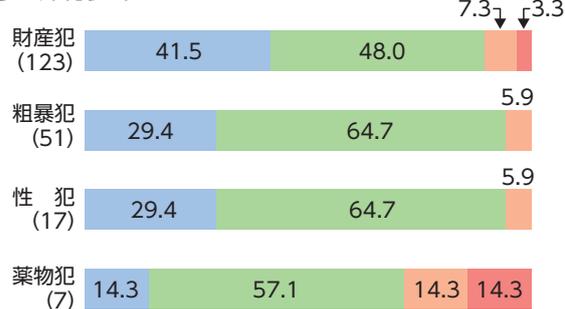
コ あなたは「特殊詐欺（いわゆるオレオレ詐欺、架空請求詐欺、還付金等詐欺などを含む）」をする人についてどう思いますか

① 犯罪者



モンテカルロ法 $p = .001$

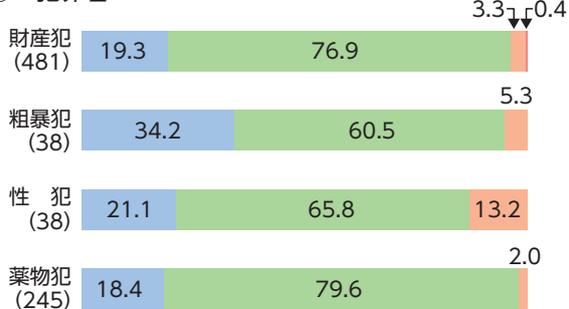
② 非行少年



モンテカルロ法 $p = .244$

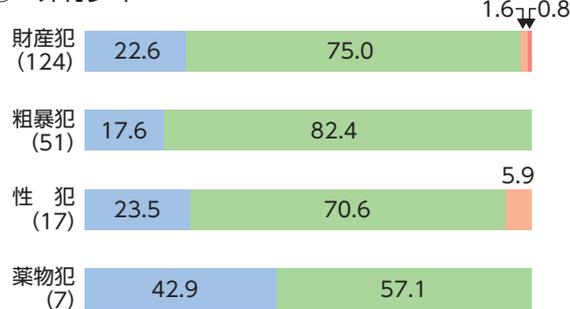
サ あなたは「児童虐待」をする人についてどう思いますか

① 犯罪者



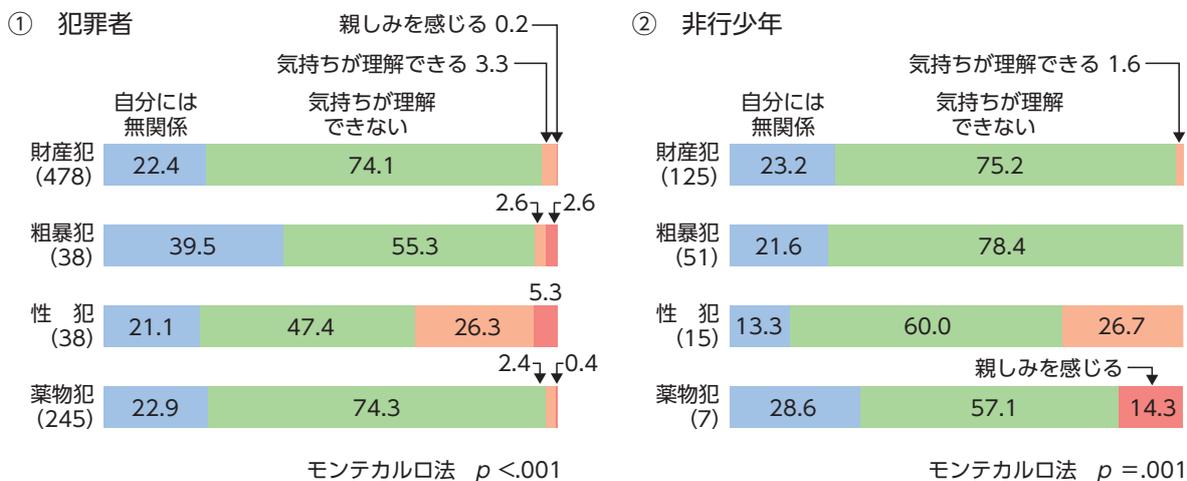
モンテカルロ法 $p = .028$

② 非行少年

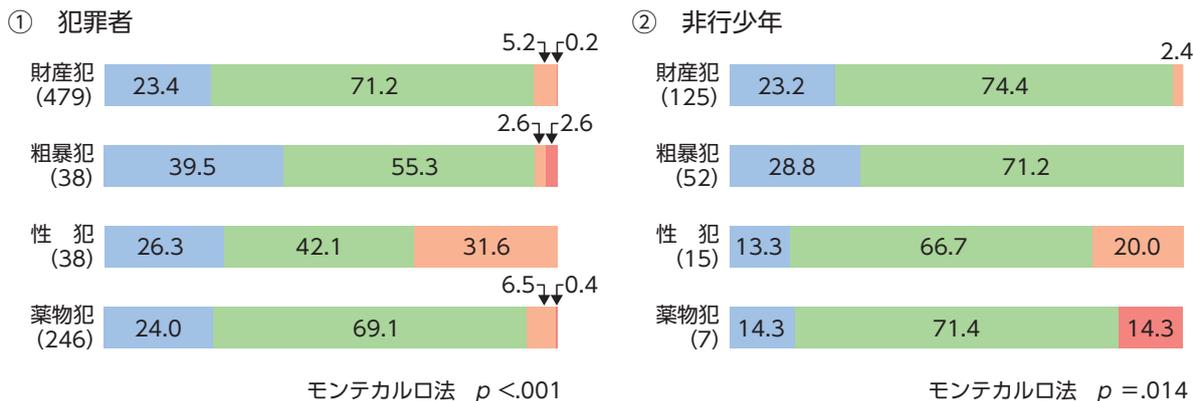


モンテカルロ法 $p = .524$

シ あなたは「強制性交（強姦・レイプ）」をする人についてどう思いますか



ス あなたは「痴漢」をする人についてどう思いますか



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 犯罪・非行等をする者に対する各意見及び罪種が不詳の者を除く。
 3 「財産犯」は、窃盗、詐欺、強盗、恐喝、横領(遺失物等横領を含む。)及び盗品等に関する罪をいう。
 4 「粗暴犯」は、傷害、暴行、脅迫、凶器準備集合及び暴力行為等処罰法違反をいう。
 5 「性犯」は、強制性交等、強制わいせつ及びわいせつ文書頒布等をいう。
 6 「薬物犯」は、麻薬及び向精神薬取締法、覚醒剤取締法並びに毒物及び劇物取締法の各違反をいう。
 7 ()内は、実人員である。

(3) 犯罪者・非行少年別及び犯罪・非行進度別の比較

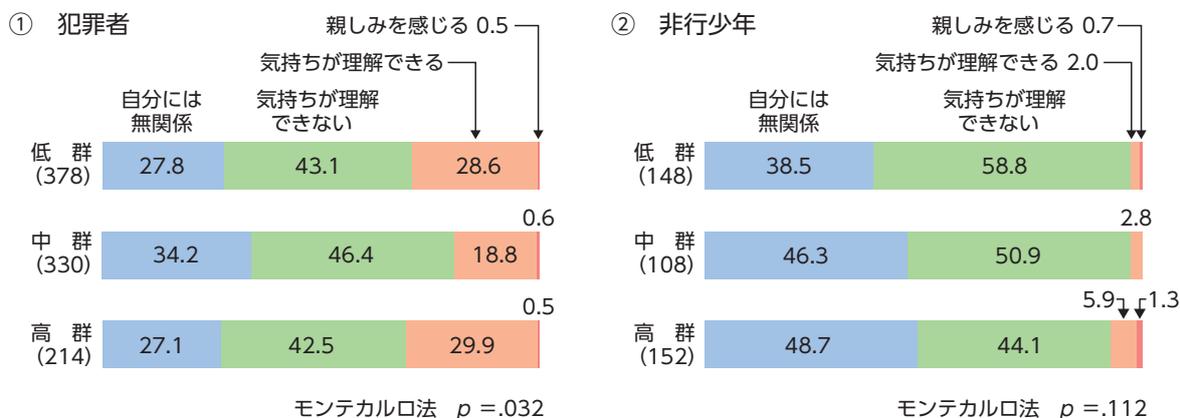
犯罪・非行等をする者に対する意見を犯罪者・非行少年別に見るとともに、これを犯罪・非行進度別に見ると、2-11-3図のとおりである。 χ^2 検定の結果、犯罪者では、「シンナー」、「覚醒剤」、「大麻」、「暴走族」、「暴力団」、「ひったくり」、「盗み」、「傷害」及び「特殊詐欺」の9項目において、有意な差が認められたことから、残差分析を行った。その結果、「気持ちが理

解できる」又は「親しみを感じる」のいずれかの構成比が有意に高かった項目は、低群では「覚醒剤」、中群では「盗み」であり、高群では、上記9項目のうち、「シンナー」及び「覚醒剤」を除く7項目であった。したがって、犯罪進捗が進んでいる者は、より幅広い犯罪・非行等に理解を示すことが示唆された。

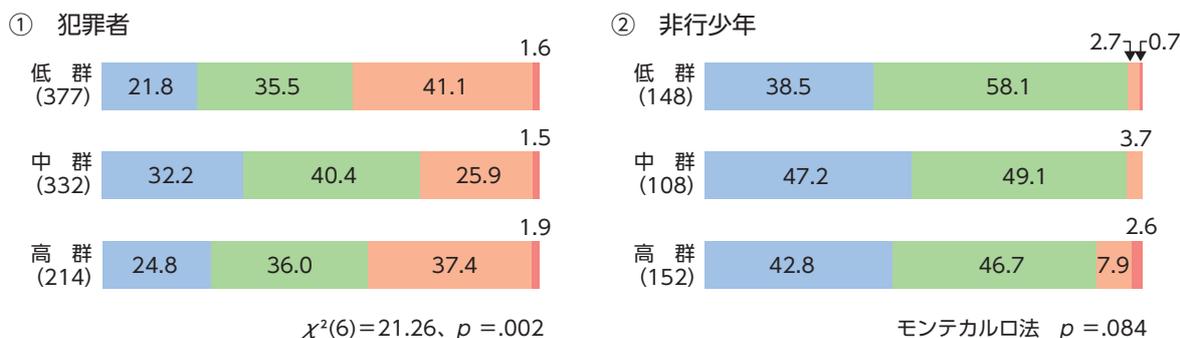
一方、非行少年では、 χ^2 検定の結果、「大麻」、「他の違法薬物」、「暴走族」、「暴力団」、「ひったくり」、「盗み」、「傷害」及び「強姦」の8項目において有意な差が認められたことから、残差分析を行った。その結果、「気持ち可以理解できる」又は「親しみを感じる」のいずれかの構成比が有意に高かった項目は、低群及び中群では該当がなく、高群では、「強姦」を除く7項目であった。したがって、非行少年においては、低・中群は犯罪・非行等をする者の気持ちに積極的に理解を示す傾向が見られないものの、高群においては、幅広い犯罪・非行等について理解を示す傾向が認められた。

2-11-3図 犯罪・非行等をする者に対する意見(犯罪者・非行少年別、犯罪・非行進捗別)

ア あなたは「シンナー」を吸う人についてどう思いますか

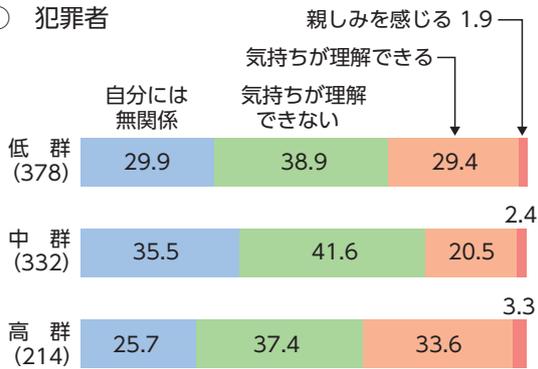


イ あなたは「覚醒剤」を使う人についてどう思いますか



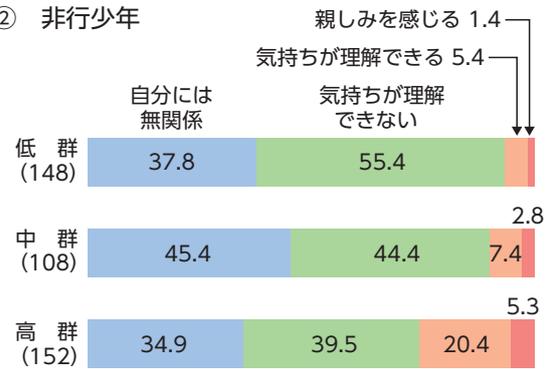
ウ あなたは「大麻」を吸う人についてどう思いますか

① 犯罪者



$\chi^2(6)=15.54, p=.016$

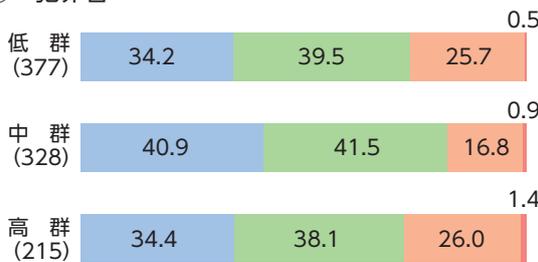
② 非行少年



モンテカルロ法 $p < .001$

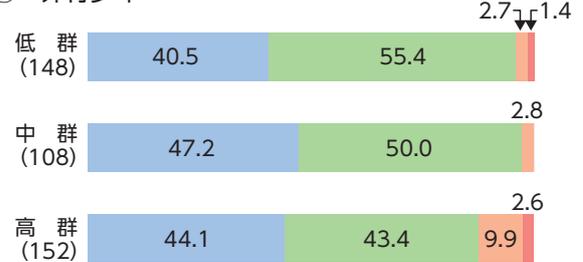
エ あなたは「コカイン」や「MDMA (エクスタシー)」など、他の違法薬物を使う人についてどう思いますか

① 犯罪者



モンテカルロ法 $p = .052$

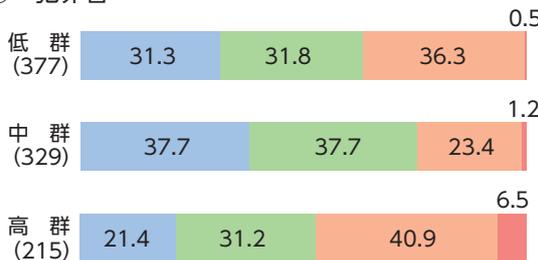
② 非行少年



モンテカルロ法 $p = .025$

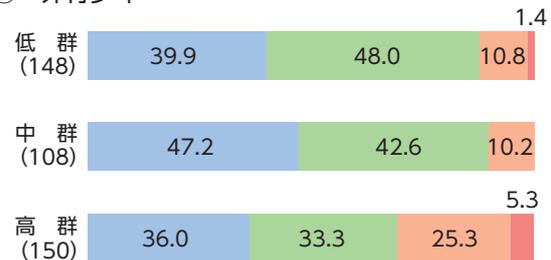
オ あなたは「暴走族」に入る人についてどう思いますか

① 犯罪者



$\chi^2(6)=52.73, p < .001$

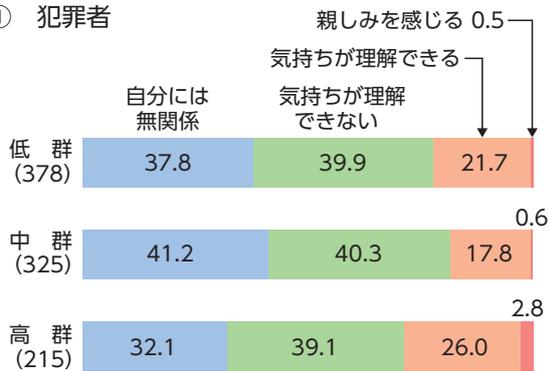
② 非行少年



モンテカルロ法 $p < .001$

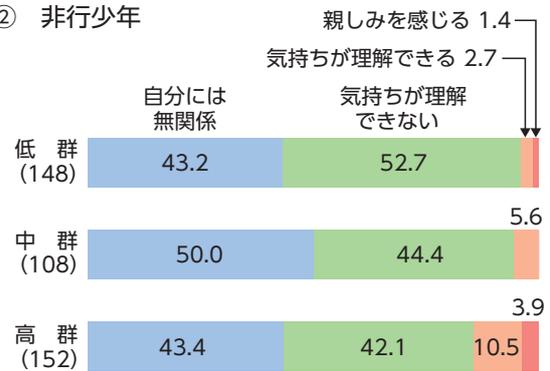
カ あなたは「暴力団」に入る人についてどう思いますか

① 犯罪者



モンテカルロ法 $p = .042$

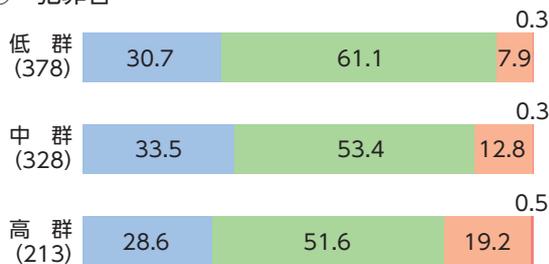
② 非行少年



モンテカルロ法 $p = .018$

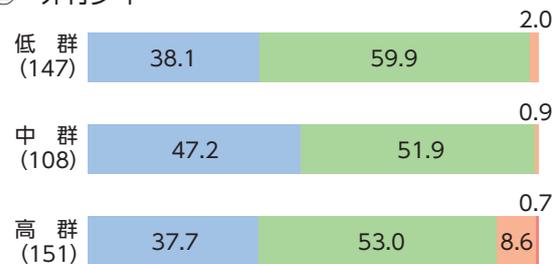
キ あなたは「ひったくり」をする人についてどう思いますか

① 犯罪者



モンテカルロ法 $p = .003$

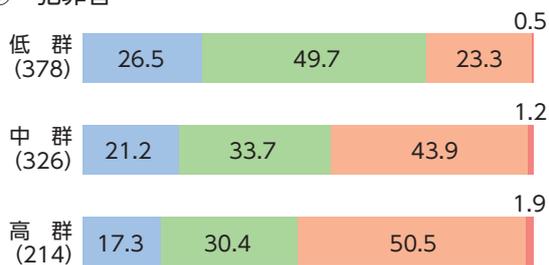
② 非行少年



モンテカルロ法 $p = .013$

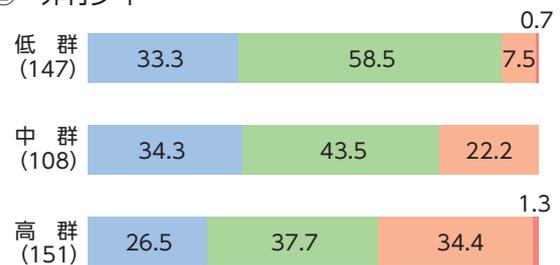
ク あなたは「盗み (ひったくりを除く)」をする人についてどう思いますか

① 犯罪者



モンテカルロ法 $p < .001$

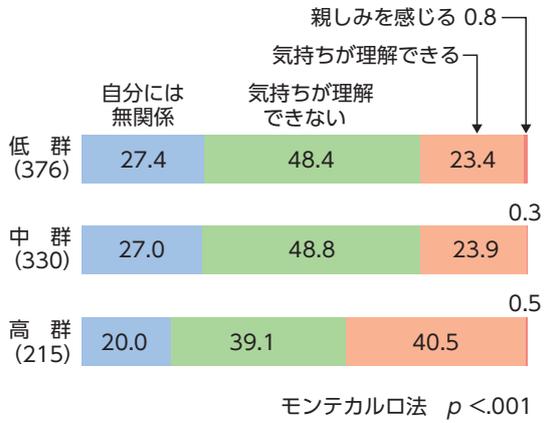
② 非行少年



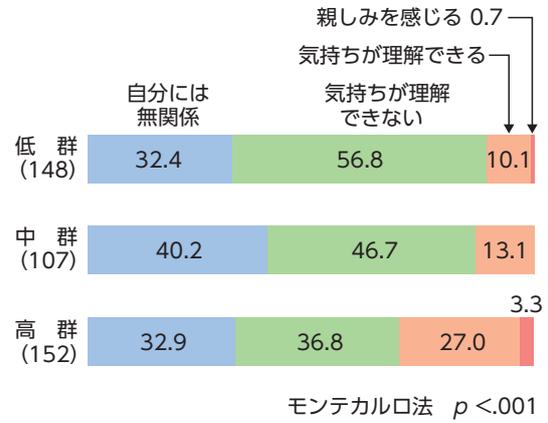
モンテカルロ法 $p < .001$

ケ あなたは「傷害」をする人についてどう思いますか

① 犯罪者

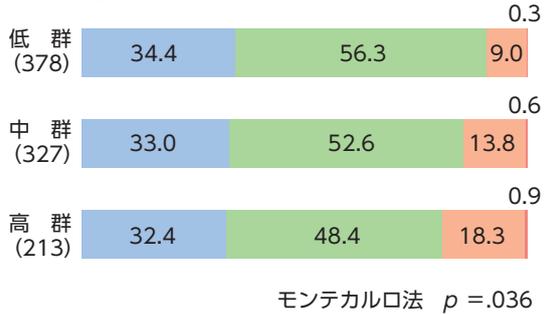


② 非行少年

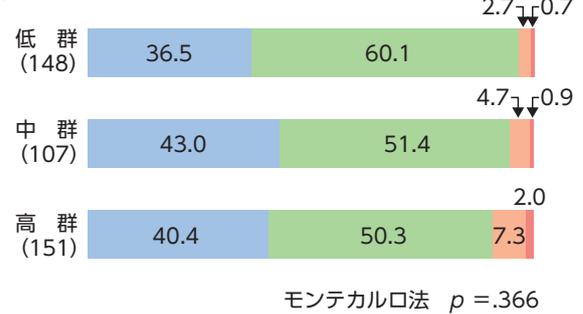


コ あなたは「特殊詐欺（いわゆるオレオレ詐欺、架空請求詐欺、還付金等詐欺などを含む）」をする人についてどう思いますか

① 犯罪者

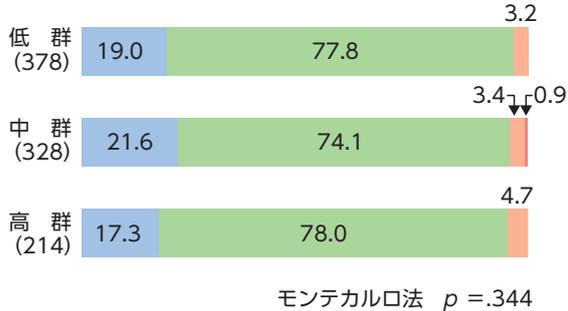


② 非行少年

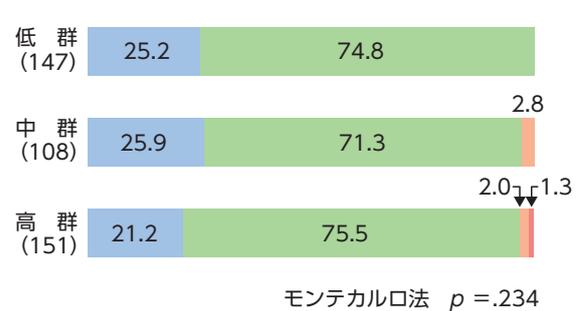


サ あなたは「児童虐待」をする人についてどう思いますか

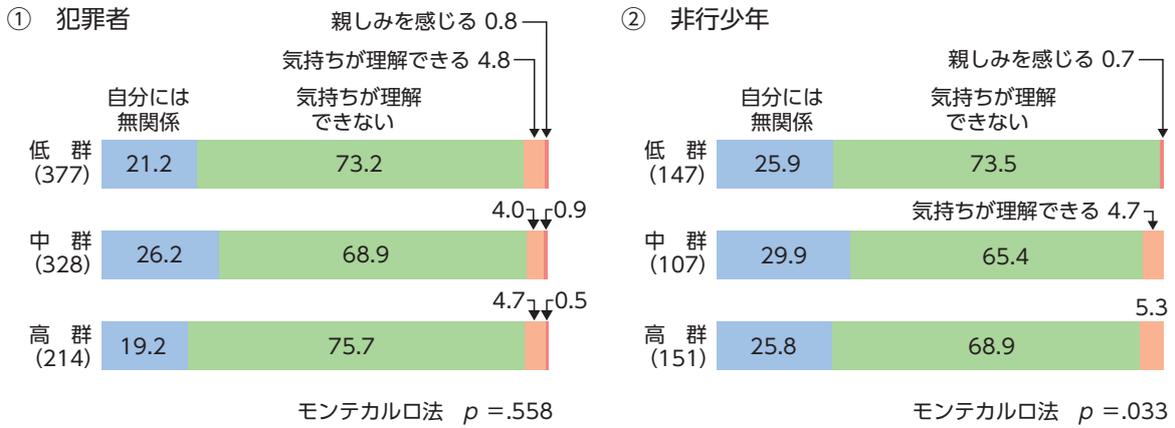
① 犯罪者



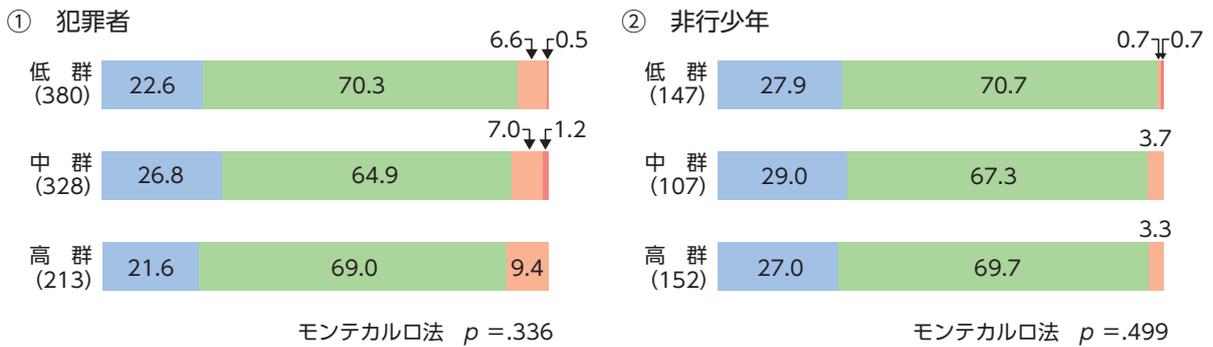
② 非行少年



シ あなたは「強制性交（強姦・レイプ）」をする人についてどう思いますか



ス あなたは「痴漢」をする人についてどう思いますか



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 犯罪・非行等をする者に対する各意見が不詳の者を除く。
 3 ()内は、実人員である。